取扱説明書

Static Balancer

スタティックバランサー

EB-200／EB-220（Ver.1.50～）

✱このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

✱正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

✱「取扱説明書」は

・１部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。

・１部を保存用として、大切に保管してください。

SAKAImed

02-029④N3

目　次

１．用途及び特長 1

２．構成 1

３．各部の名称 2

４．ご使用になる前に 3

４－１　電源について 3

４－２　環境について 3

４－３　機器の接続方法 4

４－４　パソコンの使用条件 7

４－４－１　画面領域サイズ 7

４－４－２　電源設定 8

４－４－３　プリインストールソフトウェア 8

４－４－４　データバックアップのおすすめ 9

４－５　トレーニングソフトウェア 10

４－５－１　４種類のトレーニングモード 10

４－５－２　通常モードと簡易モード 10

４－５－３　キャリブレーション 11

４－５－４　データベースファイル 11

４－５－５　トレーニング名とは 12

４－５－６　入力補助ファイル 13

４－５－７　操作説明での表記 14

４－５－８　トレーニング実施中での注意事項 16

５．基本操作 17

５－１　全体のフロー 17

５－２　起動と終了 19

５－２－１　起動手順 19

５－２－２　終了手順 22

５－３　基本機能の操作手順 23

５－３－１　簡易モードでトレーニングを行う手順 24

５－３－２　被検者を新規登録してトレーニングを行う手順 25

５－３－３　登録済み被検者を選択してトレーニングを行う手順 27

５－３－４　過去のトレーニング結果を表示する手順 29

５－３－５　統計情報を表示する手順 31

５－３－６　新たなデータベースを作成して使用する手順 33

６．機能別操作説明 35
６－１　被検者情報関連 35
６－１－１　被検者を新たに登録する 35
６－１－２　既存の被検者情報をコピーして新たに登録する 39
６－１－３　被検者情報を更新する 42
６－１－４　条件に合う被検者を検索して表示する 45
６－１－５　表示している被検者一覧を並べ替え（ソート）する 47
６－１－６　被検者一覧を印刷する 49
６－１－７　被検者情報を削除する 50
６－１－８　グループ名リストをソートして表示する 51
６－１－９　診断名リストボックスをソートして表示する 53
６－２　トレーニング関連 55
６－２－１　トレーニング条件を設定する 55
６－２－１－１　部分負荷トレーニング・割合の条件 55
６－２－１－２　部分負荷トレーニング・荷重の条件 58
６－２－１－３　バランストレーニング・指針の条件 61
６－２－１－４　バランストレーニング・軌跡の条件 63
６－２－２　体重を測定する 65
６－２－３　過去のトレーニング条件をコピーする 67
６－２－４　登録してあるトレーニングパターンから条件をコピーする 68
６－２－５　トレーニング時操作方法 69
６－２－６　トレーニングウィンドウの表示説明 72
６－２－６－１　部分負荷トレーニング・割合の表示説明 72
６－２－６－２　部分負荷トレーニング・荷重の表示説明 74
６－２－６－３　バランストレーニング・指針の表示説明 76
６－２－６－４　バランストレーニング・軌跡の表示説明 77
６－２－７　警告音・終了音を出す／出さない 78
６－２－８　トレーニング時間表示をする／しない 80
６－２－９　バランストレーニングで表示スケールを変更する 82
６－２－１０　部分負荷トレーニングで上下限値のチェックをする／しない 85
６－２－１１　担当者リストをソートして表示する 87
６－２－１２　トレーニングパターンの表示順（名称順／登録順）を設定する 89
６－２－１３　トレーニングパターンを登録する 91
６－２－１４　トレーニングパターンを削除する 92
６－３　トレーニングデータ表示関連 93
６－３－１　トレーニング結果を表示・印刷する 93
６－３－２　統計情報を表示・印刷する 98
６－３－３　トレーニングモード・トレーニング名で絞り込み統計情報を表示する 102
６－３－４　被検者情報とトレーニング履歴を印刷する 104

６－３－５　トレーニングデータを削除する 105
６－３－６　トレーニングデータをＣＳＶファイル（テキストファイル）に出力する 106
６－３－７　トレーニングデータのトレーニング名を変更する 108
６－３－８　時間変化グラフを操作して拡大・縮小・スクロールする 109
６－３－９　時間変化グラフの表示モードを変更して全データ点を表示する 111
６－３－１０　グラフのインタラクティブ操作（部分拡大・回転等） 113
６－４　印刷関連 114
６－４－１　印刷プレビューを表示せずに印刷する 114
６－４－２　ヘッダーとフッターに任意の文字列を設定する 115
６－４－３　印刷モード（カラー、モノクロ）を指定する 116
６－４－４　印刷内容を PDF ファイルに出力する 117
６－５　その他の機能 119
６－５－１　キャリブレーションをやり直す 119
６－５－２　トレーニング名の設定を変更して表示する名称を変える 121
６－５－３　トレーニング名の一覧をテキストファイルに出力する 122
６－５－４　トレーニング名の設定をテキストファイルから入力し一括して変更する 124
６－５－５　入力補助ファイルを編集する 127
６－５－６　入力補助ファイル編集エディターを変更する 128
６－５－７　次回の起動モード（通常モード／簡易モード）を設定する 129
６－５－８　荷重センサーを調整する 131
７．データベース 132
７－１　データベースユーティリティ 132
８．テキストファイル形式 135
８－１　トレーニングデータＣＳＶファイル形式 135
８－２　入力補助ファイル形式 137
８－３　トレーニング名一覧入出力ファイル形式 138
９．手すりセット（オプション）の利用方法 139
１０．使用上の注意 141
１１．お手入れの仕方 142
１２．ソフトウェアのインストール手順 143
１３．このようなときには 144
１４．機器の保守・点検 146
１５．保証とアフターサービス 147
１６．仕様 148

＊Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Olectra Chart

Copyright(C) APEX Software Corporation

ActiveReports

Copyright(C) 1998 DataDynamics,Ltd.

VB SourceBook

Copyright(C) 1996-99 FMS,Inc.

１．用途及び特長

● 用途

本装置は静的状態で体重部分負荷トレーニング・バランストレーニングをすることを目的としています。

● 特長

部分負荷トレーニング・バランストレーニング各々２種類、計４種類のトレーニングモードを備えています。
部分負荷トレーニングは、左右下肢への負荷を調整するトレーニングを行います。
バランストレーニングは、左右下肢荷重の均衡状態を保つトレーニングを行います。

２．構成

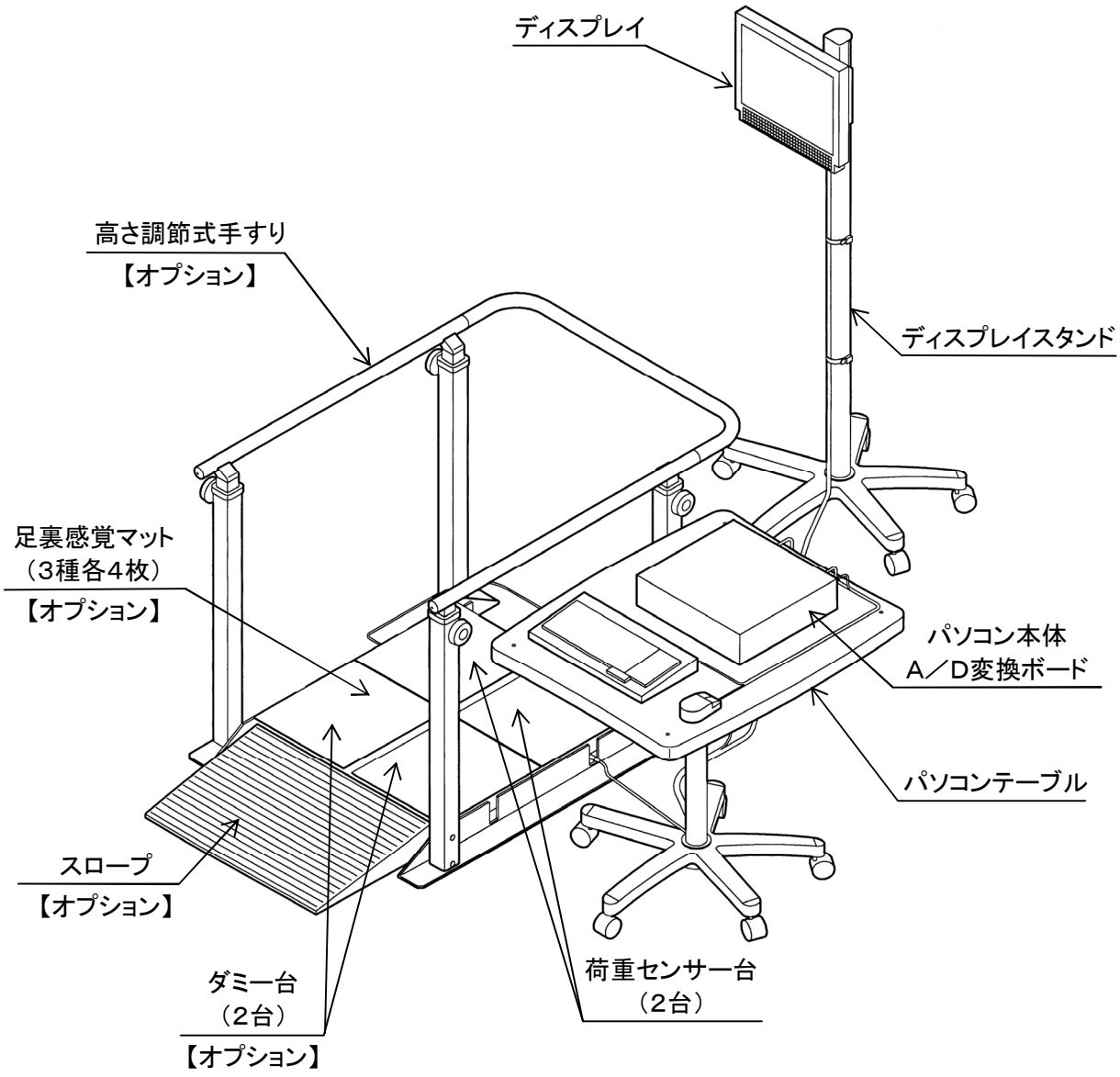
スタティックバランサー　EB-200

- 荷重センサー台 ---------- １セット
  接続ケーブル付属
- デスクトップパソコン ---------- １セット
  A/D 変換ボード、ソフトウェア内蔵
  ディスプレイ、キーボード、マウス付属
- スタンドセット ---------- １セット
  ディスプレイスタンド、パソコンテーブル

（オプション）
手すりセット　EB-220

- 高さ調整式手すり ---------- １セット
- 足裏感覚マット ---------- 3 種各４枚
- ダミー台 ---------- ２
- スロープ ---------- １

３．各部の名称


ディスプレイ
高さ調節式手すり
【オプション】
ディスプレイスタンド
足裏感覚マット
（3種各4枚）
【オプション】
パソコン本体
A／D変換ボード
パソコンテーブル
スロープ
【オプション】
ダミー台
（2台）
【オプション】
荷重センサー台
（2台）

４．ご使用になる前に

ご使用になる前に必ず付属の使用許諾契約書をよくお読みください。お客様がスタティックバランサーを使用した場合には、使用許諾契約書の内容に同意していただいたものとなります。

４－１　電源について

- 必ずアース付きコンセントを使用してください。
- たこ足配線をしないでください。
- 荷重センサー台への電力供給はパソコン本体から行います。

⚠ 注意

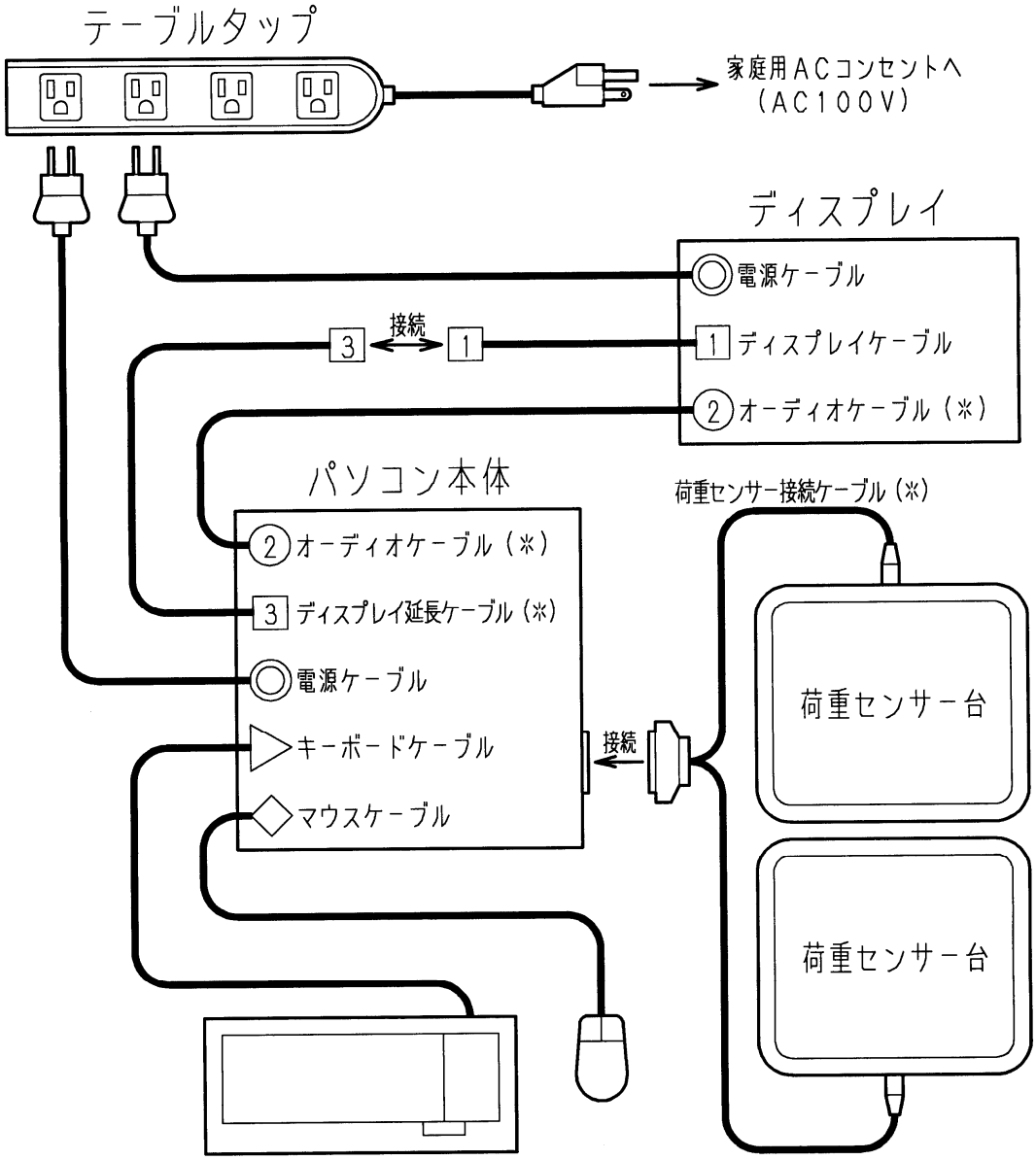
パソコン添付の説明書に記載された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。機器の故障、誤作動及び火災の原因となります。

４－２　環境について

下記の様な場所でのご使用は避けてください。

- 周囲温度が１０℃～３５℃以外のところ。
- 湿気、ほこりの多いところ。
- 振動、衝撃の多いところ。
- 日光の当たるところ。
- 水のかかるところ。

４－３　機器の接続方法

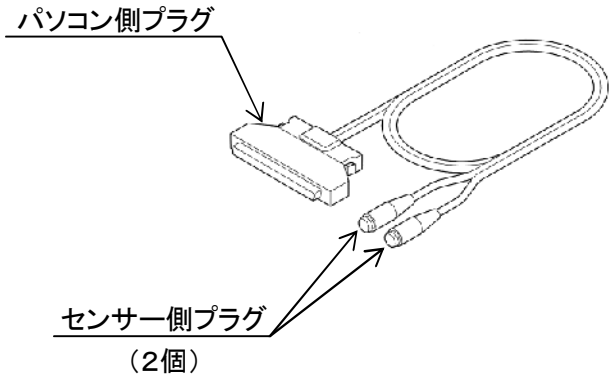


※ケーブル名に（※）印がついているものは、本製品の付属品です。
　その他のケーブルは、パソコンに付属しているケーブルをご使用ください。
※各ケーブルの接続方法についての説明は、次頁にも掲載してありますので、合わせてご覧ください。

《各ケーブルの接続方法》

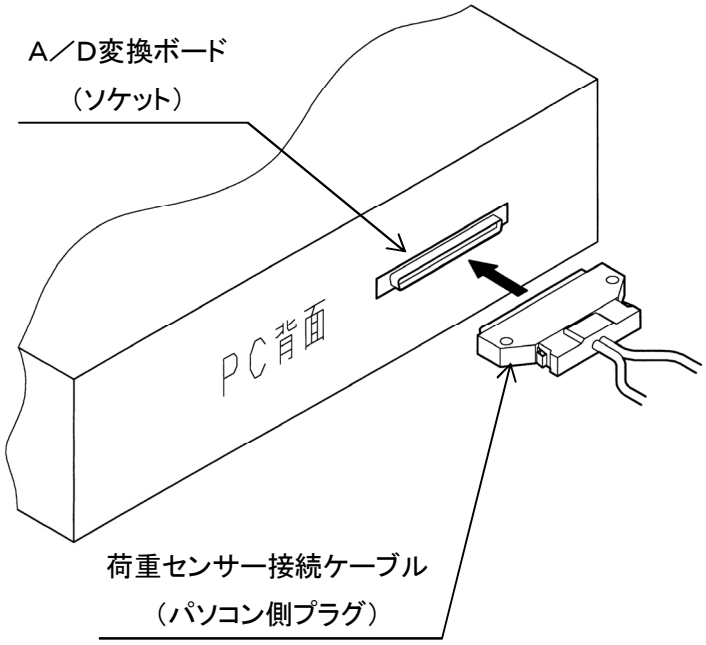
● **荷重センサー接続ケーブル**

荷重センサー接続ケーブルの先端には、パソコン側プラグとセンサー側プラグがついています。

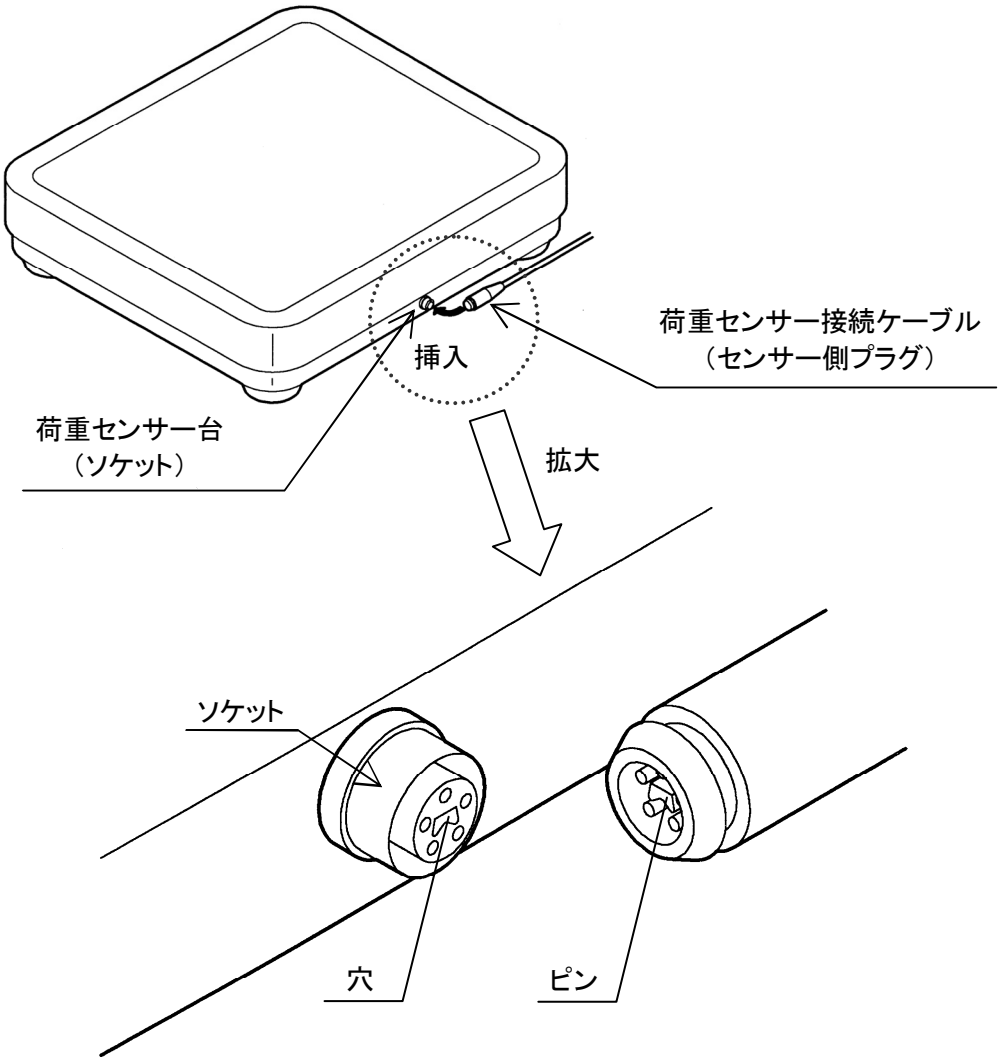


【パソコン側プラグ】

荷重センサー接続ケーブルのパソコン側プラグを、A／D変換ボードのソケットに差し込んでください。A／D変換ボードは、工場出荷時にパソコン本体のＰＣＩバススロットに実装されています。



【センサー側プラグ】
荷重センサー接続ケーブルのセンサー側プラグ（左右固定）を、左右を確認して荷重センサー台の側面についているソケットに各々差し込んでください。



ピンと穴の向きを確認して、挿入してください。

４－４　パソコンの使用条件

Microsoft との契約により、他のソフトウェアをインストールしたり使用することはできません。また誤動作の原因になる場合がありますので、パソコンの設定を変えたりしないでください。

４－４－１　画面領域サイズ

パソコンの画面領域サイズは 1024×768 ピクセルにしてください（本製品出荷時に設定済みです）。
画面のプロパティ（コントロールパネルから開くことが出来ます）で参照／設定出来ます。

４－４－２　電源設定

電源の設定での「モニタ／ハードディスク電源断までの時間」はトレーニング時間（最長６０分）より長くしてください。「システムスタンバイ／システム休止状態までの時間」は「なし（スタンバイにならない）」にしてください（共に本製品出荷時に設定済みです）。
電源オプションのプロパティ（コントロールパネルから開くことが出来ます）で参照／設定出来ます。

４－４－３　プリインストールソフトウェア

プリインストールしたソフトウェアをお客様の都合で他のパソコンにインストールされた場合のサポートは致しかねますので、ご了承ください。

４－４－４　データバックアップのおすすめ

データのバックアップはお客様の責任で行ってください。デフォルトのインストールフォルダ（C:¥Program Files¥StaticBalancer）にインストールした場合、対象ファイルは以下の通りです。

○　データベースファイル

C:¥Program Files¥StaticBalancer¥data¥rdb¥lld.sb3
その他お客様自身で作成したデータベースファイル

○　入力補助ファイル

C:¥Program Files¥StaticBalancer¥data¥charge.txt
C:¥Program Files¥StaticBalancer¥data¥diagnosis.txt
C:¥Program Files¥StaticBalancer¥data¥group.txt

○　その他お客様自身で作成した保存すべきファイル

４－５　トレーニングソフトウェア

４－５－１　４種類のトレーニングモード

○　部分負荷トレーニング

左右下肢のそれぞれについて荷重目標範囲を設定し、下肢毎の荷重がその範囲内に収まるようにトレーニングを行います。目標範囲の設定により以下の２モードがあります。

- **部分負荷トレーニング・割合**----- 体重に対する割合［%］
- **部分負荷トレーニング・荷重**----- 荷重値［ｋｇ］

○　バランストレーニング

左右下肢の荷重から計算される重心位置[1]の中心（左右均衡状態）からの動揺目標範囲を設定し、重心位置がその範囲に収まるようにトレーニングを行います。重心位置の軌跡表示有無により以下の２モードがあります。

- **バランストレーニング・指針**----- 軌跡表示せずに指針のみ表示
- **バランストレーニング・軌跡**----- 軌跡表示を行う

４－５－２　通常モードと簡易モード

通常モードはその名の通り本ソフトウェアの通常機能を提供するものです。
利用手順は、まず被検者情報登録を行い、次にトレーニングを行う被検者を特定してトレーニングモード選択・条件設定をした後、トレーニングを実施します。
トレーニング結果はトレーニング直後あるいは後の任意の時点に表示・印刷等が可能です。また複数のトレーニング結果から簡単な統計情報の表示・印刷等も可能です。
被検者情報、トレーニング条件・結果といったデータは全て専用のデータベースに格納されます。

簡易モードは簡単な操作でトレーニングのみを行う機能を提供するもので、トレーニングモード・条件は最後に簡易モードでトレーニングした状態のまま起動されます。このためトレーニング条件を変更しないのであれば最少の操作でトレーニングを開始できます。このモードではデータベースを使用せず、トレーニング結果を保存しない為、被検者の特定・結果表示・印刷等の機能はありません。

---

[1] 本システムでの「重心」とは、左右の荷重センサー台で検出する足底圧の垂直作用力の左右バランスを示します。即ち水平面内の足圧中心を表す座標でＸ軸（左右方向）の成分のみを表しています。

両モードの選択はソフトウェア起動時に行います。ソフトウェア起動中でのモードの切り替えは出来ません。一度終了してソフトウェアを再起動する必要があります。

４－５－３　キャリブレーション

キャリブレーションは荷重センサーのゼロ点調整です。荷重センサー台に被検者が乗っていない状態、即ちマット等のみを載せた状態での荷重センサーからの入力値を測定し、記憶しておきます。これがゼロ点になります。
荷重センサー台に被検者が乗っている場合、

被検者の体重分の値 ＝ 荷重センサーからの入力値 － ゼロ点での値

となり、これから荷重センサーにかかる荷重を計算することができます。

この為、キャリブレーションが適切になされないと計測を正しく行うことができません。キャリブレーション実行中に荷重センサー台に物を載せたり、触ったり、振動を与えたりした場合はキャリブレーションをやり直す必要があります。

キャリブレーションはソフトウェアを起動してトレーニングを行う前に必ず実行する必要があります。通常は一度実行すればマットを載せかえる等しない限り再度キャリブレーションをし直す必要はありません。しかし時間経過とともに温度等の影響で電気的特性が若干変化することがありますので、ソフトウェアを終了せずにおく場合には一時間に一度は再キャリブレーションすることをお勧めします。

４－５－４　データベースファイル

通常モードでは、被検者情報およびトレーニングの条件やデータは専用のデータベースファイル（DB ファイル）に格納されます。
DB ファイルは、ソフトウェア起動時にファイル選択して開きます（起動後に他の DB ファイルに切り替えることも可能です）。被検者情報を登録したり、トレーニングを行ったりするとデータは自動的に開いている DB ファイルに書き込まれますのでデータ保存の為の特別な操作は必要ありません。

DB ファイルは任意に作成可能です。作成基準は自由にお決めください。例えば、グループ毎・担当者毎・期間毎などです。また、DB ファイル間でのデータのコピー・移動ができますので現役被検者用の DB ファイルと非現役被検者用の DB ファイルとを作成しておき、非現役になった時点でデータを移すといった使いかた

も可能です。作成する DB ファイル名は任意で、作成後に変更することも可能です。作成フォルダも任意ですが、バックアップの容易さという観点からデフォルトフォルダか、あるいはその下位フォルダを使用することをお勧めします。

本製品出荷時では操作練習用にお使いいただけるサンプルデータを格納した DB ファイル（ファイル名：Sample.sb3）とデフォルト DB ファイル（ファイル指定せずにソフトウェアを起動した場合に読み込む DB ファイル　ファイル名：lld.sb3）がインストールされています。

４－５－５　トレーニング名とは

以下に説明いたします「トレーニング名」を使用しなくともトレーニングの実施やトレーニング結果を表示したりすることになんら問題はありません。不要でしたらこの機能を使用せずに（「トレーニング名なし」を選択して）お使いください。

本トレーニングソフトウェアには、トレーニングデータから得られるいくつかの基本的な統計情報（荷重データの標準偏差、目標達成率、etc）を時系列に表示・グラフ化する機能があり、それらの推移を見ることによりトレーニングの効果を感覚的に推し量ることが出来るように意図しています[1]。そこで、異なる目的・条件下で実施したトレーニング結果から**表示したい対象を特定するため**にトレーニング毎に「トレーニング名」を付与してグループ化することができます。統計情報表示の際にはそれをキーの一つとして対象を選別することが出来ます。

グループ化の基準は自由に決めていただいて結構です。例えば、

- トレーニング条件（下肢位置、被検者の状態、トレーニング期間 etc）
- トレーニング目的（リハビリの種類 etc）

などです。

「トレーニング名」はトレーニング実施後に変更することができますので条件設定時には［トレーニング名なし］を選択しておき後で変更する、という方法も可能です。
また、トレーニング名は DB ファイル毎に３６通り定義可能で、初期状態での名称は［トレーニング名１］～［トレーニング名３６］となっています。**名称はお客様自身で変更が可能**です。

[1] 表示する統計情報はあくまでも一般的且つ基本的な統計数値です。その結果の解釈についてはお客様自身でご判断ください。

４－５－６　入力補助ファイル

以下に説明いたします「入力補助ファイル」を使用しなくともソフトウェアの機能上なんら問題はありません。不要でしたらこの機能を使用せずにお使いください。

入力補助ファイルは以下の情報を入力する際にキー入力の手間を省くためにファイル内容を一覧表示して、そこから項目を選択できるようにするために用います。

- 担当者名（トレーニングを実施される担当者のお名前）
- グループ（被検者の方を識別する（所属する）グループ名）
- 診断（被検者の診断名等）

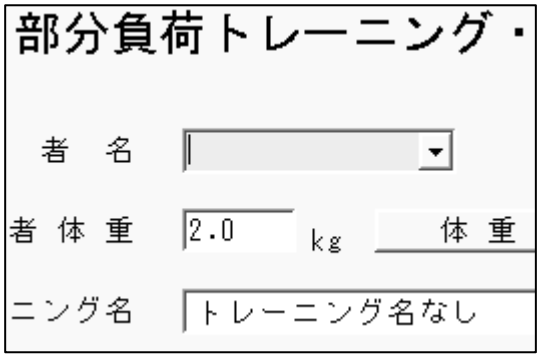
これらはテキスト形式のファイルですので簡単に設定でき、且つ他のシステムで使用している情報の移植も容易です。テキスト１行に１情報を記述します。
表示する順番は

- 記述した内容順に表示
- ソートして表示

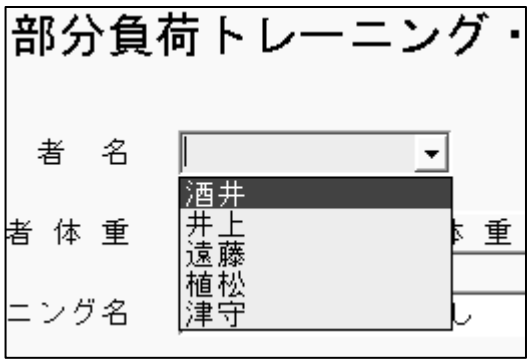
の２通りから選択できます。

例：担当者の場合

○ 入力補助ファイル使用しない場合
（キー入力が必要）



○ 入力補助ファイル使用した場合
（一覧から選択あるいはキー入力する）



関連 **【６－５－５　入力補助ファイルを編集する】【８－２　入力補助ファイル形式】【６－１－８　グループ名リストをソートして表示する】【６－１－９　診断名リストボックスをソートして表示する】【６－２－１１　担当者リストをソートして表示する】**

４－５－７　操作説明での表記

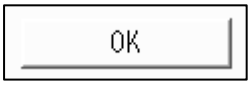
○　キーボードのキー押下
“ [キー名]押下 ” のように表記します。
同時に複数キー押下の場合、“ [キー名]＋[キー名]押下 ” のように表記します。
例：エンターKey 押下の場合 [Enter]押下、
タブ Key とエンターKey を同時に押下する場合 [Tab]＋[Enter]押下

○　クリック
特に記述しない限りマウスの左ボタンのクリックを示します（＝左クリック）。

○　コマンドボタン操作
コマンドボタンを操作するには通常いくつか方法があります。

- マウスでクリックする
- [Tab]（あるいは[Shift]＋[Tab]）押下してボタンを選択状態にし、[Space]あるいは[Enter]押下する
- [Alt]＋コマンドキー（括弧内の英数字；下記例［継続］の場合は“ C ”）押下する

このマニュアルではクリックする方法のみで説明します。
下の様な文字表示コマンドボタンの場合それぞれ、**［OK］**ボタンクリック、**［継続(C)］**ボタンクリックと表記します。なお、半角カナ文字の場合でも全角カナ文字で表記します。



○　ウィンドウ名称

ウィンドウ名称は“「ウィンドウ名」ウィンドウ”のように表記します。
ウィンドウ名は大抵 Window の左上に表示されていますが、表示の無い Window に関してはその意味するところの名称で示します。なお、半角カナ文字の場合でも全角カナ文字で表記します。

例：

Window 左上の表示	**ウィンドウ名称**
StaticBalancer - [被検者情報／個人情報]	「個人情報」ウィンドウ
無し	「タイトル」ウィンドウ　等

○　メニュー操作

メニューの操作は“ メニュー［項目］-［項目］”のように表記します。メニューを辿ることにより表示される Window についても同様に表記します。なお、半角カナ文字の場合でも全角カナ文字で表記します。

○　入力条件での全角 N 文字、半角ｎ文字の表記について

全角 N 文字　　全角１文字は半角２文字に相当します。全て全角文字、全て半角文字、あるいは全角半角混在でも全角相当の文字数が合えば入力できます。

半角ｎ文字　　半角文字のみ入力できます。

４－５－８　トレーニング実施中での注意事項

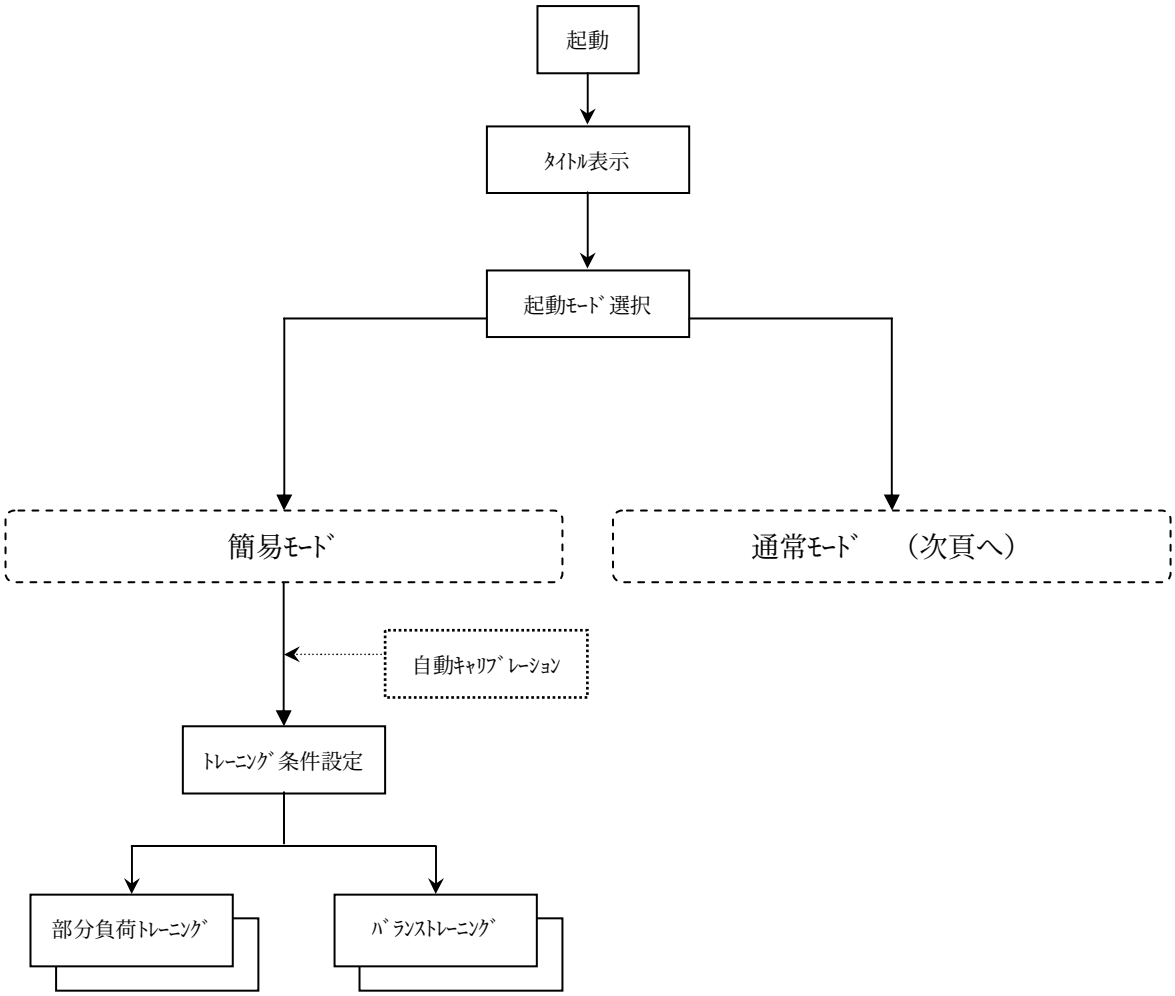
「トレーニング」ウィンドウでトレーニング実施中では、
荷重センサー台からのデータサンプリング精度低下やデータ読込みから表示までの反応速度低下等が起こりえますので以下のような使い方は避けてください。

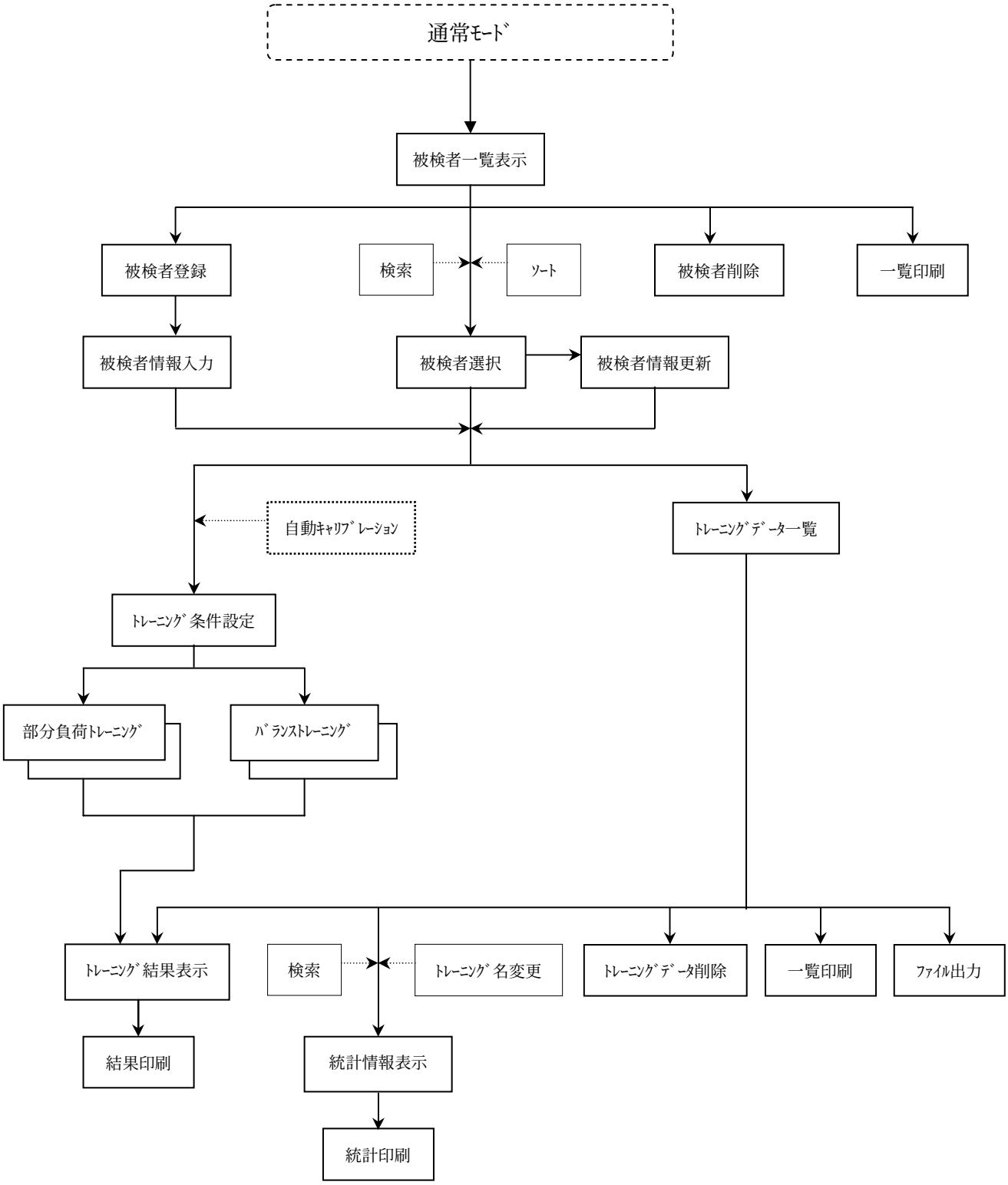
- CPU に高負荷のかかるソフトウェアの同時実行
- メモリを大量に消費するソフトウェアの同時実行
- 他の（起動に時間がかかるような）ソフトウェアの起動
- 本ソフトウェアの Window サイズ変更、最小化　etc

本ソフトウェア以外のソフトウェアを終了させた状態でトレーニングを行うのが望ましいです。

５．基本操作

５－１　全体のフロー




通常ﾓｰﾄﾞ
被検者一覧表示
被検者登録
検索
ｿｰﾄ
被検者削除
一覧印刷
被検者情報入力
被検者選択
被検者情報更新
自動ｷｬﾘﾌﾞﾚｰｼｮﾝ
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾃﾞｰﾀ一覧
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ条件設定
部分負荷ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ
ﾊﾞﾗﾝｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ結果表示
検索
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ名変更
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾃﾞｰﾀ削除
一覧印刷
ﾌｧｲﾙ出力
結果印刷
統計情報表示
統計印刷

５－２　起動と終了

５－２－１　起動手順

（1）Windows を起動しユーザー名：StaticBalancer でログオンします[1]。

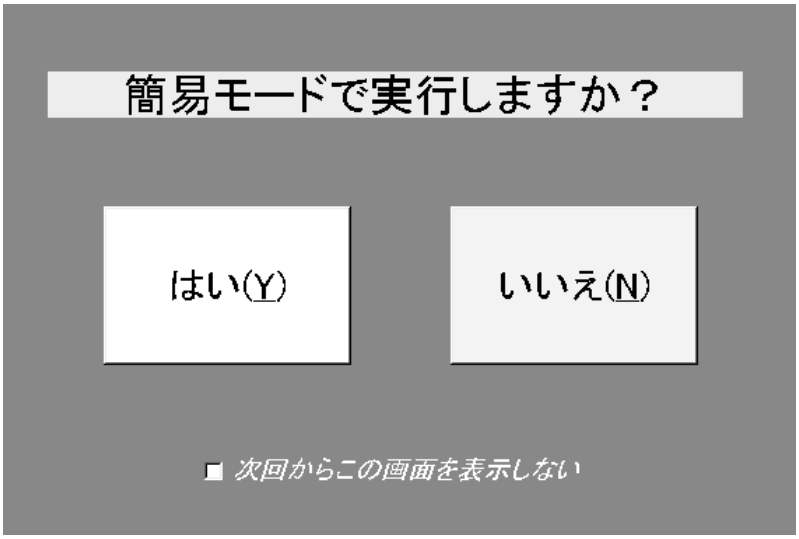
（2）デスクトップ上の**ショートカットアイコン**をダブルクリックします。
データベースはデフォルト
（C:¥Program Files¥StaticBalancer¥data¥rdb¥lld.sb3）になります。

データベースファイルを指定する場合には、エクスプローラ等で対象ファイルのアイコンをダブルクリックします。デスクトップ上の**データベースフォルダ**をダブルクリックするとデフォルトのデータベース格納フォルダが開きます。

[1] 本製品出荷時での登録ユーザーアカウントは StaticBalancer のみですのでユーザー選択する必要はありません。Windows98 でご使用の場合はログオンする必要ありません。

例：データベース格納フォルダ

(3) 「タイトル」ウィンドウ表示後、「起動モード選択」ウィンドウが表示されます。



［はい(Y)］ボタンクリック ‥‥‥ 簡易モードで起動します。
［いいえ(N)］ボタンクリック ‥‥‥ 通常モードで起動します。

(4) 選択したモードのスタートウィンドウが表示されます。

関連【6－5－7　次回の起動モード（通常モード／簡易モード）を設定する】

参考 スタートウィンドウ

ソフトウェア起動後最初に表示される処理ウィンドウです。通常モード時は「被検者情報」ウィンドウ。簡易モード時は「簡易モードトレーニング条件設定」ウィンドウです。

参考 荷重センサー台のウォームアップ

パソコンを立ち上げた後、１０分程度すると動作の安定性が増し、計測性能はより高くなります。

５－２－２　終了手順

（1）スタートウィンドウで［終了(X)］ボタンをクリックします。

「被検者情報」ウィンドウの場合

（2）終了確認をします。

［はい(Y)］ボタンクリック ・・・・・・・ 終了します。
［いいえ(N)］ボタンクリック ・・・・・ 終了しません。

参考 以下の操作でも終了可能です。

- メニュー［ファイル(F)］-［終了(X)］を選択する
- ウィンドウ右上の ⊠ をクリックする

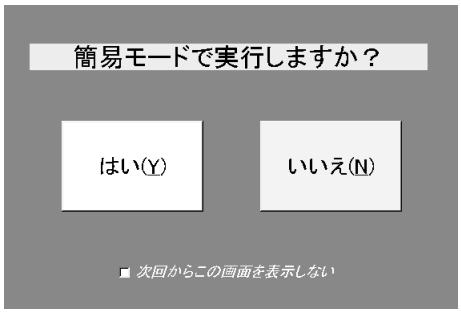
５－３　基本機能の操作手順

基本機能の操作手順概要（流れ）を示します。各操作の詳細は機能別操作説明を参照してください。

なお、以降のウィンドウ画面の縮小図はおおよその外観を認識するためのものです。
表示内容は実際のディスプレイ上で確認してください。

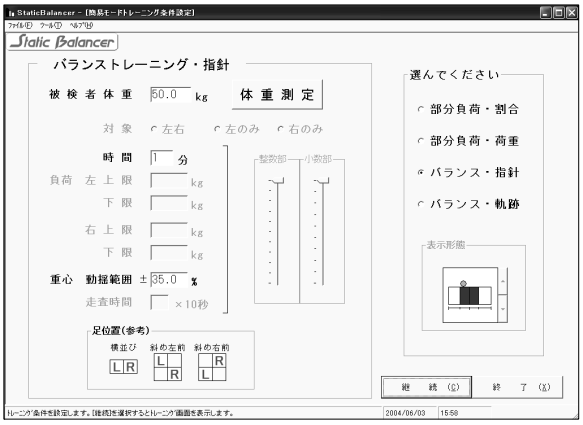
５－３－１　簡易モードでトレーニングを行う手順

（1）簡易モード起動：「起動モード選択」ウィンドウ



- ［はい(Y)］ボタンをクリックします（［Y］押下でも可）。
  ※このときキャリブレーションが行われますので荷重センサー台上に余計な物が載っていない事を確認してください。

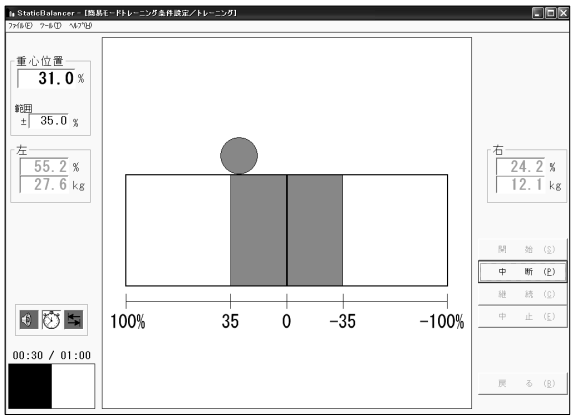
（2）条件設定：「簡易モードトレーニング条件設定」ウィンドウ



- このモードでの前回の条件がデフォルト表示されます。
- ［継続(C)］ボタンが選択された状態で起動されますので**条件変更がない場合は［Space］あるいは［Enter］押下のみで「トレーニング」ウィンドウに進みます。**
- トレーニングモード・条件の変更が必要ならば設定した後、［継続(C)］ボタンをクリックします。

関連【６－２－１　トレーニング条件を設定する】
【６－２－２　体重を測定する】

（3）トレーニング実行：「トレーニング」ウィンドウ

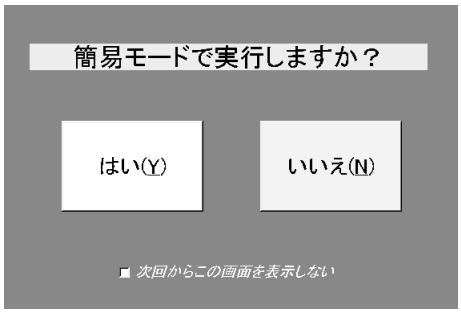


- ［開始(S)］ボタンをクリックしてトレーニング開始します。
- トレーニング終了後、［戻る(B)］ボタンをクリックすると「簡易モードトレーニング条件設定」ウィンドウに戻ります。

関連【６－２－５　トレーニング時操作方法】
【６－２－６　トレーニングウィンドウの表示説明】

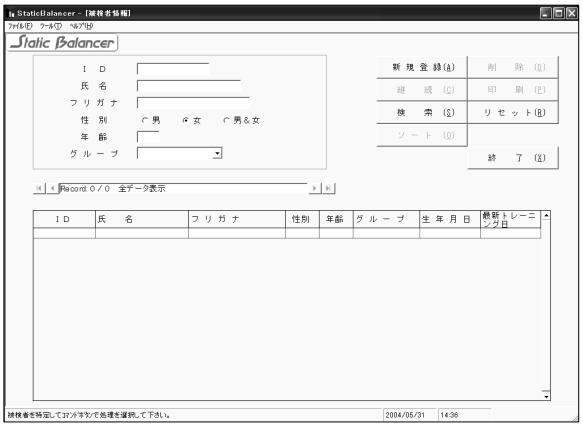
５－３－２　被検者を新規登録してトレーニングを行う手順

（1）通常モード起動：「起動モード選択」ウィンドウ



- ［いいえ(N)］ボタンをクリックします（［N］押下でも可）。

（2）新規登録開始：「被検者情報」ウィンドウ



- ［新規登録(A)］ボタンをクリックします。

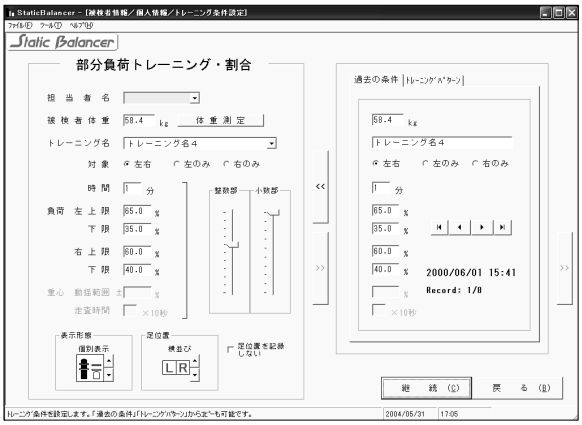
関連【６－１－１　被検者を新たに登録する】

（3）被検者情報入力：「個人情報」ウィンドウ

- 被検者情報を入力します。
- ［登録(R)］ボタンをクリックしてデータ登録します。
- 登録が完了するとトレーニング選択のボタンが使用可能になります。実行するトレーニングボタンをクリックします。
  ※このときキャリブレーションが行われますので荷重センサー台上に余計な物が載っていない事を確認してください。

関連【６－１－１　被検者を新たに登録する】

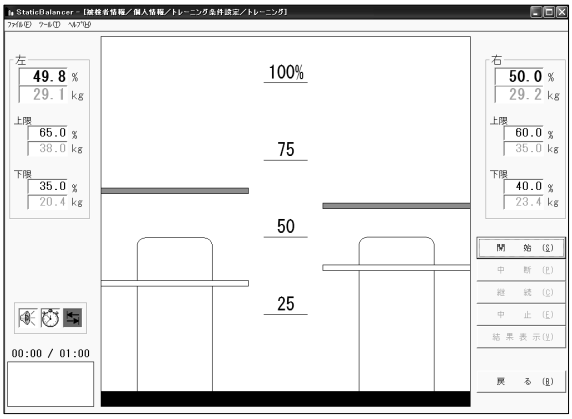
（4）条件設定：「トレーニング条件設定」ウィンドウ



- 条件設定した後、［継続(C)］ボタンをクリックします。

関連【６－２－１　トレーニング条件を設定する】
【６－２－２　体重を測定する】

（5）トレーニング実行：「トレーニング」ウィンドウ



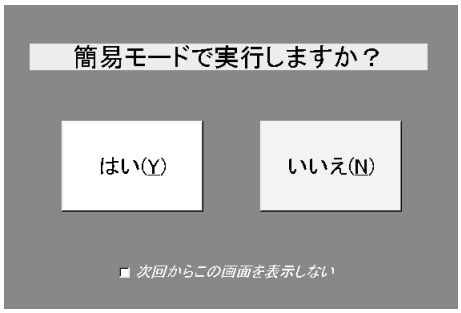
- ［開始(S)］ボタンをクリックしてトレーニング開始します。
- トレーニング終了後、［戻る(B)］ボタンをクリックすると「トレーニング条件設定」ウィンドウに戻ります。
- トレーニング終了後、［結果表示(V)］ボタンをクリックすると結果を表示します。

関連【６－２－５　トレーニング時操作方法】
【６－２－６　トレーニングウィンドウの表示説明】

５－３－３　登録済み被検者を選択してトレーニングを行う手順

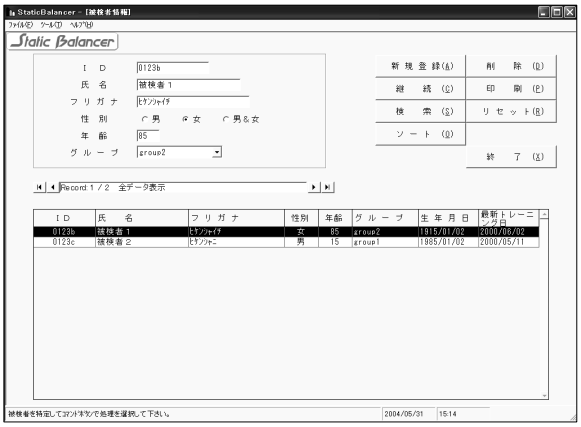
（1）通常モード起動：「起動モード選択」ウィンドウ

- ［いいえ(N)］ボタンをクリックします（［N］押下でも可）。



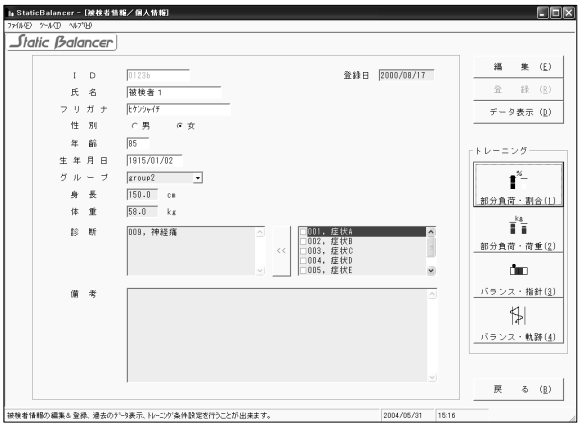
（2）被検者選択：「被検者情報」ウィンドウ

- 被検者を選択します。
- ［継続(C)］ボタンをクリックします。

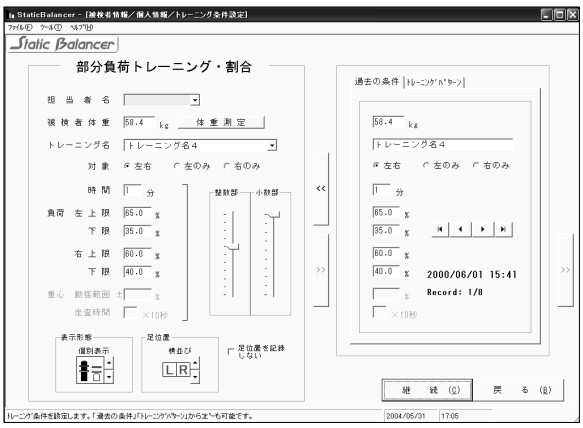


（3）トレーニング選択：「個人情報」ウィンドウ

- 実行するトレーニングボタンをクリックします。
  ※このときキャリブレーションが行われますので荷重センサー台上に余計な物が載っていない事を確認してください。



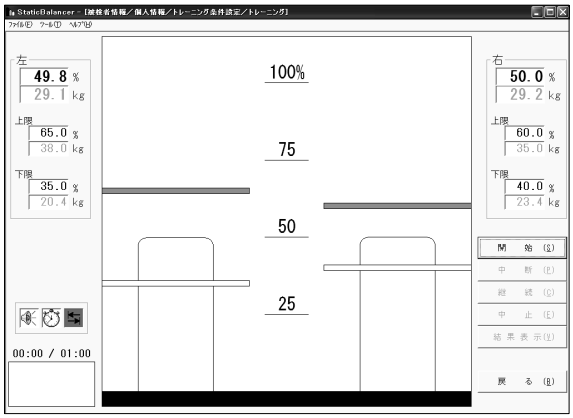
（4）条件設定：「トレーニング条件設定」ウィンドウ



- 条件設定した後、［継続(C)］ボタンをクリックします。

関連【6－2－1　トレーニング条件を設定する】
【6－2－2　体重を測定する】

（5）トレーニング実行：「トレーニング」ウィンドウ

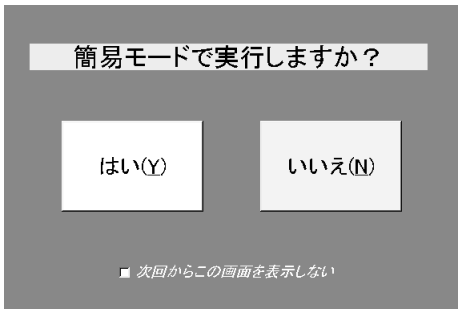


- ［開始(S)］ボタンをクリックしてトレーニング開始します。
- トレーニング終了後、［戻る(B)］ボタンをクリックすると「トレーニング条件設定」ウィンドウに戻ります。
- トレーニング終了後、［結果表示(V)］ボタンをクリックすると結果を表示します。

関連【6－2－5　トレーニング時操作方法】
【6－2－6　トレーニングウィンドウの表示説明】

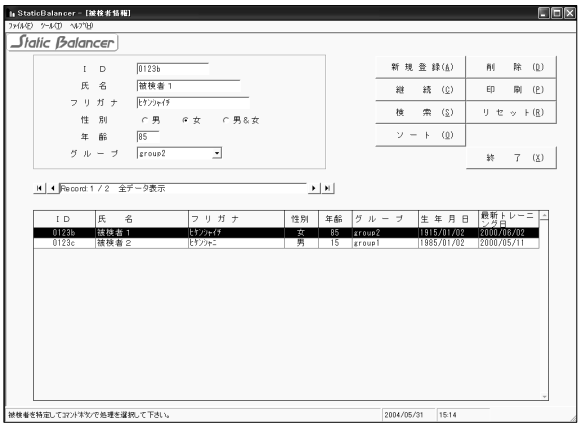
５－３－４　過去のトレーニング結果を表示する手順

（1）通常モード起動：「起動モード選択」ウィンドウ



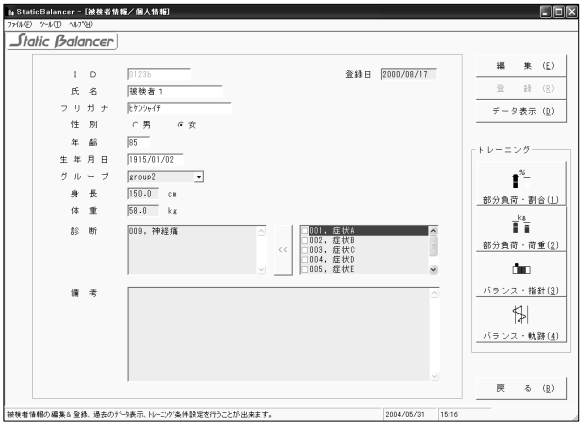
- ［いいえ(N)］ボタンをクリックします（［N］押下でも可）。

（2）被検者選択：「被検者情報」ウィンドウ



- 被検者を選択します。
- ［継続(C)］ボタンをクリックします。

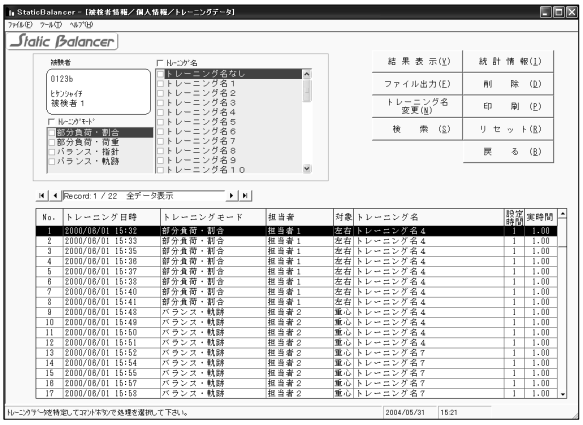
（3）トレーニング履歴表示開始：「個人情報」ウィンドウ



- ［データ表示(D)］ボタンをクリックします。

（4）表示トレーニング選択：「トレーニングデータ」ウィンドウ

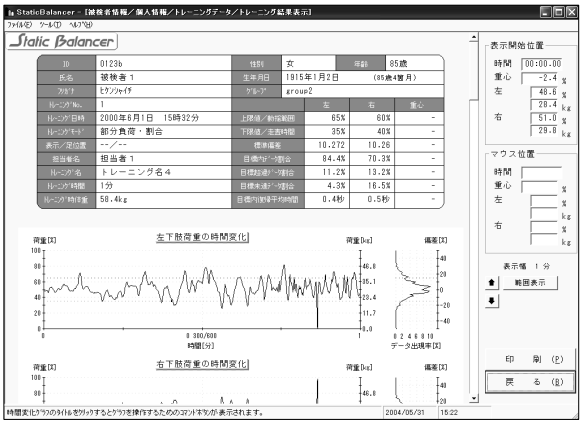
- 結果表示するトレーニングを選択します。
- ［結果表示(V)］ボタンをクリックします。



関連【6－3－1　トレーニング結果を表示・印刷する】

（5）結果解析：「トレーニング結果表示」ウィンドウ

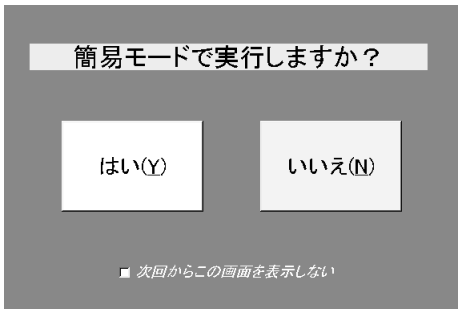
関連【6－3－1　トレーニング結果を表示・印刷する】



５－３－５　統計情報を表示する手順

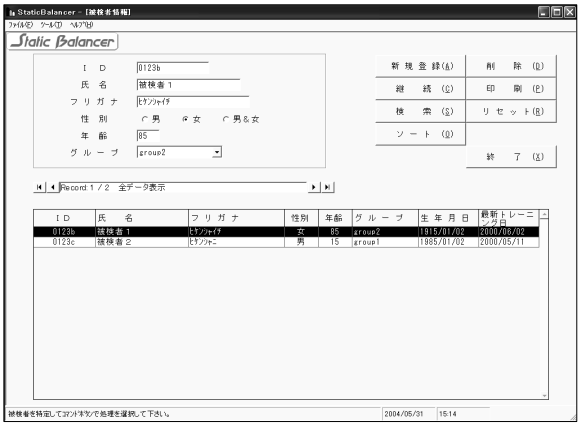
（1）通常モード起動：「起動モード選択」ウィンドウ

- ［いいえ(N)］ボタンをクリックします（［N］押下でも可）。



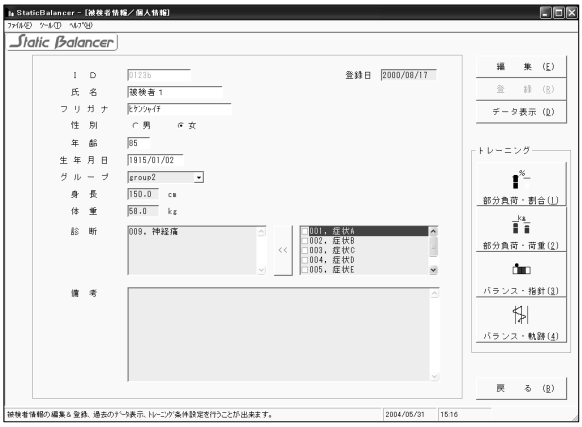
（2）被検者選択：「被検者情報」ウィンドウ

- 被検者を選択します。
- ［継続(C)］ボタンをクリックします。

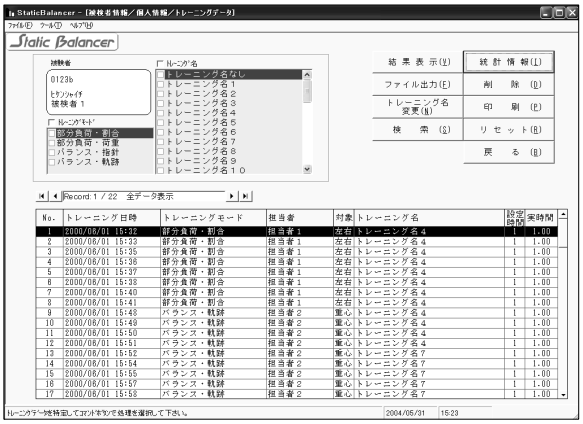


（3）トレーニング履歴表示開始：「個人情報」ウィンドウ

- ［データ表示(D)］ボタンをクリックします。



（4）統計情報表示開始：「トレーニングデータ」ウィンドウ

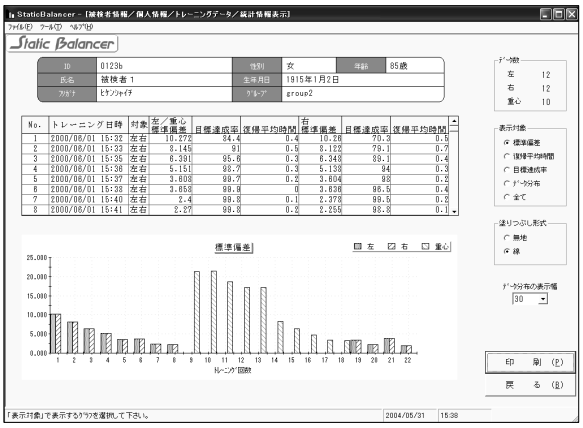


- トレーニングモードとトレーニング名で対象トレーニングを選択します。
- ［統計情報(I)］ボタンをクリックします。

関連【6－3－3　トレーニングモード・トレーニング名で絞り込み統計情報を表示する】

【6－3－2　統計情報を表示・印刷する】

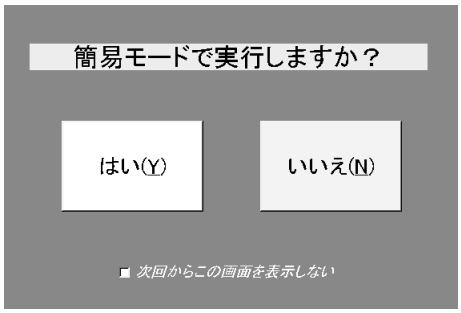
（5）統計情報解析：「統計情報表示」ウィンドウ



関連【6－3－2　統計情報を表示・印刷する】

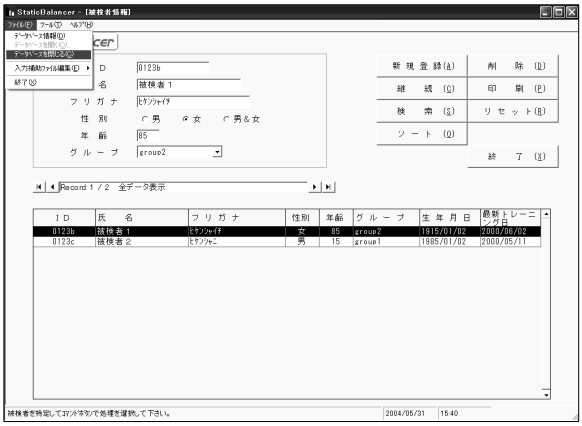
５－３－６　新たなデータベースを作成して使用する手順

（1）通常モード起動：「起動モード選択」ウィンドウ

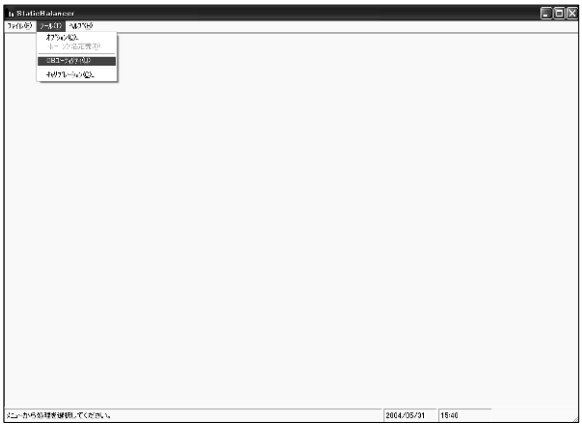


- ［いいえ(N)］ボタンをクリックします（［N］押下でも可）。

（2）データベースを閉じる：「被検者情報」ウィンドウ



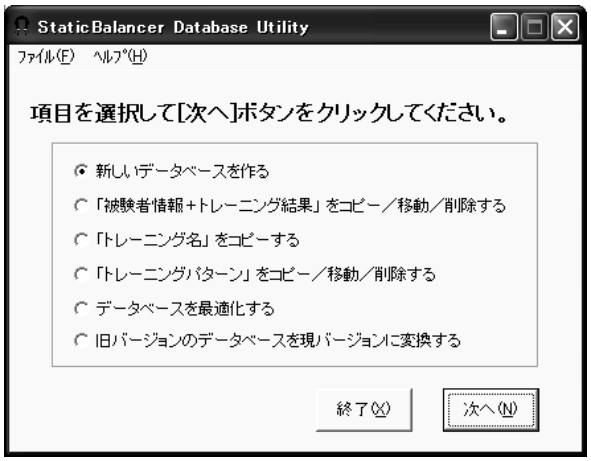
- メニュー［ファイル(F)］-［データベースを閉じる(C)］でデータベースを閉じます。



- メニュー［ツール(T)］-［DB ユーティリティ(U)］で DB ユーティリティを起動します。

（3）データベース作成：DB ユーティリティ

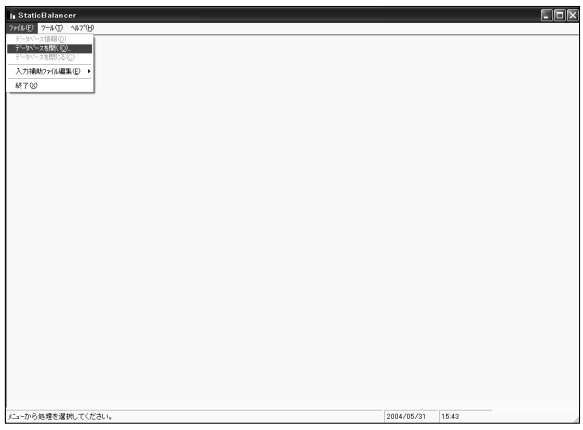
- 表示に従って新しいデータベースファイルを作成します。
- DB ユーティリティを終了させます。



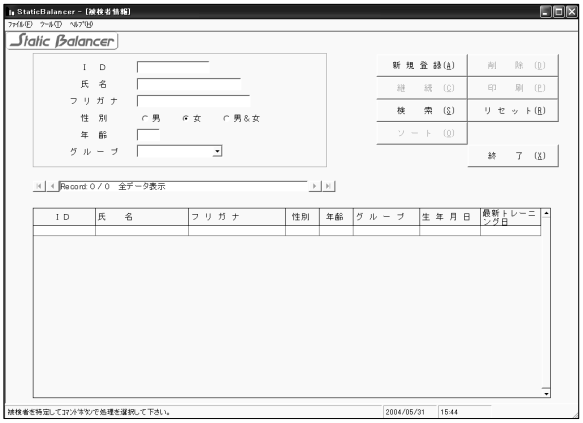
関連【7－1　データベースユーティリティ】

（4）データベースを開く

- メニュー［ファイル(F)］-［データベースを開く(O)］で作成したデータベースを開きます。



⇩



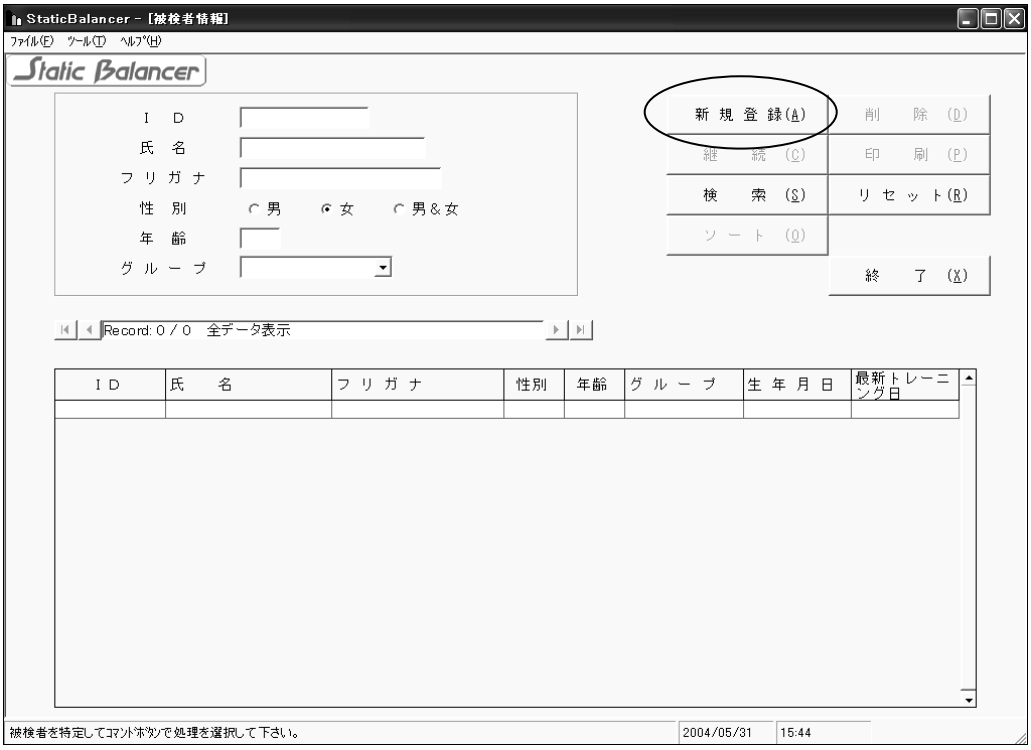
６．機能別操作説明

６－１　被検者情報関連

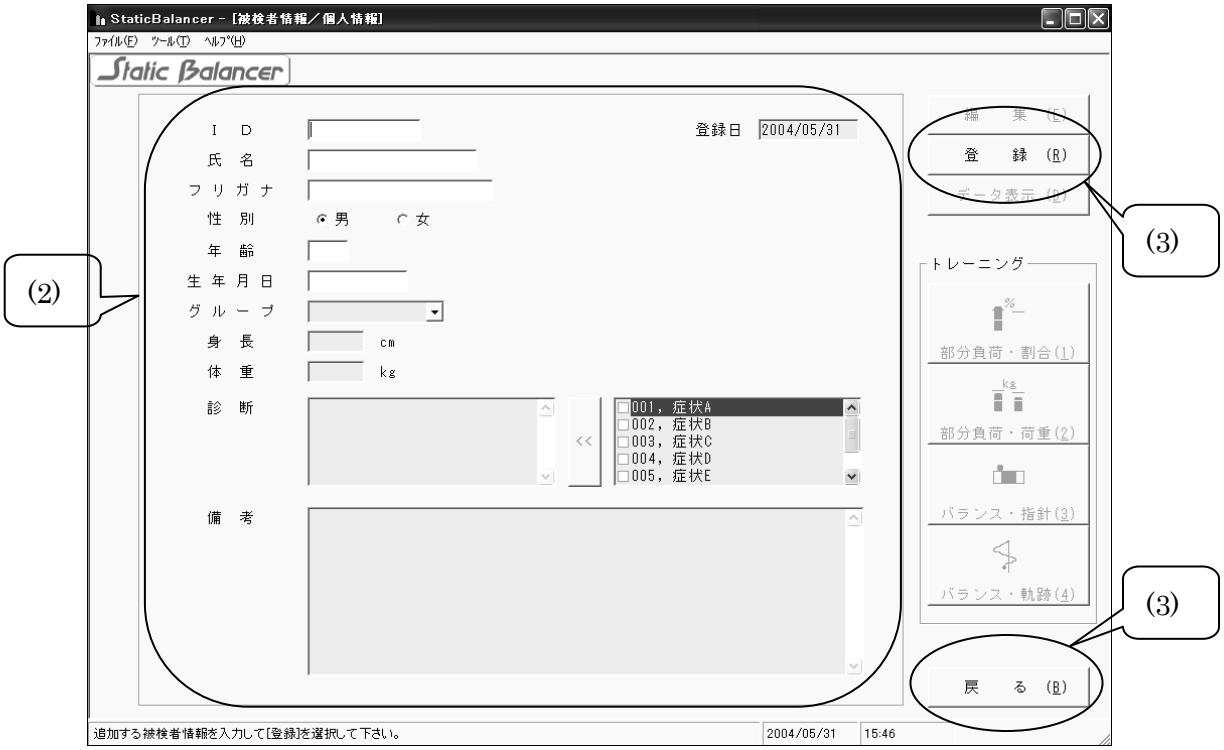
６－１－１　被検者を新たに登録する

被検者情報を新たに入力して被検者を登録する方法です。被検者を特定する ID は登録後の変更はできませんのでご注意ください。

（1）「被検者情報」ウィンドウで［新規登録(A)］ボタンをクリックします。



（2）「個人情報」ウィンドウが表示されます。被検者情報を入力します。



項　目	省略可否	内　　容
ID	【必須】	半角１２文字以内の英数字で**同一の ID は登録できません。** 英字の大文字と小文字は同一と見なしますのでご注意ください。 例．ABC05、abc05 および aBc05 は何れも同一と見なします。
氏名	【必須】	全角１０文字以内で入力します。 半角のダブルクォーテーション(“)、シングルクォーテーション(‘)、カンマ(,)、アスタリスク(*)、パーセント(%)は使用できません。
フリガナ	【必須】	半角カナ２０文字以内で入力します。
性別	【必須】	男女を選択します。
年齢	【必須】	半角数字で入力します。入力範囲は 0～200 歳です。
生年月日	【必須】	西暦の生年月日を’yyyy/M/d’形式（半角文字）で入力します。 入力範囲は 1800/1/1～当日です。 例．1931/3/10
グループ	【任意】	全角７文字以内。直接入力するか、あるいは入力補助ファイルにグループ名を登録してある場合はリストからの選択も可能です。英字の大文字と小文字は同一と見なします。 登録しておくと被検者情報の検索・ソートキーとして使用できます。 半角のダブルクォーテーション(“)、シングルクォーテーション(‘)、カンマ(,)、アスタリスク(*)、パーセント(%)は使用できません。
身長	【任意】	半角数字で入力します。入力範囲は 0.1～300.0[cm]です。

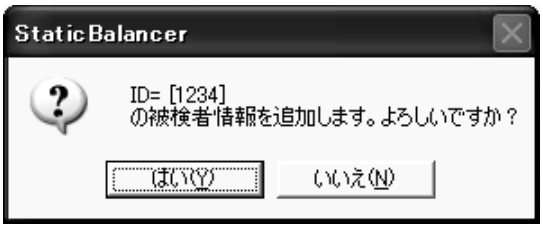
項　目	省略可否	内　　容
体重	【任意】	半角数字で入力します。入力範囲は 0.1～200.0[kg]です。 ここで入力する体重値はあくまでも参考情報であり、トレーニング時に入力（あるいは計測）する被検者体重とは関連ありません。
診断	【任意】	テキスト＋改行コード　１キロバイト（全角文字５１２文字相当）まで入力可能です。 直接入力するか、あるいは入力補助ファイルに診断名を登録してある場合はリストボックスから選択して追加することも可能です。
備考	【任意】	テキスト＋改行コード　８キロバイト（全角文字４０９６文字相当）まで入力可能です。
登録日	―	当日の日付が表示・登録されます。変更できません。

（3）登録する／キャンセルする

［登録(R)］ボタンクリック ・・・・・ 登録確認をします。→(4)

［戻る(B)］ボタンクリック ・・・・・ 登録をキャンセルし、「被検者情報」ウィンドウに戻ります。入力した情報は破棄されます。

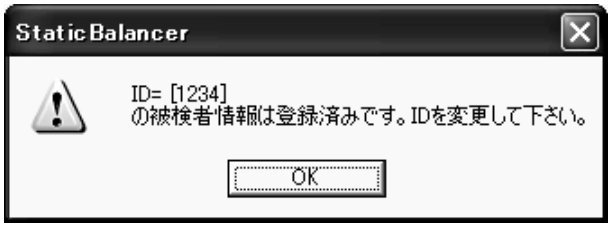
（4）(3)で［**登録(R)**］ボタンをクリックした場合は、追加確認のメッセージボックスが表示されます。



［はい(Y)］ボタンクリック ・・・・・ 登録します。これで被検者情報登録は完了です。

［いいえ(N)］ボタンクリック ・・・ 登録しません。再び入力できる状態になります。

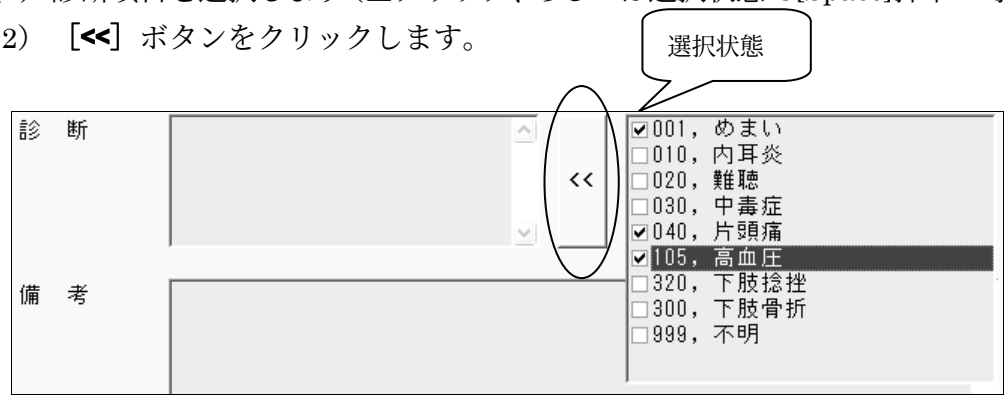
参考 既に登録してあるものと同じ ID を登録しようとすると“登録済みです”のメッセージボックスが表示され登録できません。新規情報の ID を変更して再度登録を試みてください。



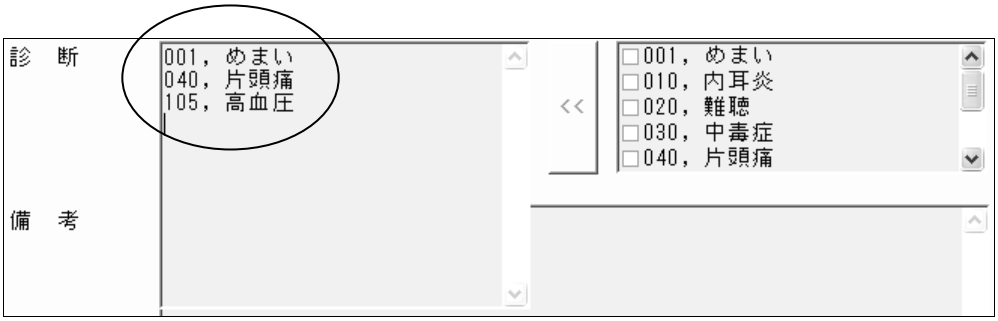
参考 診断リストボックスの使い方

（1）診断項目を選択します（□クリック、あるいは選択状態で[Space]押下　等）。

（2）［<<］ボタンをクリックします。



（3）診断テキストボックスに診断が追加コピーされます。



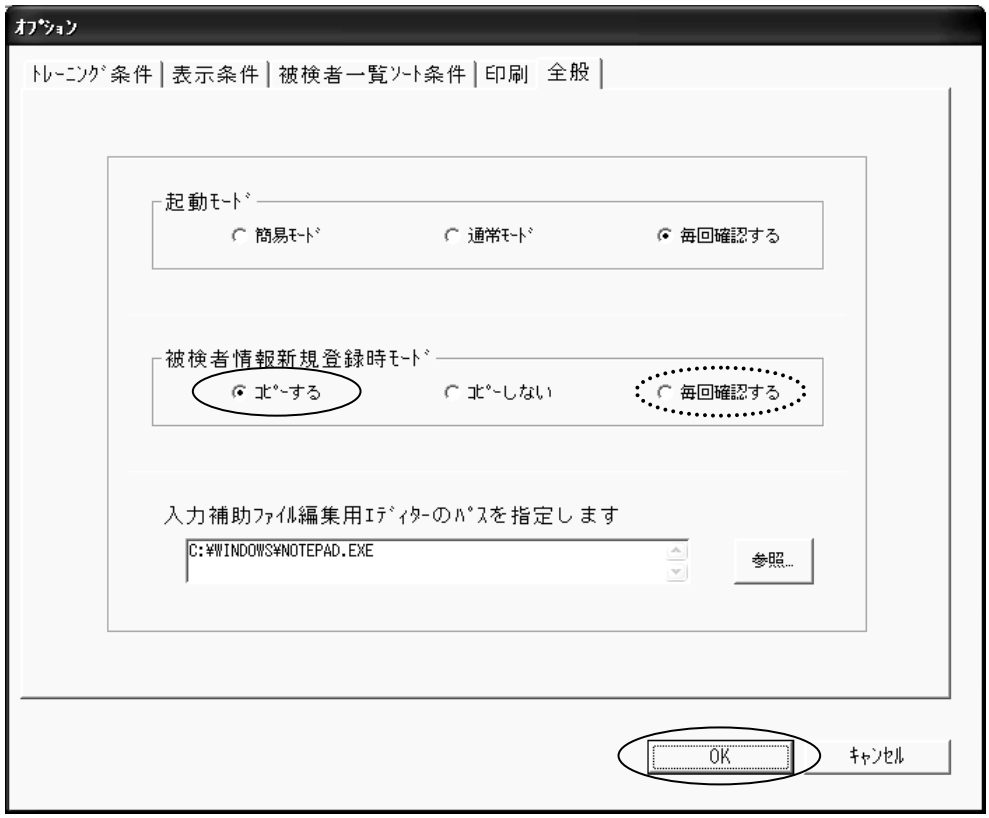
参考 **西暦の上2桁を省略**

生年月日等を入力時に西暦の上2桁を省略した場合の解釈は Windows の設定によります。地域のオプションのカスタマイズ－日付タブ－カレンダー（コントロールパネルから開くことが出来ます）で確認ください。

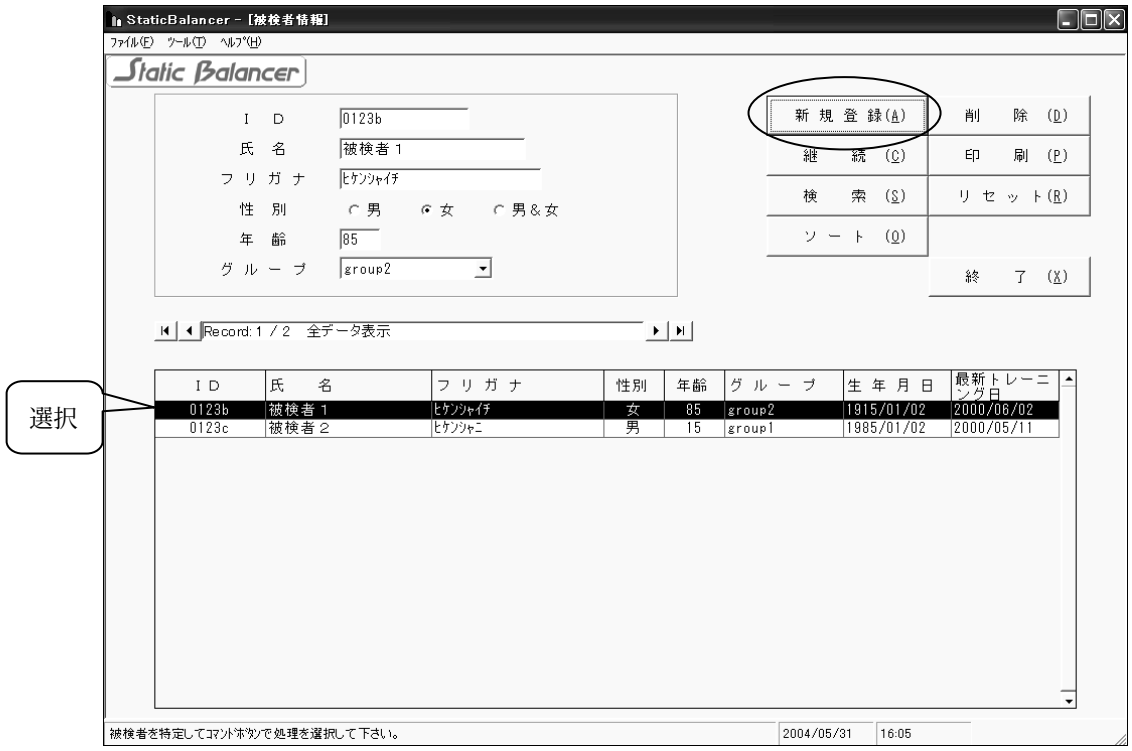
６－１－２　既存の被検者情報をコピーして新たに登録する

既に登録してある被検者情報をコピーして新たな被検者を登録する方法です。既存の被検者と登録内容が重複するような場合に入力を省力化することが可能です。コピーされるのは被検者情報のみです。トレーニング情報はコピーされません。

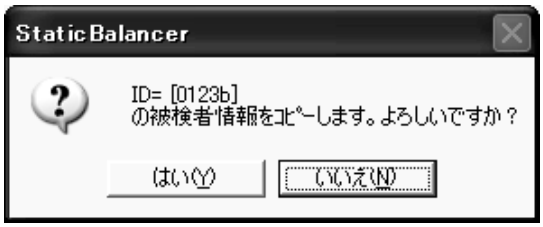
（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［全般］-［被検者情報新規登録時モード］で【コピーする】（あるいは【毎回確認する】）を選択し、［OK］ボタンをクリックします。



（2）「被検者情報」ウィンドウでコピー元の被検者を選択状態にして、［**新規登録(A)**］ボタンをクリックします。



⑴で【毎回確認する】を選択した場合にはコピー確認のメッセージボックスが表示されますので［**はい(Y)**］ボタンをクリックします。



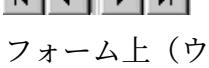
（3）被検者情報がコピーされた状態で「個人情報」ウィンドウが表示されます。

ID は既登録の ID と重複しない値に変更する必要があります。ID 以外の情報はコピー元と同じでも登録可能です。

以後の操作は**【6-1-1 被検者を新たに登録する⑵～】と同様です。**

参考 表内データの選択方法

以下の何れの方法でも可能です。

- マウスで直接該当行をクリックする
-  ボタンクリックで移動する
- フォーム上（ウィンドウ上で何もない部分）で左クリック（前進)、右クリック（後退）する
- 表を選択状態にし、[↑]押下、[↓]押下、[PageUp]押下、[PageDown]押下 で移動する

６－１－３　被検者情報を更新する

登録済みの被検者情報を修正し登録する方法です。ID は変更できません。

（1）「被検者情報」ウィンドウで更新する被検者を選択状態にして、[**継続(C)**]ボタンをクリックします。

（2）「個人情報」ウィンドウに更新する被検者情報が表示されます。[**編集(E)**]ボタンをクリックします。

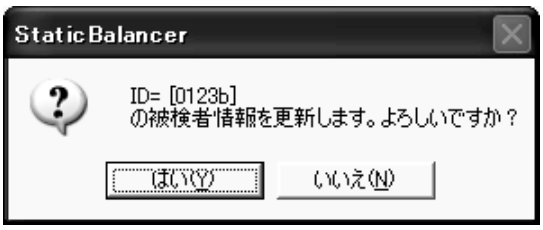
（3）ID 以外の項目が編集可能になります。［**登録日更新**］ボタンをクリックすると登録日が当日になります。それら以外の設定内容は**【６－１－１　被検者を新たに登録する（2)】**の場合と同様です。

（4）更新する／キャンセルする

［登録(R)］ボタンクリック ・・・・・ 更新確認をします。→(5)

［戻る(B)］ボタンクリック ・・・・・ 更新をキャンセルし、「被検者情報」ウィンドウに戻ります。入力した情報は反映されず更新前の状態のままとなります。

（5）(4)で［**登録(R)**］ボタンをクリックした場合は、更新確認のメッセージボックスが表示されます。



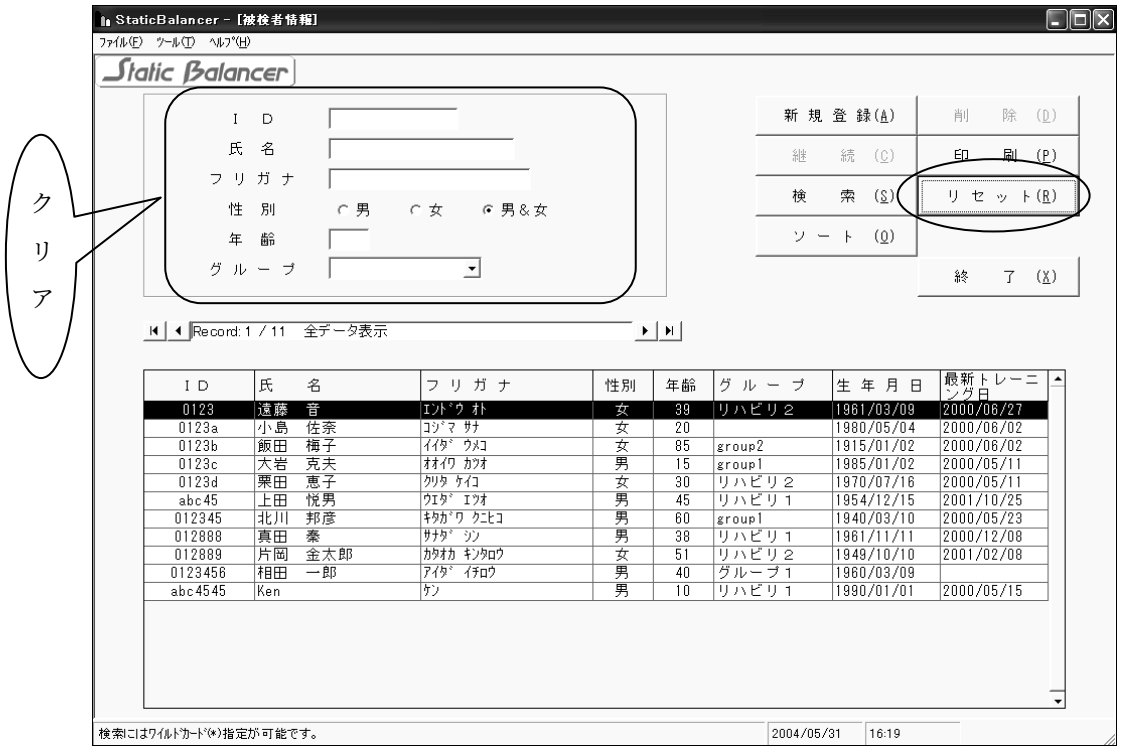
［はい(Y)］ボタンクリック ・・・・・ 更新します。これで被検者情報更新は完了です。

［いいえ(N)］ボタンクリック ・・・ 更新しません。再び入力できる状態になります。

６－１－４　条件に合う被検者を検索して表示する

登録済みの被検者情報から特定の条件に合致する情報のみを検索・表示します。

（1）「被検者情報」ウィンドウで［**リセット(R)**］ボタンをクリックすると、表示フレーム内の表示がクリアされます。

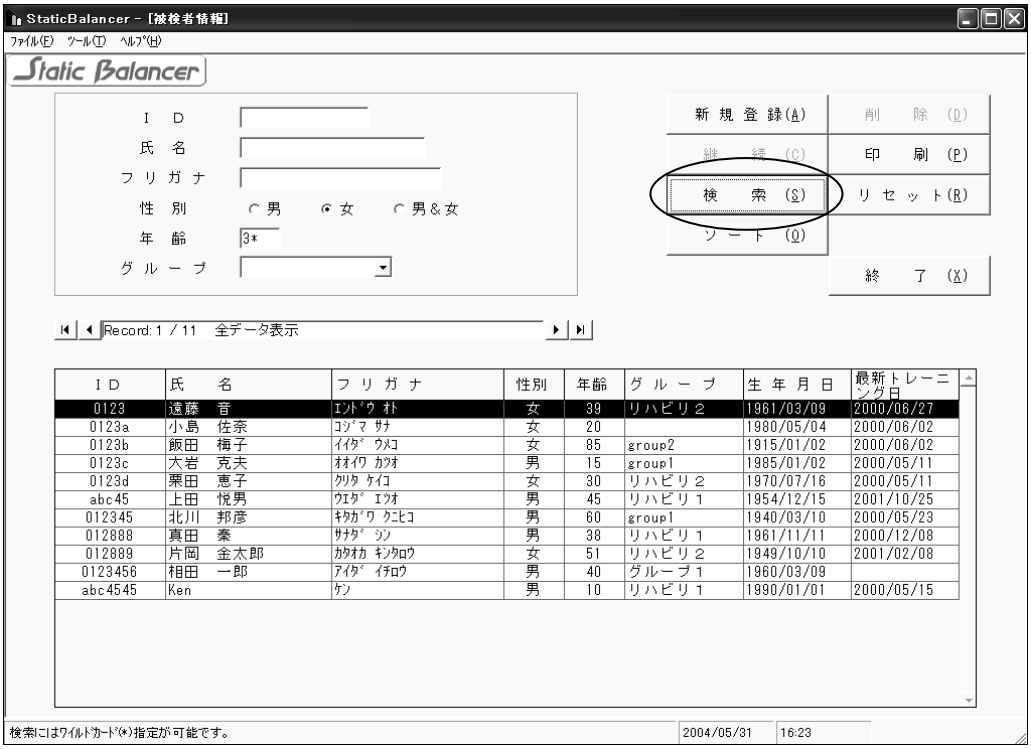


（2）ID～グループの何れか一つあるいは複数の項目に検索内容を入力します。

ID、氏名、フリガナ	ワイルドカード（*：半角アスタリスク）が文字列の何れの位置にも使用できます。 例：012*、*abc、0*3*c
性別	男、女、あるいは男&女（性別検索無し）から選択します。
年齢	ワイルドカード（*：半角アスタリスク）は最終桁（１の位）のみに使用できます。 例：3*＝３０歳台、10*＝１００歳台、0*＝０歳台
グループ	ワイルドカード（*：半角アスタリスク）が文字列の何れの位置にも使用できます。リストから既登録グループを選択することも可能です。

（3） **［検索(S)］**ボタンをクリックすると、対象情報を検索して表示します。(2)で検索項目を入力しなかった場合、全ての情報を表示します。

例：女性、30 歳代で検索の場合

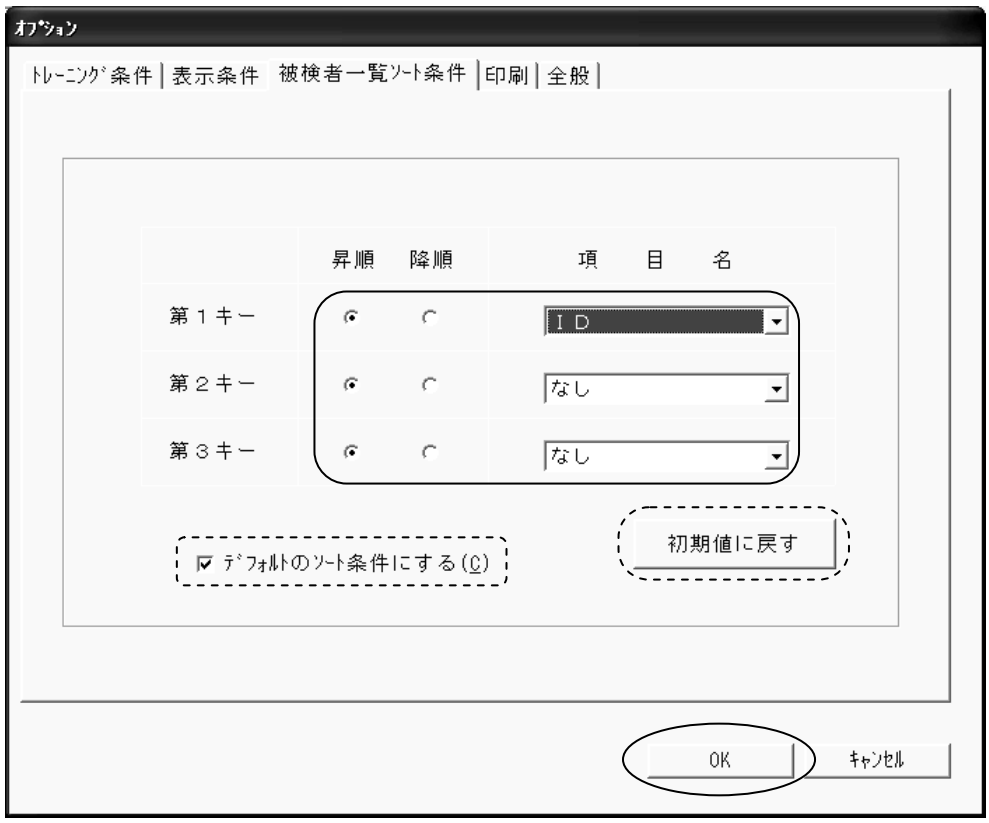

StaticBalancer - [被検者情報]
ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)
Static Balancer
ＩＤ
氏　名
フリガナ
性　別　○男　●女　○男＆女
年　齢　3*
グループ
新規登録(A)
削　除(D)
継　続(C)
印　刷(P)
検　索(S)
リセット(R)
ソート(O)
終　了(X)
Record: 1 / 11　全データ表示
ＩＤ | 氏　名 | フリガナ | 性別 | 年齢 | グループ | 生年月日 | 最新トレーニング日
0123 | 遠藤　音 | ｴﾝﾄﾞｳ ｵﾄ | 女 | 39 | リハビリ２ | 1961/03/09 | 2000/06/27
0123a | 小島　佐奈 | ｺｼﾞﾏ ｻﾅ | 女 | 20 | | 1980/05/04 | 2000/06/02
0123b | 飯田　梅子 | ｲｲﾀﾞ ｳﾒｺ | 女 | 85 | group2 | 1915/01/02 | 2000/06/02
0123c | 大岩　克夫 | ｵｵｲﾜ ｶﾂｵ | 男 | 15 | group1 | 1985/01/02 | 2000/05/11
0123d | 栗田　恵子 | ｸﾘﾀ ｹｲｺ | 女 | 30 | リハビリ２ | 1970/07/16 | 2000/05/11
abc45 | 上田　悦男 | ｳｴﾀﾞ ｴﾂｵ | 男 | 45 | リハビリ１ | 1954/12/15 | 2001/10/25
012345 | 北川　邦彦 | ｷﾀｶﾞﾜ ｸﾆﾋｺ | 男 | 60 | group1 | 1940/03/10 | 2000/05/23
012888 | 真田　秦 | ｻﾅﾀﾞ ｼﾝ | 男 | 38 | リハビリ１ | 1961/11/11 | 2000/12/08
012889 | 片岡　金太郎 | ｶﾀｵｶ ｷﾝﾀﾛｳ | 女 | 51 | リハビリ２ | 1949/10/10 | 2001/02/08
0123456 | 相田　一郎 | ｱｲﾀﾞ ｲﾁﾛｳ | 男 | 40 | グループ１ | 1960/03/09 |
abc4545 | Ken | ｹﾝ | 男 | 10 | リハビリ１ | 1990/01/01 | 2000/05/15
検索にはワイルドカード(*)指定が可能です。
2004/05/31
16:23

StaticBalancer - [被検者情報]
ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)
Static Balancer
ＩＤ　0123
氏　名　遠藤　音
フリガナ　ｴﾝﾄﾞｳ ｵﾄ
性　別　○男　●女　○男＆女
年　齢　39
グループ　リハビリ２
新規登録(A)
削　除(D)
継　続(C)
印　刷(P)
検　索(S)
リセット(R)
ソート(O)
終　了(X)
Record: 1 / 2　検索データ表示
ＩＤ | 氏　名 | フリガナ | 性別 | 年齢 | グループ | 生年月日 | 最新トレーニング日
0123 | 遠藤　音 | ｴﾝﾄﾞｳ ｵﾄ | 女 | 39 | リハビリ２ | 1961/03/09 | 2000/06/27
0123d | 栗田　恵子 | ｸﾘﾀ ｹｲｺ | 女 | 30 | リハビリ２ | 1970/07/16 | 2000/05/11
検索件数
被検者を特定してｺﾏﾝﾄﾞﾎﾞﾀﾝで処理を選択して下さい。
2004/05/31
16:24

６－１－５　表示している被検者一覧を並べ替え（ソート）する

表示している被検者情報にソート条件を設定し、並べ替えして表示します。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［被検者一覧ソート条件］でソートキーを設定します。項目名および（昇順／降順）の何れかを選択してください。



○「デフォルトのソート条件にする」チェックボックス

［チェック ON］ ・・・・・・・・・・・・・・・ 設定が保存され、次回ソフトウェア起動時にも反映されます。

［チェック OFF］ ・・・・・・・・・・・・・・ 設定は保存されません。ソフトウェア起動中のみ有効です。

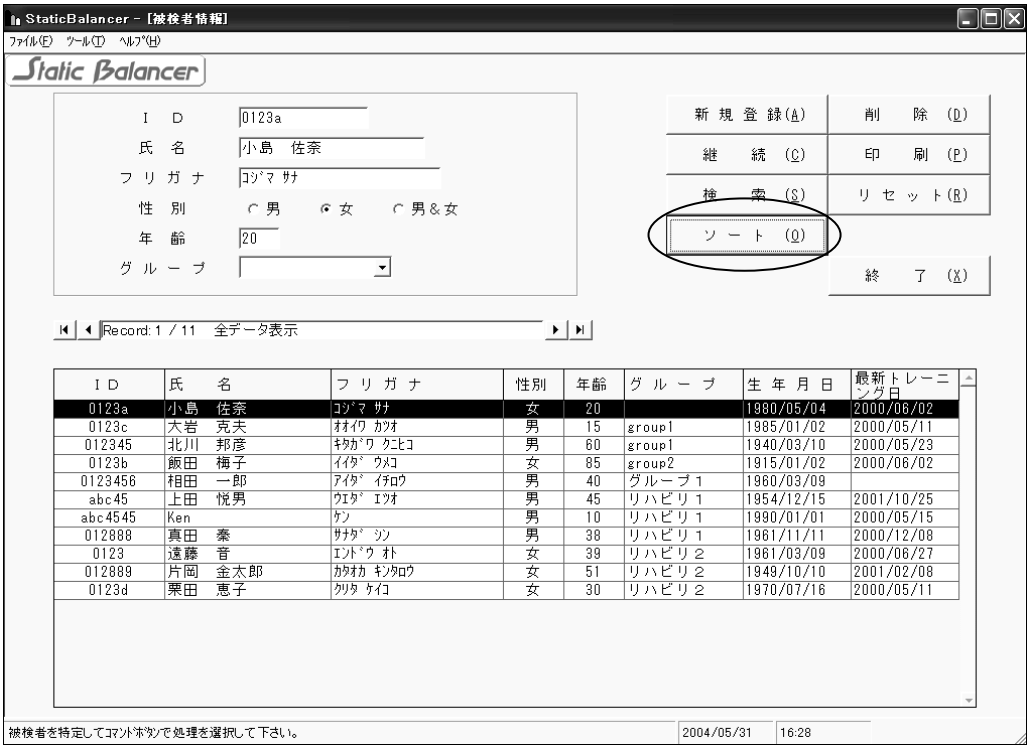
○「初期値に戻す」コマンドボタン

［初期値に戻す］ボタンクリック ・・ ソート項目は全て「なし」昇順になります。この設定では最も新しく登録／更新した被検者情報が先頭になります。

（2）［**OK**］ボタンをクリックして設定を有効にします。

（3）「被検者情報」ウィンドウで［ソート(O)］ボタンをクリックすると設定した条件でソートされます。

例：第１キー：グループ（昇順）
　　第２キー：フリガナ（昇順）の場合


StaticBalancer - [被検者情報]
ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)
Static Balancer
ＩＤ 0123a
氏名 小島 佐奈
フリガナ ｺｼﾞﾏ ｻﾅ
性別 男 女 男＆女
年齢 20
グループ
新規登録(A)
削除(D)
継続(C)
印刷(P)
検索(S)
リセット(R)
ソート(O)
終了(X)
Record: 1 / 11 全データ表示
ＩＤ 氏名 フリガナ 性別 年齢 グループ 生年月日 最新トレーニング日
0123a 小島 佐奈 ｺｼﾞﾏ ｻﾅ 女 20 1980/05/04 2000/08/02
0123c 大岩 克夫 ｵｵｲﾜ ｶﾂｵ 男 15 group1 1985/01/02 2000/05/11
012345 北川 邦彦 ｷﾀｶﾜ ｸﾆﾋｺ 男 60 group1 1940/03/10 2000/05/23
0123b 飯田 梅子 ｲｲﾀﾞ ｳﾒｺ 女 85 group2 1915/01/02 2000/06/02
0123456 相田 一郎 ｱｲﾀﾞ ｲﾁﾛｳ 男 40 グループ１ 1960/03/09
abc45 上田 悦男 ｳｴﾀﾞ ｴﾂｵ 男 45 リハビリ１ 1954/12/15 2001/10/25
abc4545 Ken ｹﾝ 男 10 リハビリ１ 1990/01/01 2000/05/15
012888 真田 秦 ｻﾅﾀﾞ ｼﾝ 男 38 リハビリ１ 1961/11/11 2000/12/08
0123 遠藤 音 ｴﾝﾄﾞｳ ｵﾄ 女 39 リハビリ２ 1961/03/09 2000/06/27
012889 片岡 金太郎 ｶﾀｵｶ ｷﾝﾀﾛｳ 女 51 リハビリ２ 1949/10/10 2001/02/08
0123d 栗田 恵子 ｸﾘﾀ ｹｲｺ 女 30 リハビリ２ 1970/07/16 2000/05/11
被検者を特定してｺﾏﾝﾄﾞﾎﾞﾀﾝで処理を選択して下さい。
2004/05/31
16:28

以降、被検者情報一覧再表示の際は設定してある条件でソートされます。

参考 被検者一覧ソート条件

氏名	文字コードでソートされるため漢字の場合はソートする意味が余りありません。フリガナでのソートをお勧めします。
性別	昇順の場合、女性が先、男性が後になります。
グループ	昇順の場合、未設定は先頭になります。氏名同様文字コードでソートされます。
生年月日	昇順の場合、古い日付が先になります。
最新トレーニング日	昇順の場合、未トレーニングは先頭になります。生年月日同様古い日付が先になります。

ID には同一の値はありませんので、例えば ID を第一キーに使った場合、２・第３キーの設定は無意味です。
なお、ID を第一キーに指定すると最も高速に表示する事ができます。

６－１－６　被検者一覧を印刷する

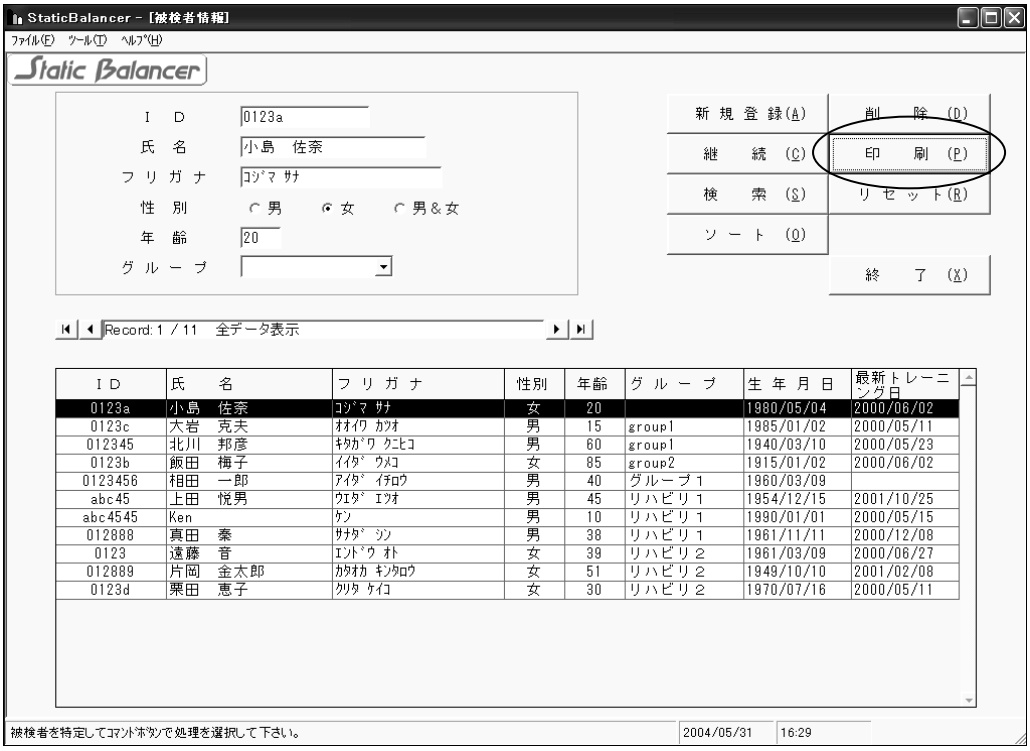
被検者一覧を印刷する手順です。印刷対象・順番は「被検者情報」ウィンドウで表示している内容と同じです。

（1）「被検者情報」ウィンドウで必要に応じて検索・ソートを行います。

関連 **【６－１－４　条件に合う被検者を検索して表示する】**

【６－１－５　表示している被検者一覧を並べ替え（ソート）する】

（2）［**印刷(P)**］ボタンをクリックすると「印刷プレビュー」ウィンドウが表示されます。

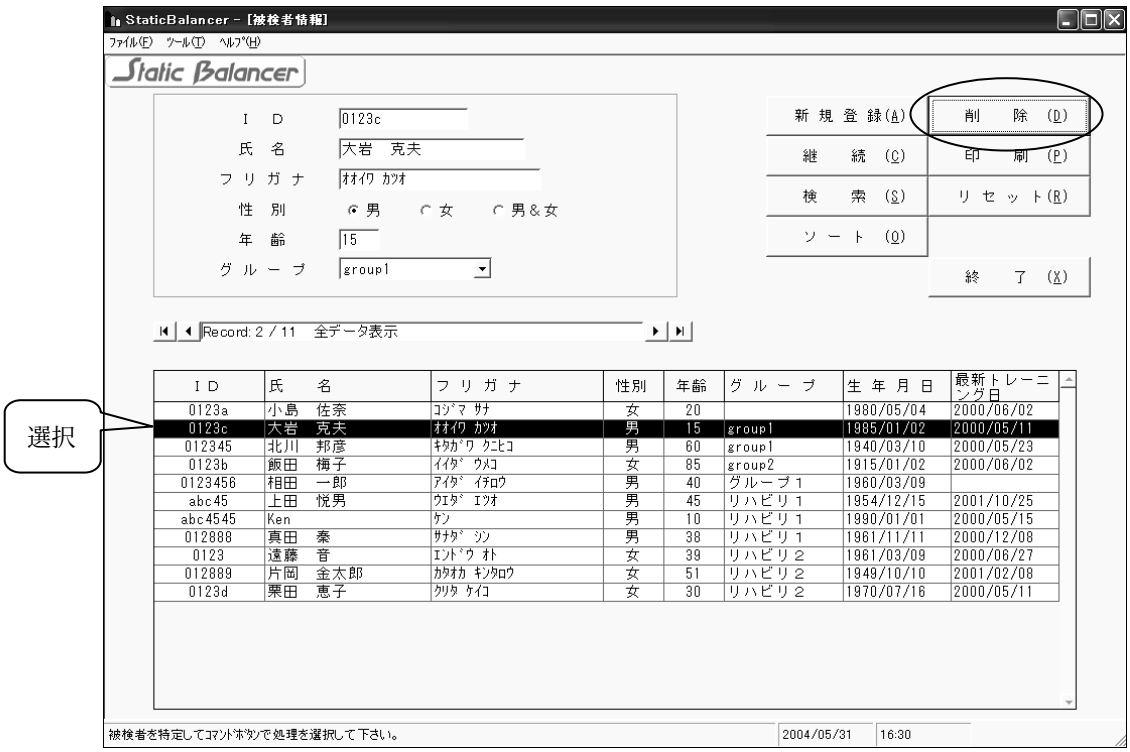

StaticBalancer - 【被検者情報】
ファイル(F)　ツール(T)　ヘルプ(H)
Static Balancer
ＩＤ　0123a
氏　名　小島　佐奈
フリガナ　ｺｼﾞﾏ ｻﾅ
性　別　男　女　男＆女
年　齢　20
グループ
新規登録(A)
削　除(D)
継　続(C)
印　刷(P)
検　索(S)
リセット(R)
ソート(O)
終　了(X)
Record: 1 / 11　全データ表示
ＩＤ　氏　名　フリガナ　性別　年齢　グループ　生年月日　最新トレーニング日
0123a　小島　佐奈　ｺｼﾞﾏ ｻﾅ　女　20　1980/05/04　2000/06/02
0123c　大岩　克夫　ｵｵｲﾜ ｶﾂｵ　男　15　group1　1985/01/02　2000/05/11
012345　北川　邦彦　ｷﾀｶﾜ ｸﾆﾋｺ　男　60　group1　1940/03/10　2000/05/23
0123b　飯田　梅子　ｲｲﾀﾞ ｳﾒｺ　女　85　group2　1915/01/02　2000/06/02
0123456　相田　一郎　ｱｲﾀﾞ ｲﾁﾛｳ　男　40　グループ１　1960/03/09
abc45　上田　悦男　ｳｴﾀﾞ ｴﾂｵ　男　45　リハビリ１　1954/12/15　2001/10/25
abc4545　Ken　ｹﾝ　男　10　リハビリ１　1990/01/01　2000/05/15
012888　真田　秦　ｻﾅﾀﾞ ｼﾝ　男　38　リハビリ１　1961/11/11　2000/12/08
0123　遠藤　音　ｴﾝﾄﾞｳ ｵﾄ　女　39　リハビリ２　1961/03/09　2000/06/27
012889　片岡　金太郎　ｶﾀｵｶ ｷﾝﾀﾛｳ　女　51　リハビリ２　1949/10/10　2001/02/08
0123d　栗田　恵子　ｸﾘﾀ ｹｲｺ　女　30　リハビリ２　1970/07/16　2000/05/11
被検者を特定してｺﾏﾝﾄﾞﾎﾞﾀﾝで処理を選択して下さい。
2004/05/31
16:29

（3）「印刷プレビュー」ウィンドウで［**印刷(P)**］ボタンをクリックすると印刷開始します。

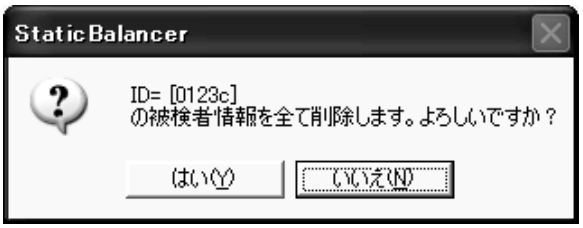
６－１－７　被検者情報を削除する

登録済みの被検者情報を削除します。トレーニングデータがあれば同時に削除します。

（1）「被検者情報」ウィンドウで削除する被検者を選択状態にして、**[削除(D)]** ボタンをクリックします。



削除確認のメッセージボックスが表示されます。



［はい(Y)］ボタンクリック ・・・・・ トレーニングデータも含めて削除します。
［いいえ(N)］ボタンクリック ・・・ 削除しません。

６－１－８　グループ名リストをソートして表示する

「個人情報」ウィンドウのグループ名リストにはグループ名入力補助ファイルに記述した内容が一覧表示されます。記述順に表示する（既定値）／ソートして表示する　の２通りから選択できます。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［表示条件］-［入力補助ファイル内容表示方法］-［グループ名ソート］の設定を変更します。

［する］ ・・・・・ ソートして表示します。
［しない］ ・・・ グループ名入力補助ファイルに記述された順に表示します。

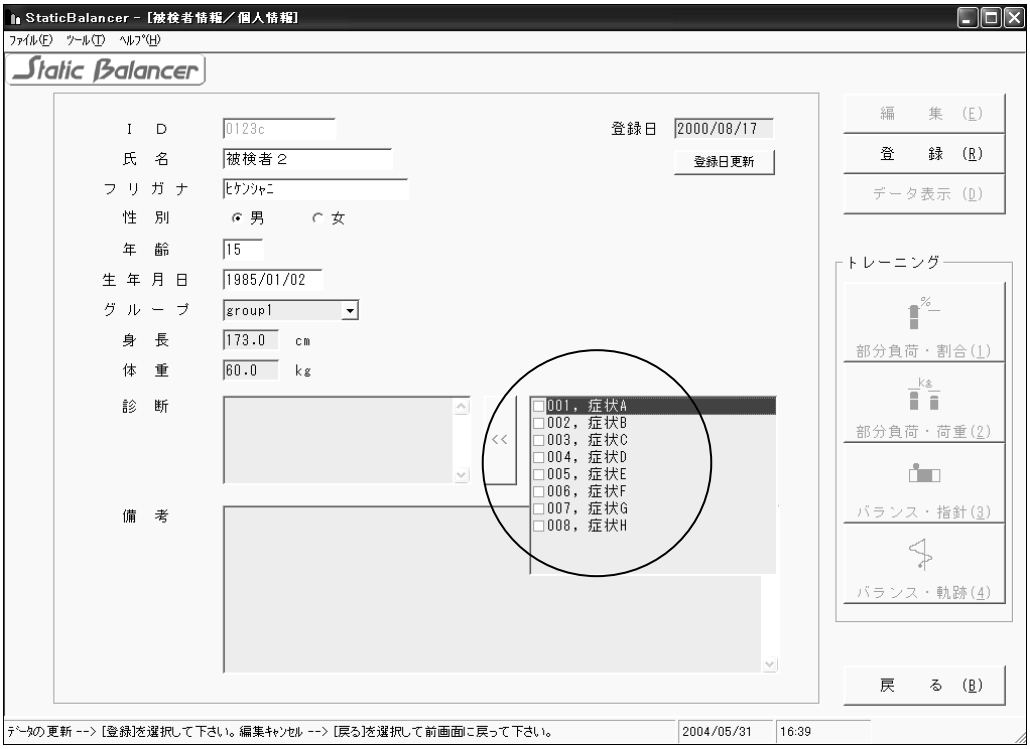
（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

（3）以降、グループ名の表示は設定に従います。「個人情報」ウィンドウ表示中に上記設定変更を実行した場合は次回の表示から有効になります。

関連【8－2　入力補助ファイル形式】

６－１－９　診断名リストボックスをソートして表示する

「個人情報」ウィンドウの診断名リストボックスには診断名入力補助ファイルに記述した内容が一覧表示されます。記述順に表示する（既定値）／ソートして表示する　の２通りから選択できます。



（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［表示条件］-［入力補助ファイル内容表示方法］-［診断名ソート］の設定を変更します。

［する］ ・・・・・ ソートして表示します。
［しない］ ・・・ 診断名入力補助ファイルに記述された順に表示します。

（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

（3）以降、診断名の表示は設定に従います。「個人情報」ウィンドウ表示中に上記設定変更を実行した場合は次回の表示から有効になります。

関連【8－2　入力補助ファイル形式】

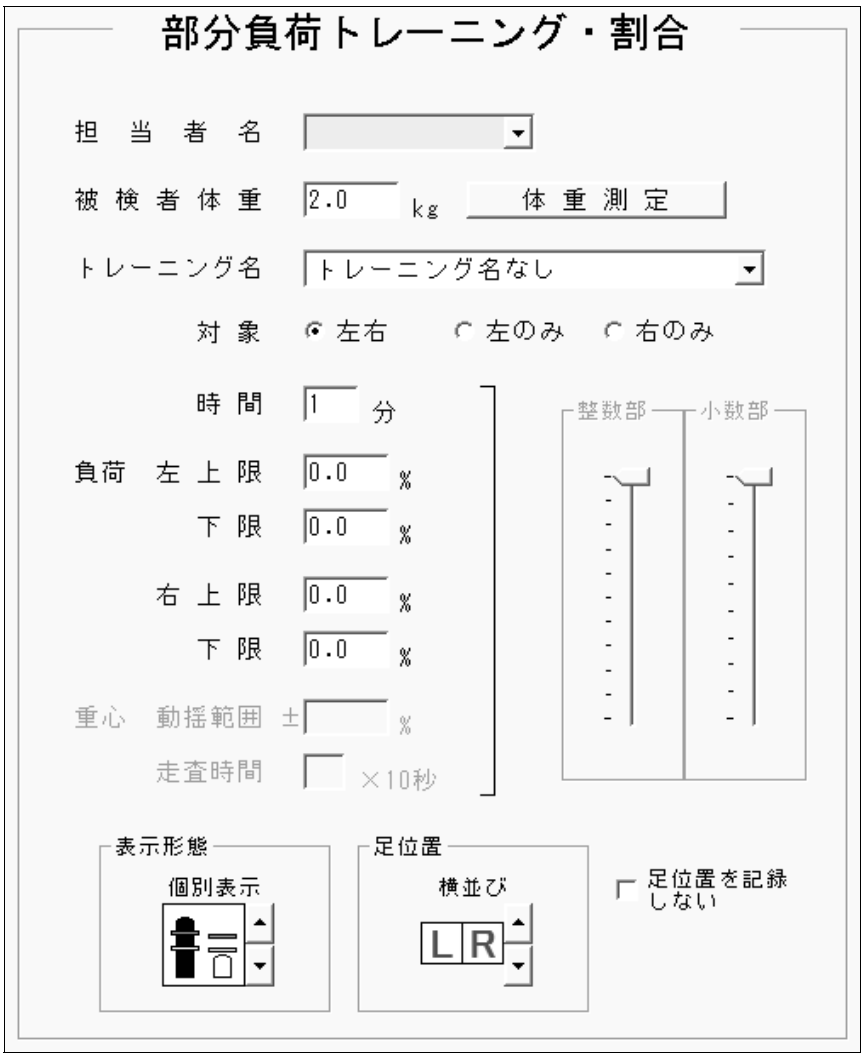
６－２　トレーニング関連

６－２－１　トレーニング条件を設定する

「トレーニング条件設定」ウィンドウ（簡易モードでは「簡易モードトレーニング条件設定」ウィンドウ）での条件設定を説明します。

６－２－１－１　部分負荷トレーニング・割合の条件

通常モードの初期表示



担当者名　　直接入力するか、あるいは担当者名入力補助ファイルに担当者名を記述してある場合はリストから選択することも出来ます。
簡易モードでは担当者名の項目はありません。

被検者体重　2.0～150.0[kg]の範囲（0.1kg 単位）で入力します。［体重測定］ボタンをクリックすると「被検者体重測定」ウィンドウが表示され、実際に体重を測定することが出来ます。

関連【６－２－２　体重を測定する】

トレーニング名　一覧から選択します。トレーニング名を付ける必要がなければ「トレーニング名なし」をお選びください。簡易モードではトレーニング名の項目はありません。

関連【４－５－５　トレーニング名とは】【６－５－２　トレーニング名の設定を変更して表示する名称を変える】

対象　トレーニングする下肢を選択します（＝トレーニング対象）。

時間　１～６０[分]の範囲（１分単位）で指定します（＝トレーニング時間）。

負荷左上限　左下肢負荷の上限値を被検者体重に対する割合[百分率]で指定します。０．０～１００．０[%]（０．１%単位）。

負荷左下限　左下肢負荷の下限値を被検者体重に対する割合[百分率]で指定します。左上限値以下の値にしてください。
０．０～１００．０[%]（０．１%単位）。

負荷右上限　右下肢負荷の上限値を被検者体重に対する割合[百分率]で指定します。０．０～１００．０[%]（０．１%単位）。

負荷右下限　右下肢負荷の下限値を被検者体重に対する割合[百分率]で指定します。右上限値以下の値にしてください。
０．０～１００．０[%]（０．１%単位）。

表示形態　トレーニングウィンドウでの表示を選択してください。
個別表示は画面下を起点に左右個別に荷重バーが上方向に伸長します。
連結表示は画面中央を基点に左右荷重バーが逆方向に伸長します。バーの方向は左右・上下・斜めがあります。

足位置　表示形態が「個別表示」の場合のみ横並び・斜め左前・斜め右前から選択可能です。「連結表示」の場合はバーの方向により自動選択されます。足位置を記録しない（次項参照）場合、選択する必要はありません。簡易モードでは選択できません。

足位置を記録しない	OFF の場合、足位置が設定条件として記録されます。足位置を記録する必要がない場合には ON にしてください。簡易モードでは表示されません。
センサー入力を左右逆にする	足位置が縦の場合のみ設定可能です。ON にすると荷重センサーの入力が左右逆になります。縦置きにした荷重センサー台を入れ替えることなく足を入れ替えることが出来ます。

- トレーニング時間～負荷右下限はスライダーを操作しても設定できます。
- 以下に該当する場合はメッセージボックスで通知しますが、トレーニングを行うことは可能です。

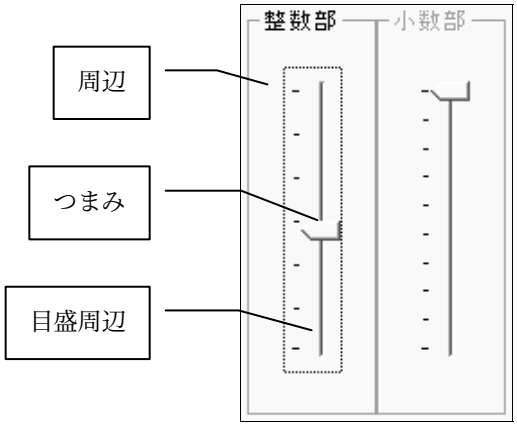
  関連 **【６－２－１０　部分負荷トレーニングで上下限値のチェックをする／しない】**

  - 左右上限値の和が１００％未満（トレーニング対象「左右」時）
  - 左右下限値の和が１００％を超えている（トレーニング対象「左右」時）

参考 条件設定用スライダーの使い方

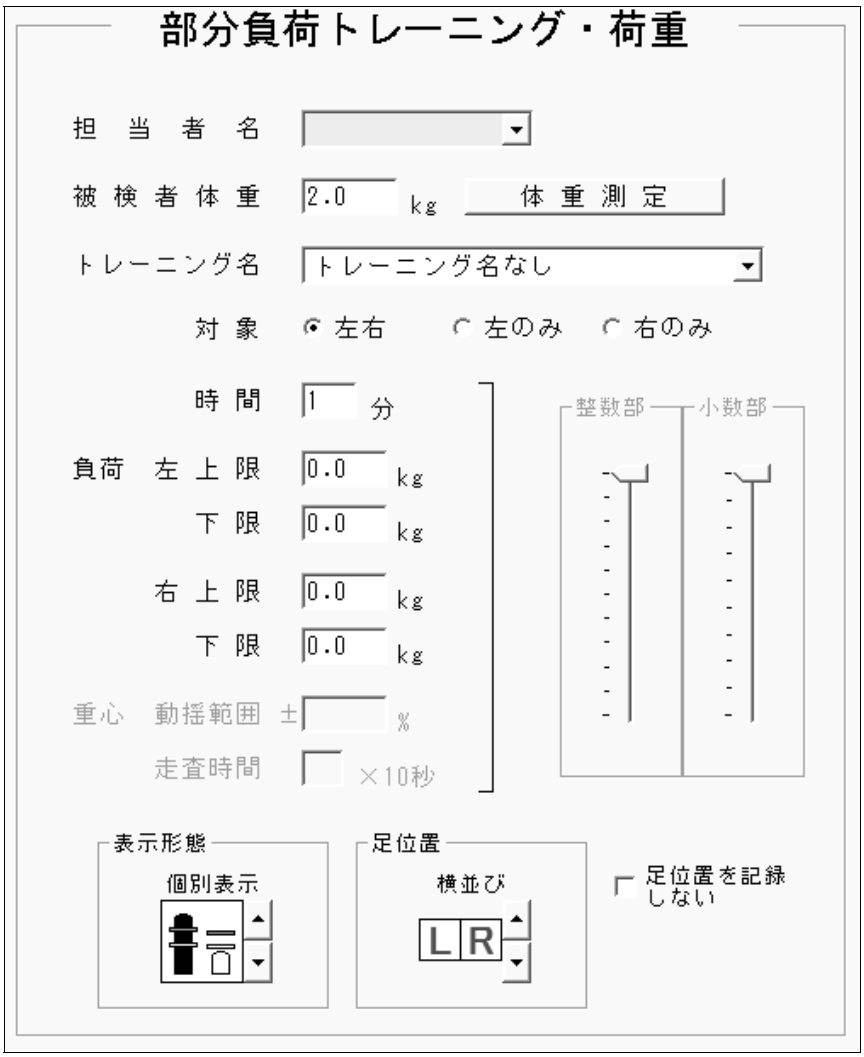
対象のテキストボックスが選択されるとスライダーのつまみと連動します。
ここでスライダーコントロールをクリックし、以下の何れかの操作を行うと対象テキストボックスの値が変更されます。

- マウスでつまみをドラッグする
- 目盛周辺（点線内）をつまみより上方／下方クリックで５減／増する
- 周辺（点線外）を左クリック／右クリックで１増／減する
- [PageUp]押下／[PageDown]押下で５減／増する
- [↑]押下（あるいは[←]押下）／[↓]押下（あるいは[→]押下）で１減／増する



６－２－１－２　部分負荷トレーニング・荷重の条件

通常モードの初期表示



担当者名　　直接入力するか、あるいは担当者名入力補助ファイルに担当者名を記述してある場合はリストから選択することも出来ます。簡易モードでは担当者名の項目はありません。

被検者体重　　2.0～150.0[kg]の範囲（0.1 kg単位）で入力します。［体重測定］ボタンをクリックすると「被検者体重測定」ウィンドウが表示され、実際に体重を測定することが出来ます。

関連【６－２－２　体重を測定する】

トレーニング名　一覧から選択します。トレーニング名を付ける必要がなければ「トレーニング名なし」をお選びください。簡易モードではトレーニング名の項目はありません。

関連【4－5－5　トレーニング名とは】【6－5－2　トレーニング名の設定を変更して表示する名称を変える】

対象　トレーニングする下肢を選択します（＝トレーニング対象）。

時間　１～６０[分]の範囲（１分単位）で指定します（＝トレーニング時間）。

負荷左上限　左下肢負荷の上限荷重値[kg]を指定します。
0.0～150.0[kg]（0.1kg 単位）。

負荷左下限　左下肢負荷の下限荷重値[ｋｇ]を指定します。左上限値以下の値にしてください。0.0～150.0[kg]（0.1kg 単位）。

負荷右上限　右下肢負荷の上限荷重値[ｋｇ]を指定します。
0.0～150.0[kg]（0.1kg 単位）。

負荷右下限　右下肢負荷の下限荷重値[kg]を指定します。右上限値以下の値にしてください。0.0～150.0[kg]（0.1 kg単位）。

表示形態　トレーニングウィンドウでの表示を選択してください。
個別表示は画面下を起点に左右個別に荷重バーが上方向に伸長します。
連結表示は画面中央を基点に左右荷重バーが逆方向に伸長します。バーの方向は左右・上下・斜めがあります。

足位置　表示形態が「個別表示」の場合のみ横並び・斜め左前・斜め右前から選択可能です。「連結表示」の場合はバーの方向により自動選択されます。足位置を記録しない（次項参照）場合、選択する必要はありません。簡易モードでは選択できません。

足位置を記録しない	OFF の場合、足位置が設定条件として記録されます。足位置を記録する必要がない場合には ON にしてください。簡易モードでは表示されません。
センサー入力を左右逆にする	足位置が縦の場合のみ設定可能です。ON にすると荷重センサーの入力が左右逆になります。縦置きにした荷重センサー台を入れ替えることなく足を入れ替えることが出来ます。

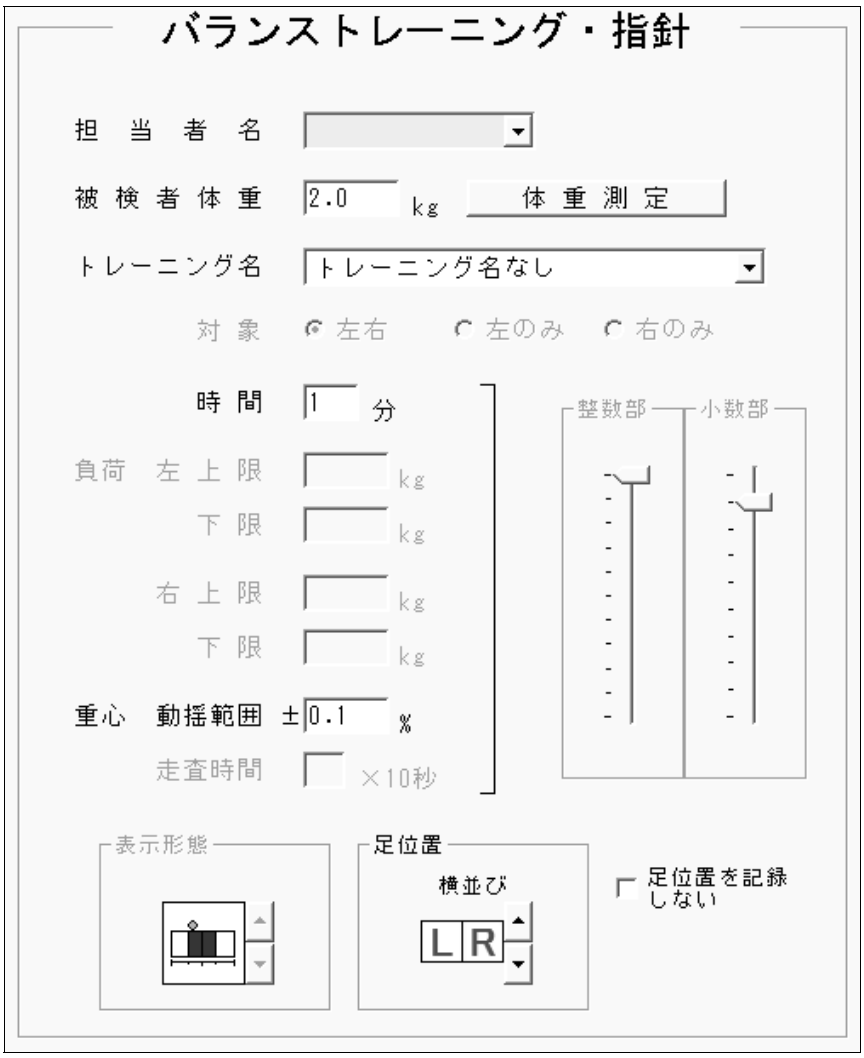
- トレーニング時間～負荷右下限はスライダーを操作しても設定できます。
- 以下に該当する場合はメッセージボックスで通知しますが、トレーニングを行うことは可能です。

関連【６－２－１０　部分負荷トレーニングで上下限値のチェックをする／しない】

- 左右上限値の和が被検者体重値未満（トレーニング対象「左右」時）
- 左右下限値の和が被検者体重値を超えている（トレーニング対象「左右」時）
- 左上限値が被検者体重値を超えている（トレーニング対象「左」時）
- 右上限値が被検者体重値を超えている（トレーニング対象「右」時）

６－２－１－３　バランストレーニング・指針の条件

通常モードの初期表示



担当者名　　直接入力するか、あるいは担当者名入力補助ファイルに担当者名を記述してある場合はリストから選択することも出来ます。簡易モードでは担当者名の項目はありません。

被検者体重　　2.0～150.0[kg]の範囲（0.1 kg単位）で入力します。［体重測定］ボタンをクリックすると「被検者体重測定」ウィンドウが表示され、実際に体重を測定することが出来ます。

関連【６－２－２　体重を測定する】

トレーニング名　一覧から選択します。トレーニング名を付ける必要がなければ「トレーニング名なし」をお選びください。簡易モードではトレーニング名の項目はありません。

関連【4－5－5　トレーニング名とは】【6－5－2　トレーニング名の設定を変更して表示する名称を変える】

時間　１～６０[分]の範囲（１分単位）で指定します（＝トレーニング時間）。

重心動揺範囲　（左荷重－右荷重）÷被検者体重×１００[%]
で表す重心位置の動揺範囲を指定します。
0.0～100.0[%]（0.1%単位）。

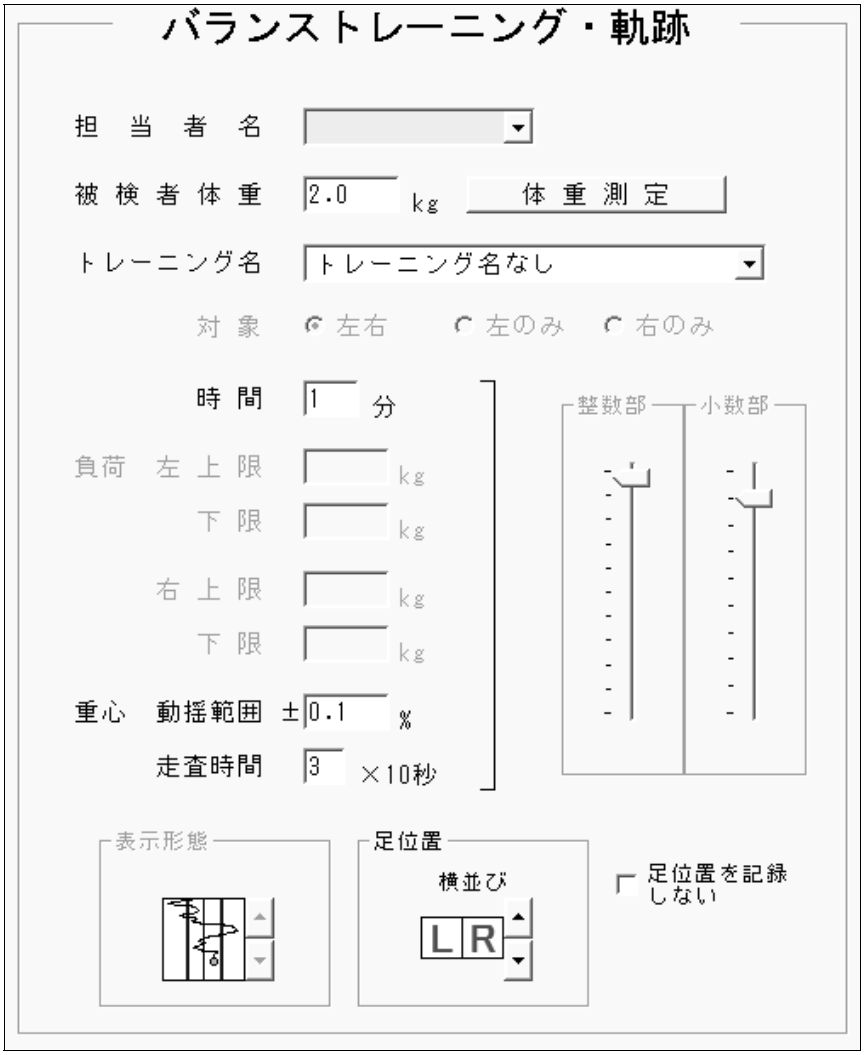
足位置　横並び・斜め左前・斜め右前から選択可能です。足位置を記録しない（次項参照）場合、選択する必要はありません。簡易モードでは選択できません。

足位置を記録しない　OFF の場合、足位置が設定条件として記録されます。足位置を記録する必要がない場合には ON にしてください。簡易モードでは表示されません。

● トレーニング時間、重心動揺範囲はスライダーを操作しても設定できます。

６－２－１－４　バランストレーニング・軌跡の条件

通常モードの初期表示



担当者名　　直接入力するか、あるいは担当者名入力補助ファイルに担当者名を記述してある場合はリストから選択することも出来ます。簡易モードでは担当者名の項目はありません。

被検者体重　　2.0～150.0[kg]の範囲（0.1 kg単位）で入力します。[体重測定]ボタンをクリックすると「被検者体重測定」ウィンドウが表示され、実際に体重を測定することが出来ます。

関連【６－２－２　体重を測定する】

トレーニング名　一覧から選択します。トレーニング名を付ける必要がなければ「トレーニング名なし」をお選びください。簡易モードではトレーニング名の項目はありません。

関連【4－5－5　トレーニング名とは】【6－5－2　トレーニング名の設定を変更して表示する名称を変える】

時間　１～６０[分]の範囲（１分単位）で指定します（＝トレーニング時間）。

重心動揺範囲　（左荷重－右荷重）÷被検者体重×１００[%]
で表す重心位置の動揺範囲を指定します。
0.0～100.0[%]（0.1%単位）。

重心走査時間　軌跡表示のスクロール単位時間を１０～９０[秒]（１０秒単位）で指定します。入力値を１０倍しますので実際の入力は１～９で指定してください。

足位置　横並び・斜め左前・斜め右前から選択可能です。足位置を記録しない（次項参照）場合、選択する必要はありません。簡易モードでは選択できません。

足位置を記録しない　OFF の場合、足位置が設定条件として記録されます。足位置を記録する必要がない場合には ON にしてください。簡易モードでは表示されません。

● トレーニング時間～重心走査時間はスライダーを操作しても設定できます。

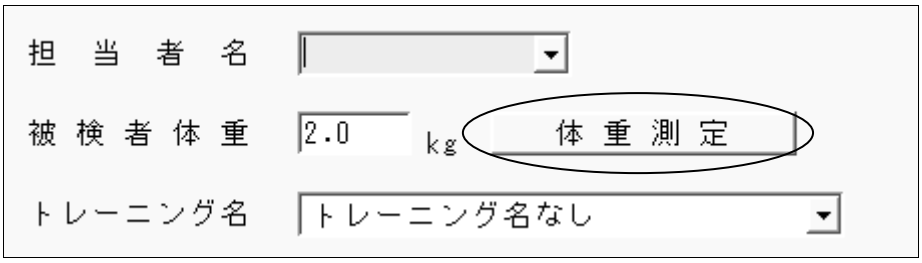
６－２－２　体重を測定する

トレーニング条件設定時に、被検者体重を測定する手順を説明します。

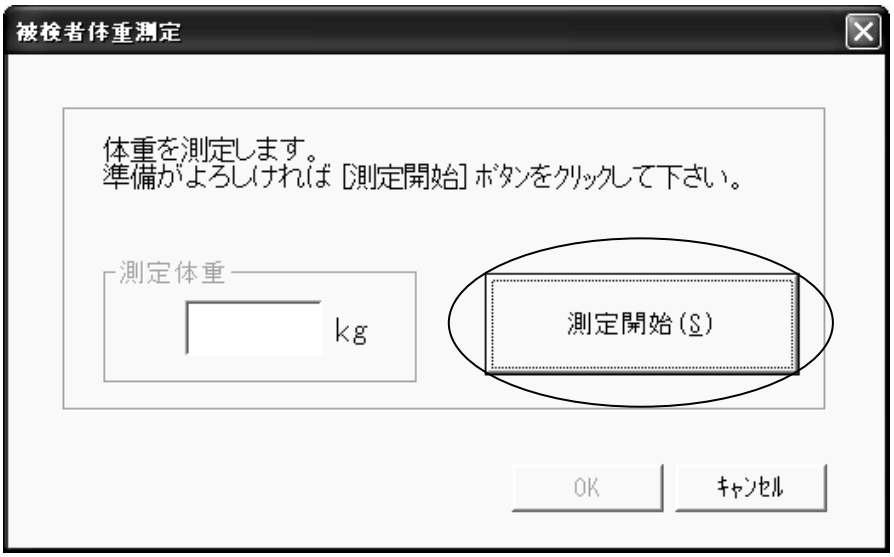
（1）最後のキャリブレーション後、マットを乗せかえる等している場合にはもう一度キャリブレーションを実行します。

関連【６－５－１　キャリブレーションをやり直す】

（2）「トレーニング条件設定」ウィンドウ（簡易モードでは「簡易モードトレーニング条件設定」ウィンドウ）で［**体重測定**］ボタンをクリックします。

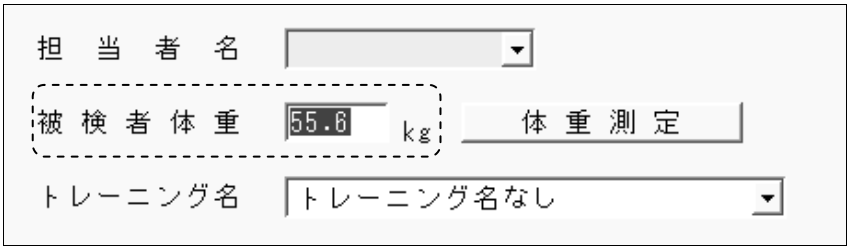


（3）「被検者体重測定」ウィンドウが表示されます。被検者に荷重センサー台に乗ってもらい、［**測定開始(S)**］ボタンをクリックします。２秒程で測定は終わります。



（4）測定が完了すると、体重値が表示されます。[**OK**]ボタンをクリックすると「被検者体重測定」ウィンドウが閉じます。

（5）「トレーニング条件設定」ウィンドウ（簡易モードでは「簡易モードトレーニング条件設定」ウィンドウ）の被検者体重に測定した体重が設定されます。



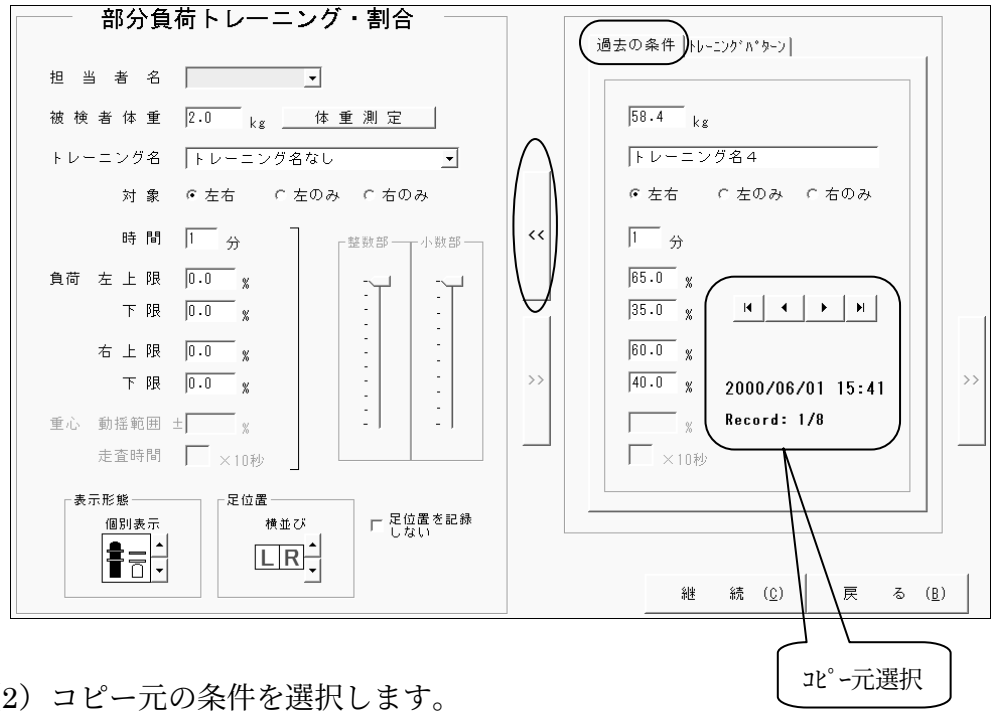
参考 体重測定について

- 測定体重値は左右の荷重センサー台の荷重合計値ですが、どちらか片側のみでの計測でも問題ありません。
- 計測中に被検者が動く等により、上下のブレが大きい場合には「計測データの変動が大きいため、測定精度が低い可能性があります…」のメッセージボックスが表示されます。再測定が必要であれば再度測定してください。

６－２－３　過去のトレーニング条件をコピーする

過去に実施したトレーニングの条件を簡単な操作でコピーすることが出来ます。（「通常モード」時のみ使用可能です）

（1）「トレーニング条件設定」ウィンドウにある「過去の条件」タブをクリックすると、タブ内のフレームに同一被検者の同一トレーニングモードの条件が表示されます。



（2）コピー元の条件を選択します。
最も新しい過去条件が先頭に表示されます。

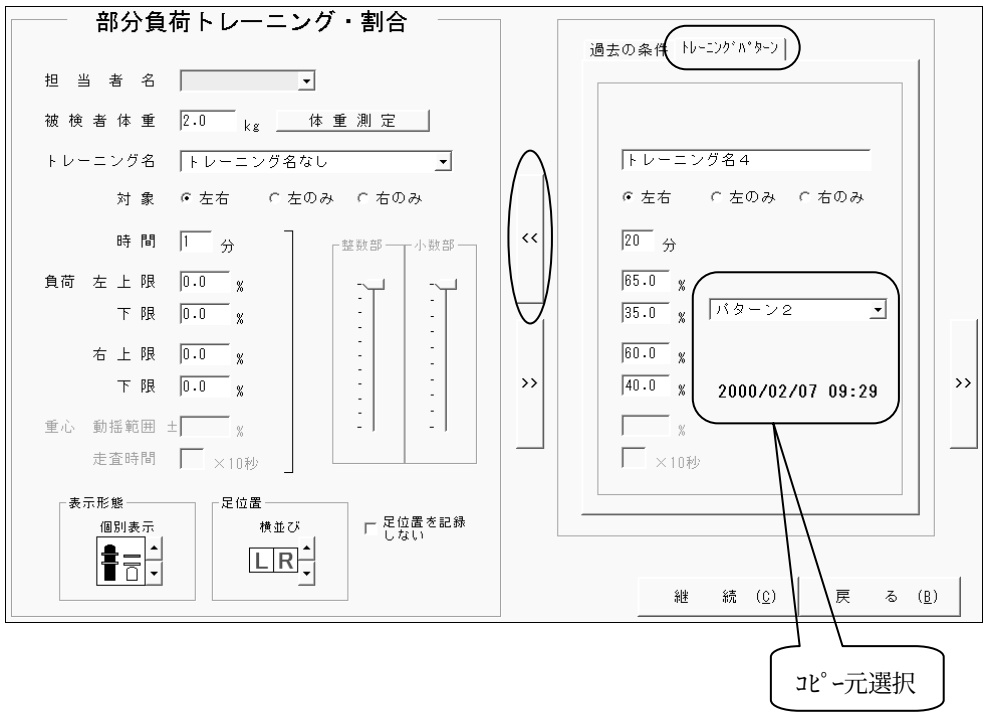
クリックすると表示対象が移動します。

（3）コピーする条件が表示されている状態で［**<<**］ボタンをクリックすると条件入力域にコピーされます。条件入力域の体重値が初期値（2.0 kg）あるいは未入力の場合は体重値もコピーします。前記以外ではメッセージボックスを表示してコピーする／しないを確認します。

６－２－４　登録してあるトレーニングパターンから条件をコピーする

事前に登録したトレーニングパターンの条件を簡単な操作でコピーすることが出来ます。（「通常モード」時のみ使用可能です）

（1）「トレーニング条件設定」ウィンドウにある「トレーニングパターン」タブをクリックすると、タブ内のフレームに同一トレーニングモードのトレーニングパターンが表示されます。



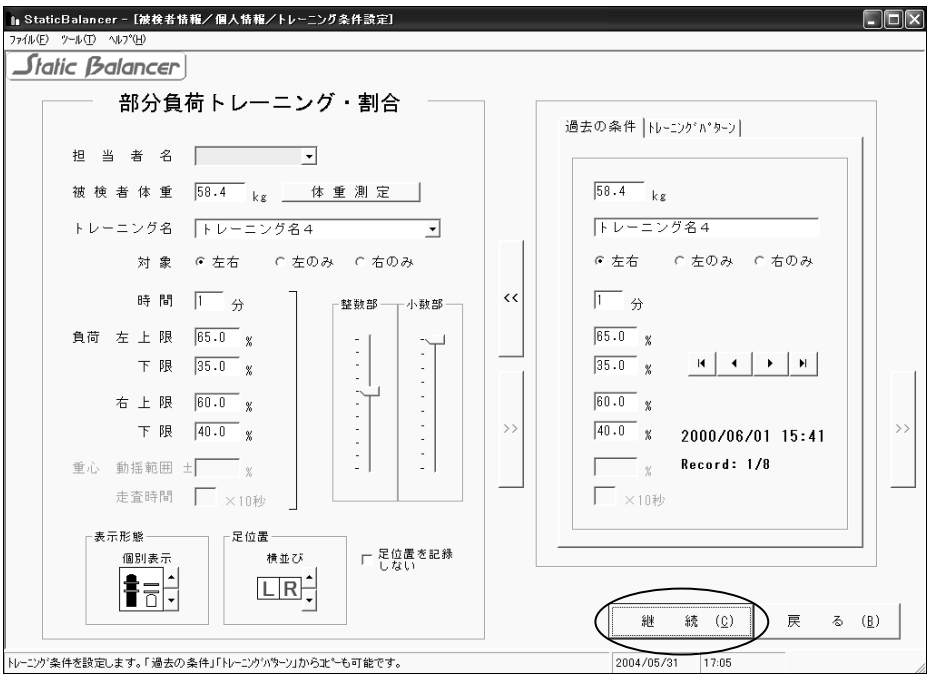
（2）コピー元の条件を選択します。
（下段の日時はトレーニングパターンの登録日時です）

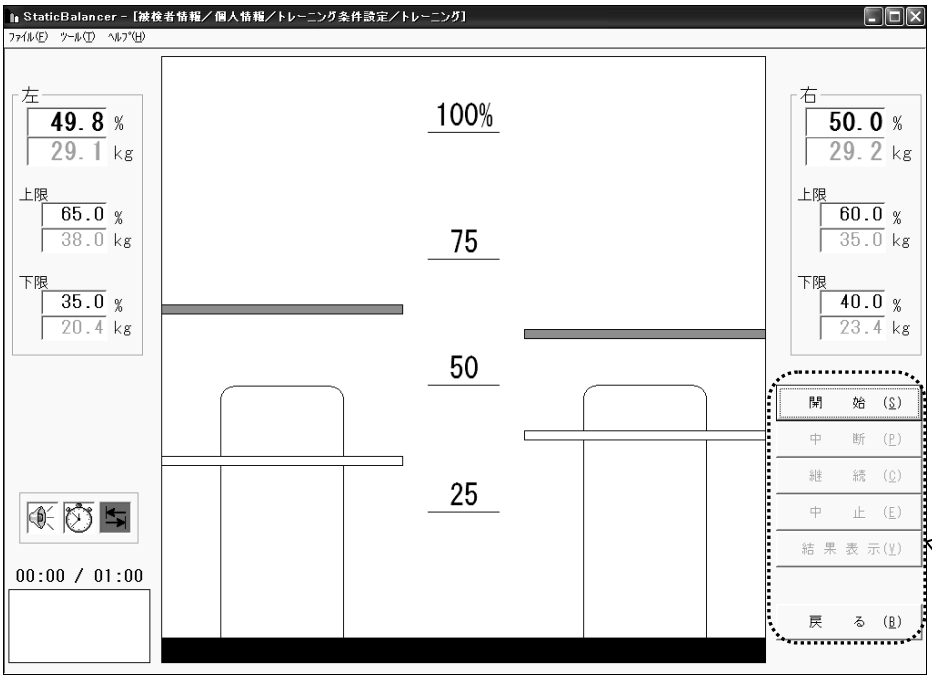
（3）コピーする条件が表示されている状態で［**<<**］ボタンをクリックすると条件入力域にコピーされます。

６－２－５　トレーニング時操作方法

トレーニング実施の際のボタンクリック動作を説明します。

（1）「トレーニング条件設定」ウィンドウでトレーニング条件を入力後、**[継続(C)]**ボタンをクリックすると「トレーニング」ウィンドウが表示（アイドル状態）されます。（簡易モードの場合も同様です）



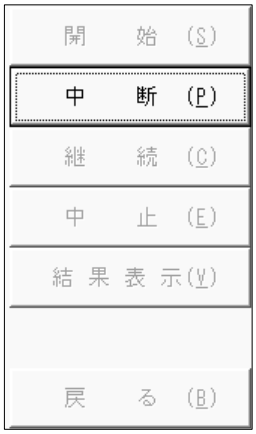


（2）アイドル状態

［開始(S)］ボタンクリック‥‥‥ トレーニングを開始します（トレーニング実施状態)。

［戻る(B)］ボタンクリック‥‥‥ トレーニングを実施せずに「トレーニング条件設定」ウィンドウに戻ります。

（3）トレーニング実施状態



［中断(P)］ボタンクリック‥‥‥ トレーニングを一時中断します（中断状態)。

（4）中断状態

［継続(C)］ボタンクリック‥‥‥ トレーニングを中断した時点から再開します。

［中止(E)］ボタンクリック‥‥‥ 中断しているトレーニングを再開せずに終了します。

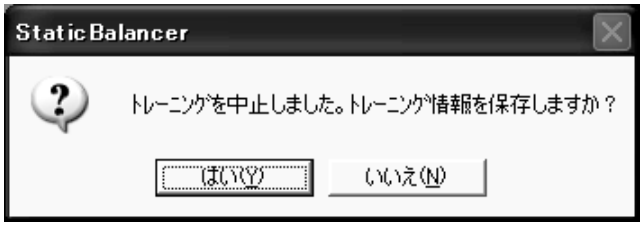
（5）トレーニング終了後（＝アイドル状態）

［開始(S)］ボタンクリック‥‥‥ 同じトレーニング条件でトレーニングを再度行います。

［結果表示(V)］ボタンクリック‥ トレーニング結果を表示します[1]。

［戻る(B)］ボタンクリック‥‥‥ 「トレーニング条件設定」ウィンドウに戻ります。

（6）「通常モード」時、トレーニングを中止した場合で且つトレーニング時間累計が１０秒以上の場合[2]にはメッセージボックスを表示してトレーニング結果を保存する／しないを確認します。



［はい(Y)］ボタンクリック ‥‥‥ トレーニングデータをデータベースに保存します。後で結果を確認することが出来ます。

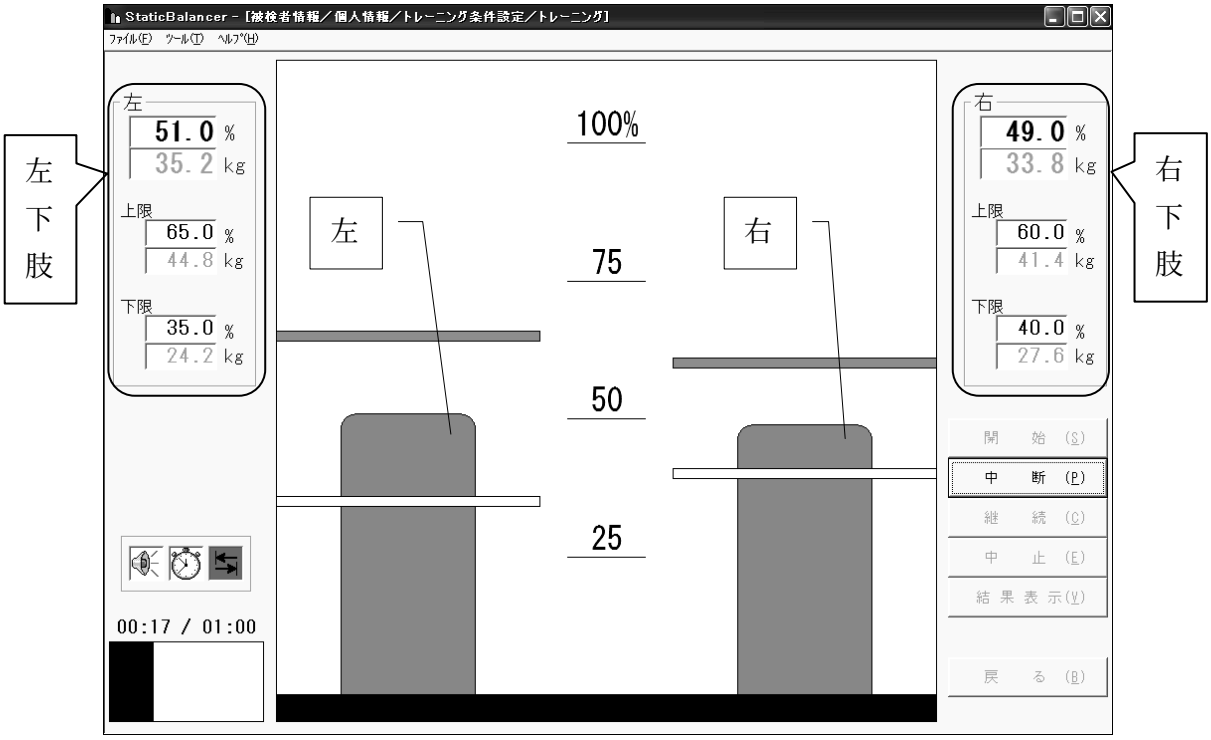
［いいえ(N)］ボタンクリック ‥‥ トレーニングデータをデータベースに保存しません。

1 「通常モード」時でトレーニング情報を保存した場合のみです。
2 １０秒未満でトレーニングを中止した場合は保存対象になりません。

６－２－６　トレーニングウィンドウの表示説明

６－２－６－１　部分負荷トレーニング・割合の表示説明

○ 個別表示の場合



- ウィンドウ両端のフレーム内表示は上から順に現在の荷重値、設定上限値、設定下限値で、それぞれ荷重値［kg］と、体重に対する割合［%］で表示します。

- 描画部の角の丸い矩形の上辺位置が現在の荷重値を示します。

- 描画部の桃色の横線／黄色い横線はそれぞれ設定上限値／下限値を示しています。線の中央が設定値です。

- 矩形の色変化により被検者に状態を通知します。矩形色は以下の通りです。

  アイドル状態（トレーニング開始前）･･･ 水色

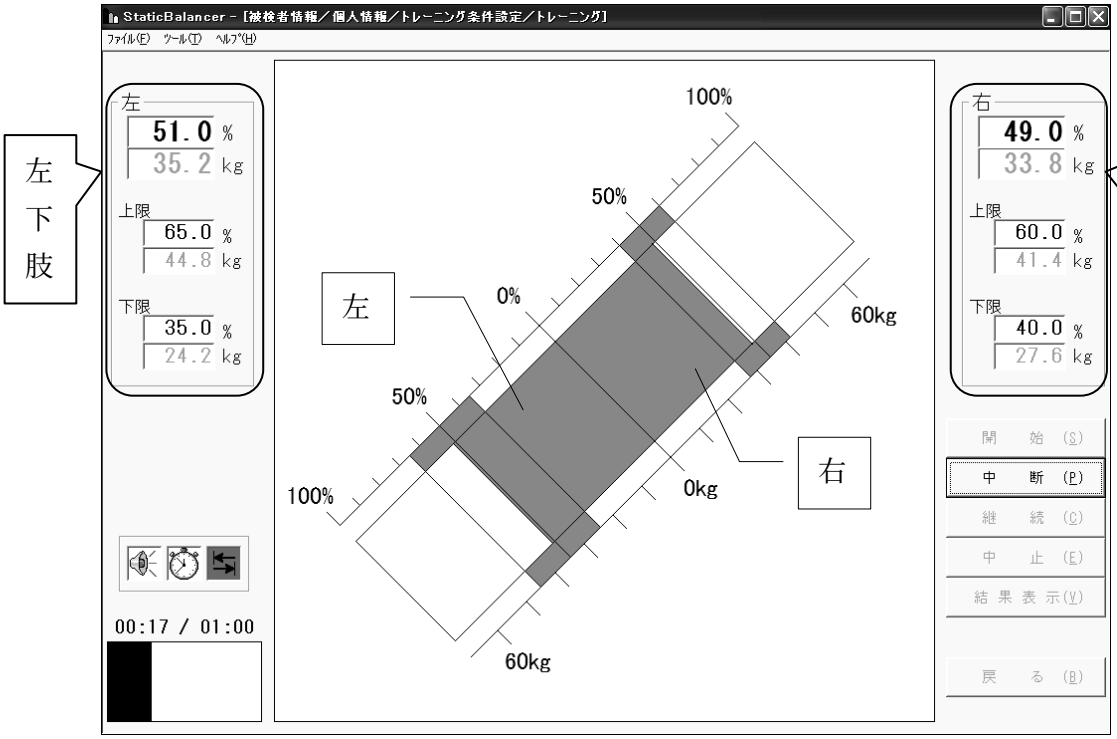
  トレーニング実施状態 ･･･････････････････ 緑 ← 荷重値が上下限範囲内にある場合

  赤 ← 荷重値が上限より上位にある場合

  薄黄 ← 荷重値が下限より下位にある場合

  中断状態 ･･･････････････････････････ 薄青

○ 連結表示の場合



- 描画部以外の表示内容は個別表示と同じです。

- 描画部の長方形中心が荷重ゼロ点、両端が左右の最大荷重点（＝体重値）になります。左右荷重は各々ゼロ点から最大点の間の色のついた矩形で示します。

- 設定上限値／下限値および両者の中央値は線表示し、緑の領域は設定範囲内を示しています。

- 矩形の色変化により被検者に状態を通知します。矩形色は以下の通りです。

  アイドル状態（トレーニング開始前）・・・ 水色

  トレーニング実施状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 緑 ← 荷重値が上下限範囲内にある場合

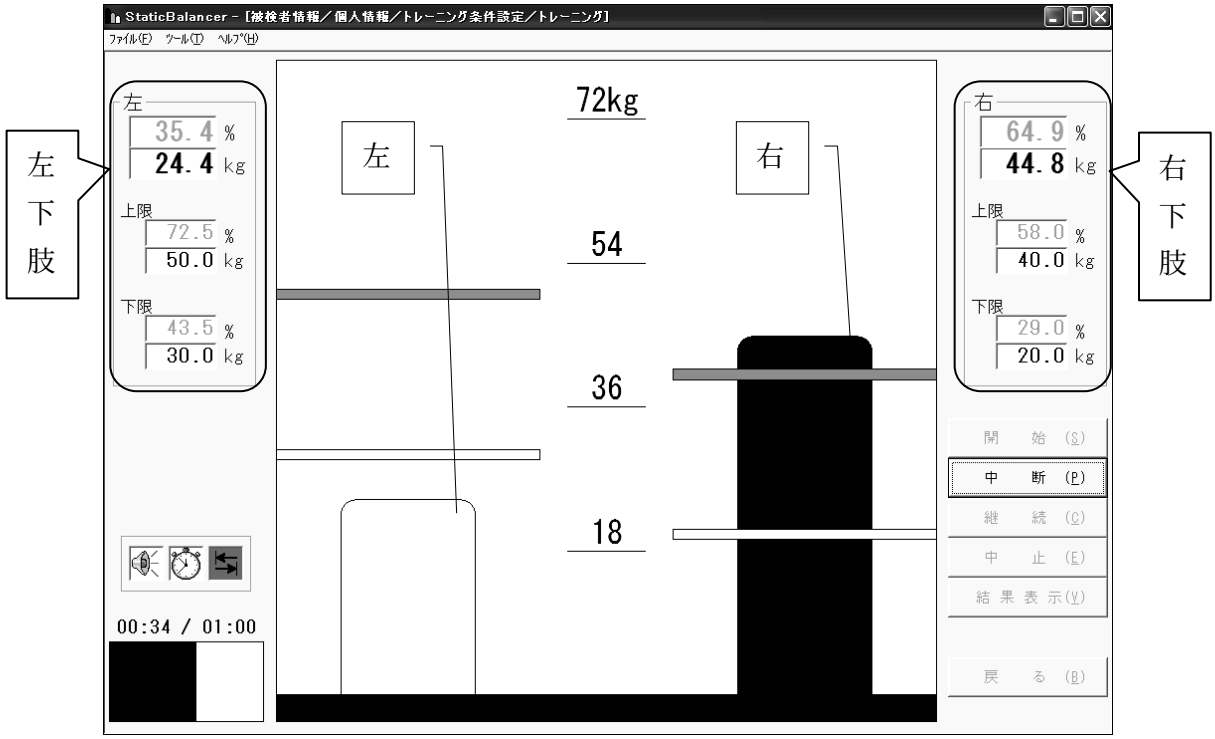
  赤 ← 荷重値が上限より上位にある場合

  薄黄 ← 荷重値が下限より下位にある場合

  中断状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 薄青

６－２－６－２　部分負荷トレーニング・荷重の表示説明

○ 個別表示の場合



- ウィンドウ両端のフレーム内表示は上から順に現在の荷重値、設定上限値、設定下限値で、それぞれ荷重値［ｋｇ］と、体重に対する割合［%］で表示します。

- 描画部の角の丸い矩形の上辺位置が現在の荷重値を示します。

- 描画部の桃色の横線／黄色い横線はそれぞれ設定上限値／下限値を示しています。線の中央が設定値です。

- 矩形の色変化により被検者に状態を通知します。矩形色は以下の通りです。

  アイドル状態（トレーニング開始前）･･･ 水色

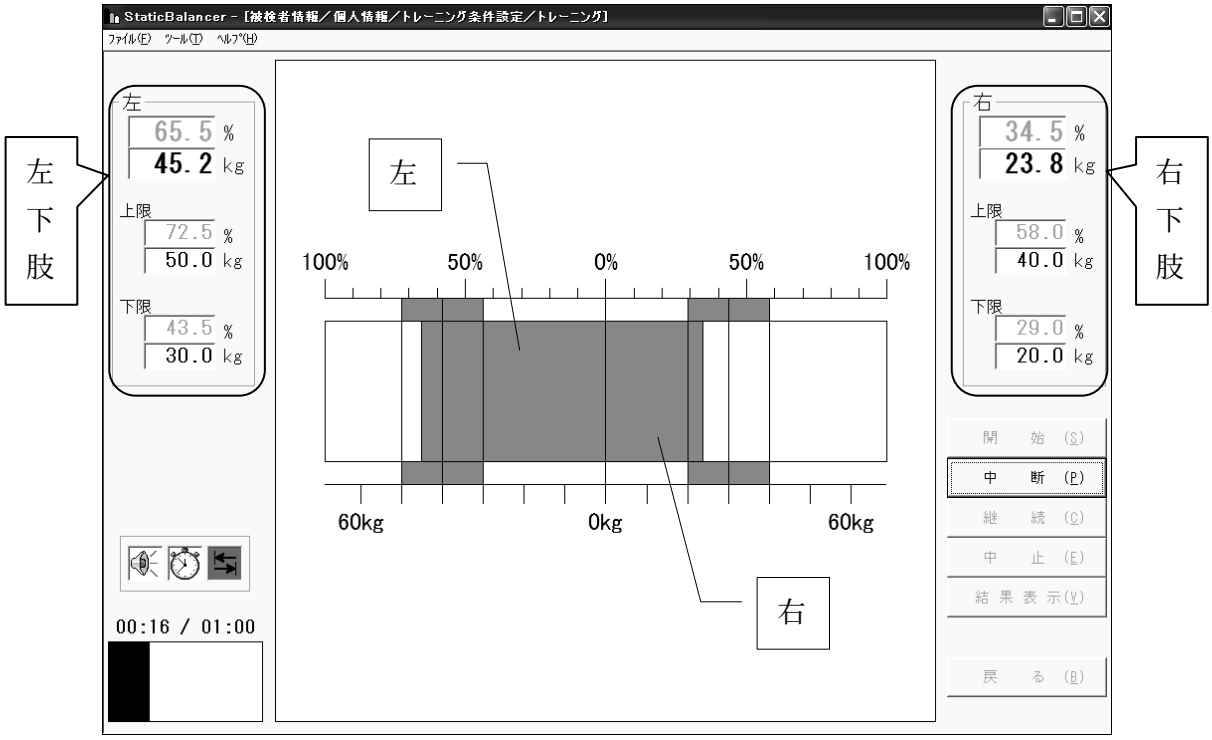
  トレーニング実施状態 ･･･････････････････ 緑 ← 荷重値が上下限範囲内にある場合

  赤 ← 荷重値が上限より上位にある場合

  薄黄 ← 荷重値が下限より下位にある場合

  中断状態 ･･･････････････････････････ 薄青

○ 連結表示の場合



- 描画部以外の表示内容は個別表示と同じです。

- 描画部の長方形中心が荷重ゼロ点、両端が左右の最大荷重点（＝体重値）になります。左右荷重は各々ゼロ点から最大点の間の色のついた矩形で示します。

- 設定上限値／下限値および両者の中央値は線表示し、緑の領域は設定範囲内を示しています。

- 矩形の色変化により被検者に状態を通知します。矩形色は以下の通りです。

  アイドル状態（トレーニング開始前）・・・ 水色

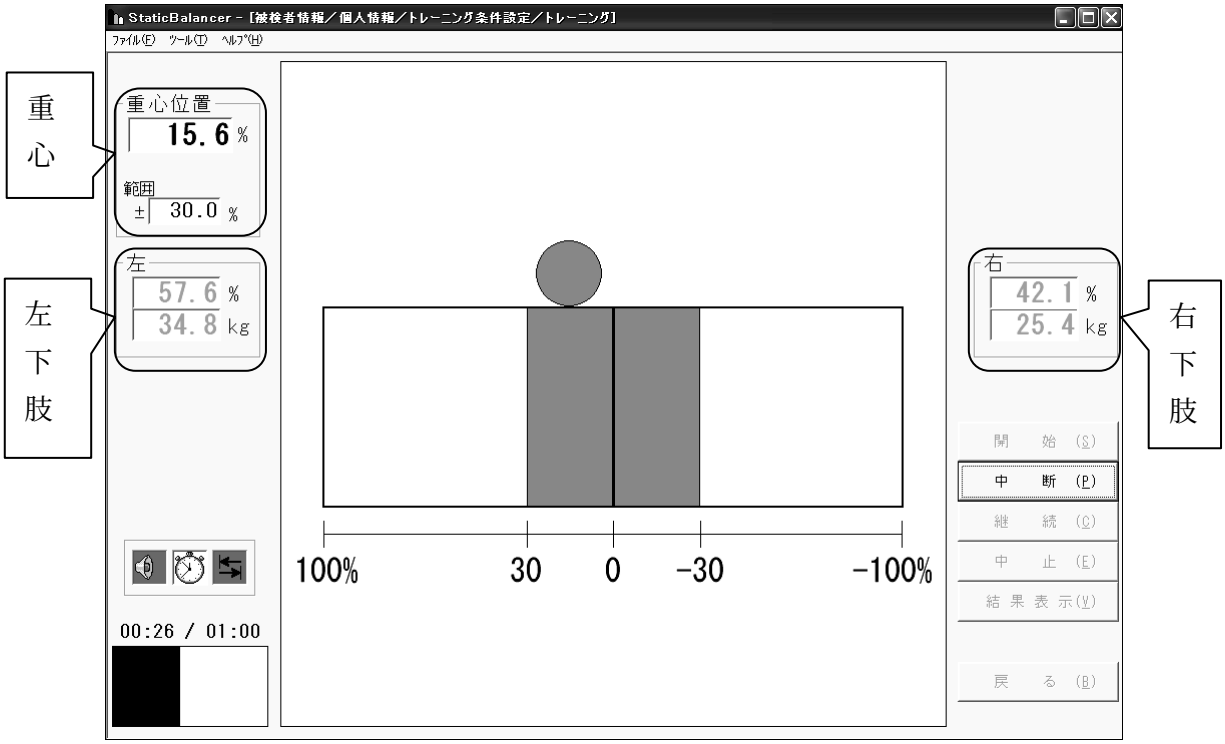
  トレーニング実施状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 緑 ← 荷重値が上下限範囲内にある場合

  赤 ← 荷重値が上限より上位にある場合

  薄黄 ← 荷重値が下限より下位にある場合

  中断状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 薄青

６－２－６－３　バランストレーニング・指針の表示説明



- ウィンドウ左端上部のフレーム内表示は上から順に現在の重心位置、設定重心動揺範囲です。
- ウィンドウ両端中部のフレーム内表示は現在の荷重値［kg］と、体重に対する割合［%］です。
- 描画部の円形の中心位置(矩形との接点位置)が現在の重心位置を示します。
- 描画部の矩形内、緑の領域は設定範囲内を示しています。薄黄の領域は設定範囲外を示しています。
- 円形の色変化により被検者に状態を通知します。円形色は以下の通りです。

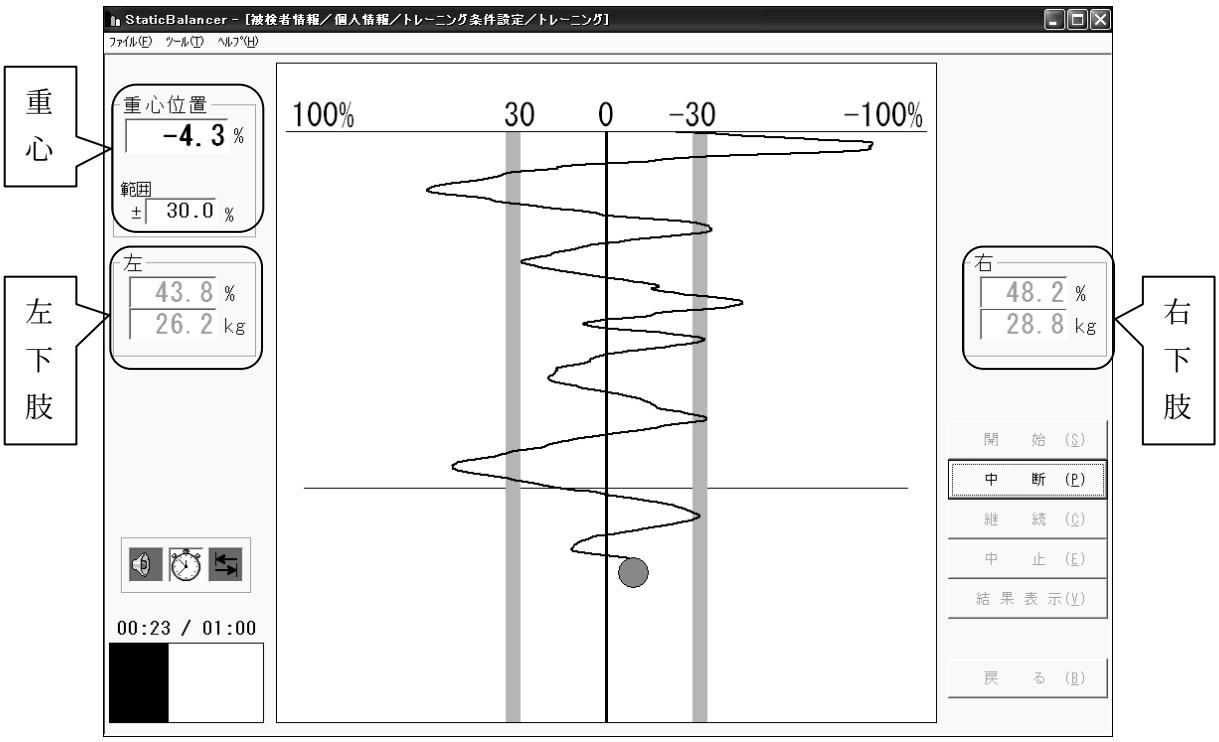
  アイドル状態（トレーニング開始前）･･･ 水色

  トレーニング実施状態 ･･･････････････････ 緑 ← 重心位置が範囲内にある場合

  　　赤 ← 重心位置が範囲外にある場合

  中断状態 ･･･････････････････････････ 薄青

６－２－６－４　バランストレーニング・軌跡の表示説明



- ウィンドウ左端上部のフレーム内表示は上から順に現在の重心位置、設定重心動揺範囲です。

- ウィンドウ両端中部のフレーム内表示は現在の荷重値［kg］と、体重に対する割合［%］です。

- 描画部の円形の中心位置が現在の重心位置を示します。重心位置の移動軌跡が青色で描かれます。桃色線の内側が設定範囲を示しており、線幅は円半径と同じです。

- 円形の色変化により被検者に状態を通知します。円形色は以下の通りです。

  アイドル状態（トレーニング開始前）･･･ 水色

  トレーニング実施状態 ･･･････････････････ 緑 ← 重心位置が範囲内にある場合

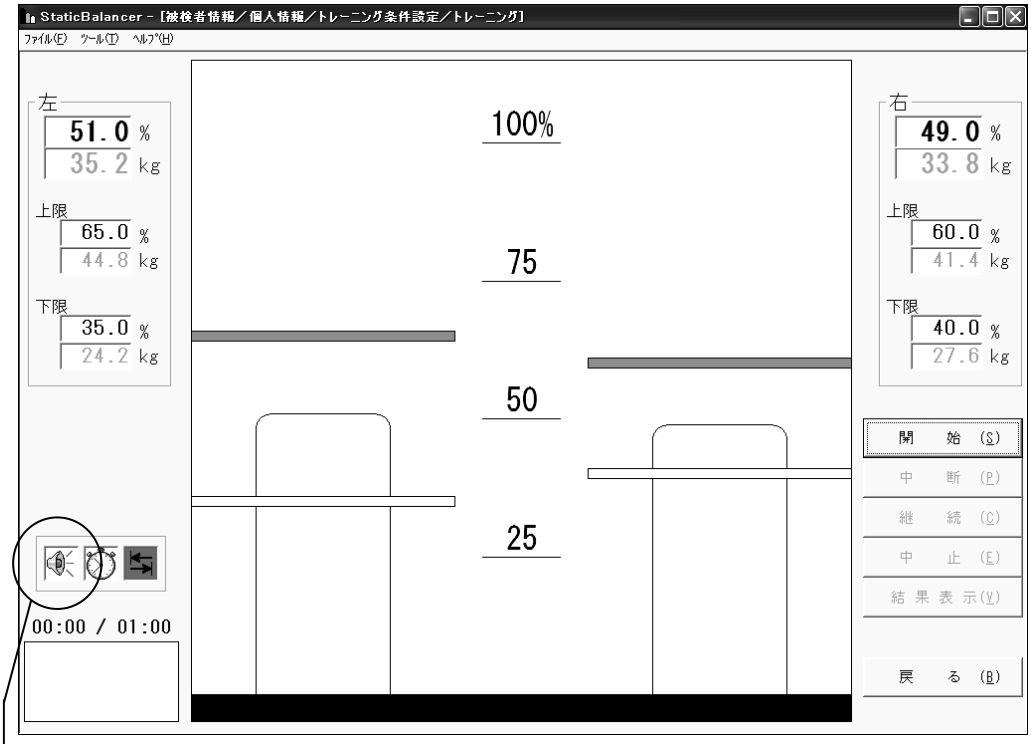
  　　赤 ← 重心位置が範囲外にある場合

  中断状態 ･･･････････････････････････ 薄青

６－２－７　警告音・終了音を出す／出さない

トレーニング時に下肢荷重や重心位置が設定した範囲外にあることを通知する警告音、およびトレーニング終了を知らせる終了音の出力を制御できます。設定変更は「トレーニング」ウィンドウで行う場合とそれ以外のウィンドウでの場合とで異なりますが、どちらで設定しても構いません。

○　「トレーニング」ウィンドウでの設定



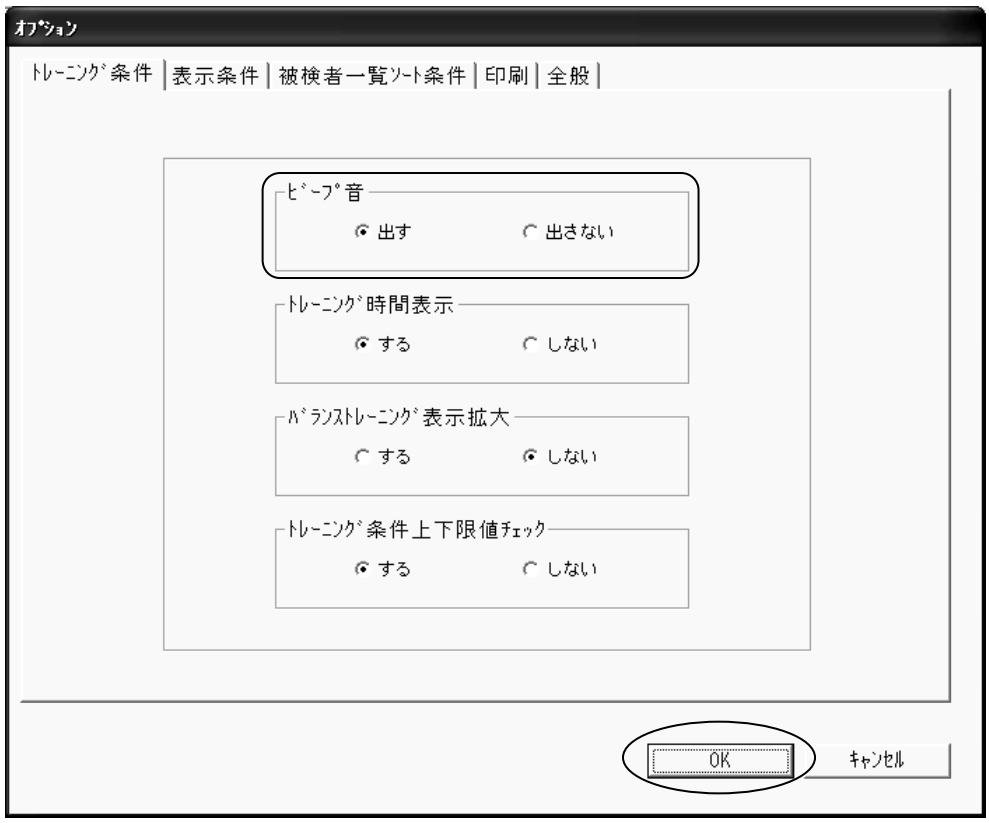
ボタンをクリックすることにより状態を変化させます。

絵の背景が水色 ・・・・・・ 警告音、終了音を出力します。
絵の背景が灰色 ・・・・・・ 警告音、終了音を出力しません。

トレーニング実行中に設定変更することも可能です。

○ 「トレーニング」ウィンドウ以外での設定

(1) メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［トレーニング条件］-［ビープ音］の設定を変更します。



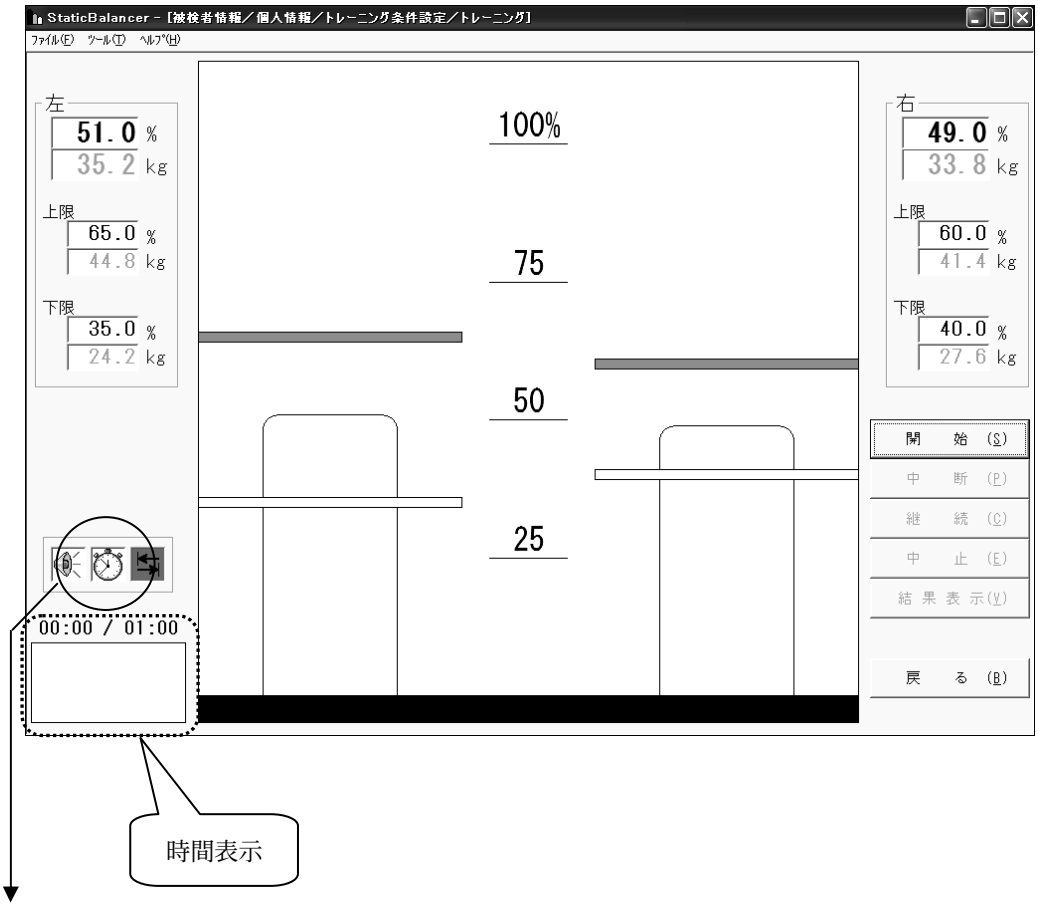
［出す］ ・・・・・・・・・・・ 警告音、終了音を出力します。
［出さない］ ・・・・・・・ 警告音、終了音を出力しません。

(2) **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

６－２－８　トレーニング時間表示をする／しない

トレーニングの経過時間を数値およびグラフィカルに表示する／しないを制御できます。設定変更は「トレーニング」ウィンドウで行う場合とそれ以外のウィンドウでの場合とで異なりますが、どちらで設定しても構いません。

○ 「トレーニング」ウィンドウでの設定



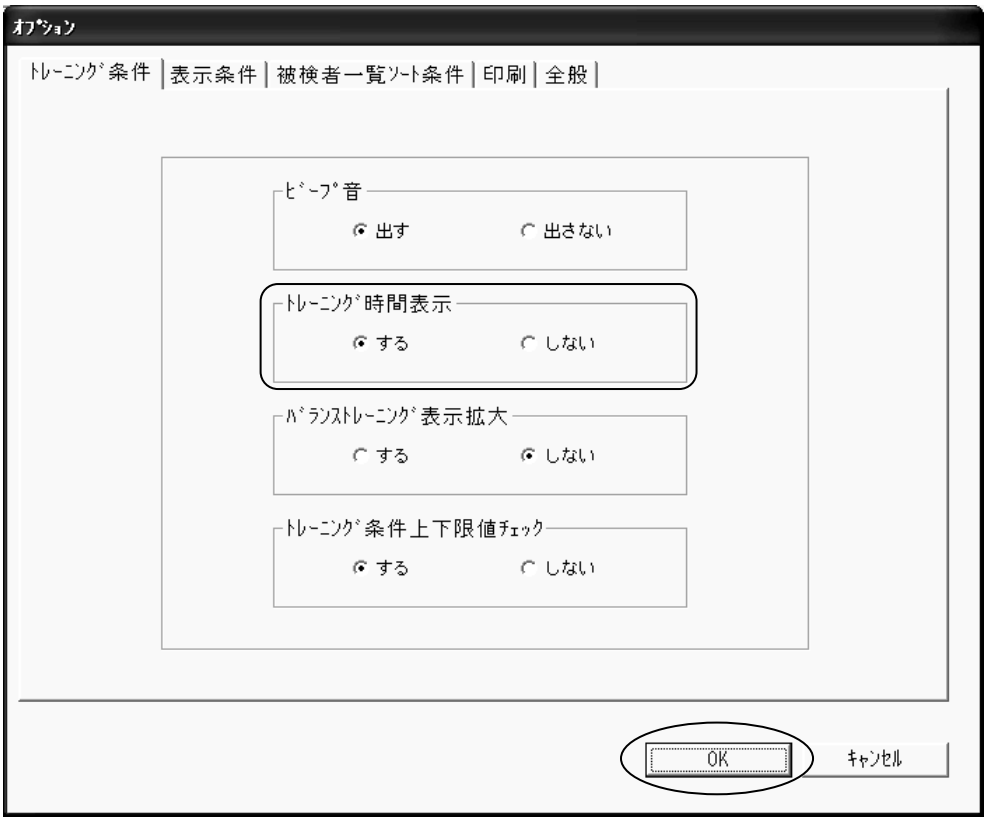
ボタンをクリックすることにより状態を変化させます。

絵の背景が水色 ・・・・・・ トレーニング時間を表示します。
絵の背景が灰色 ・・・・・・ トレーニング時間を表示しません。

トレーニング実行中に設定変更することも可能です。

○ 「トレーニング」ウィンドウ以外での設定

(1) メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［トレーニング条件］-［トレーニング時間表示］の設定を変更します。



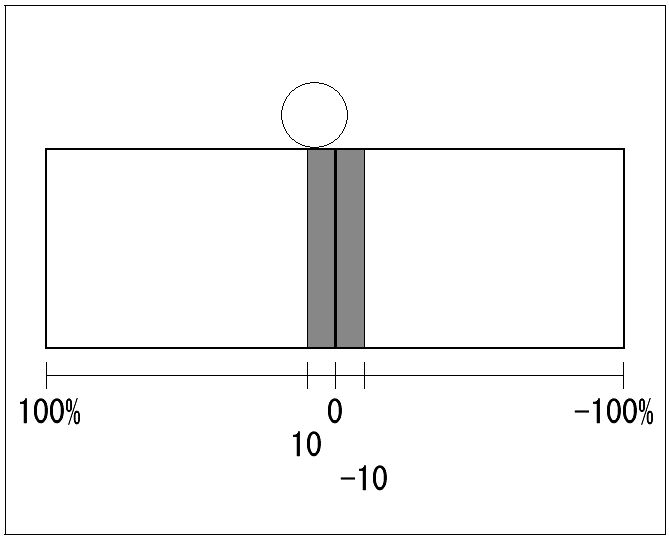
［する］ ・・・・・・・・・・・ トレーニング時間を表示します。
［しない］ ・・・・・・・・・ トレーニング時間を表示しません。

(2) **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

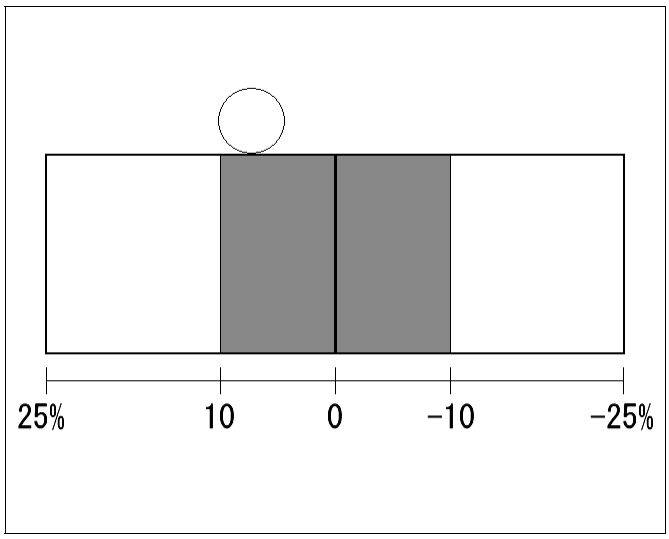
６－２－９　バランストレーニングで表示スケールを変更する

バランストレーニングでは動揺範囲が４０％未満の場合、表示の全体幅と動揺範囲との表示比率が常に５：２になるように設定できます。設定変更は「トレーニング」ウィンドウで行う場合とそれ以外のウィンドウでの場合とで異なりますが、どちらで設定しても構いません。
動揺範囲が４０％以上の場合、設定に関わらず全体幅は常に±１００％になります。

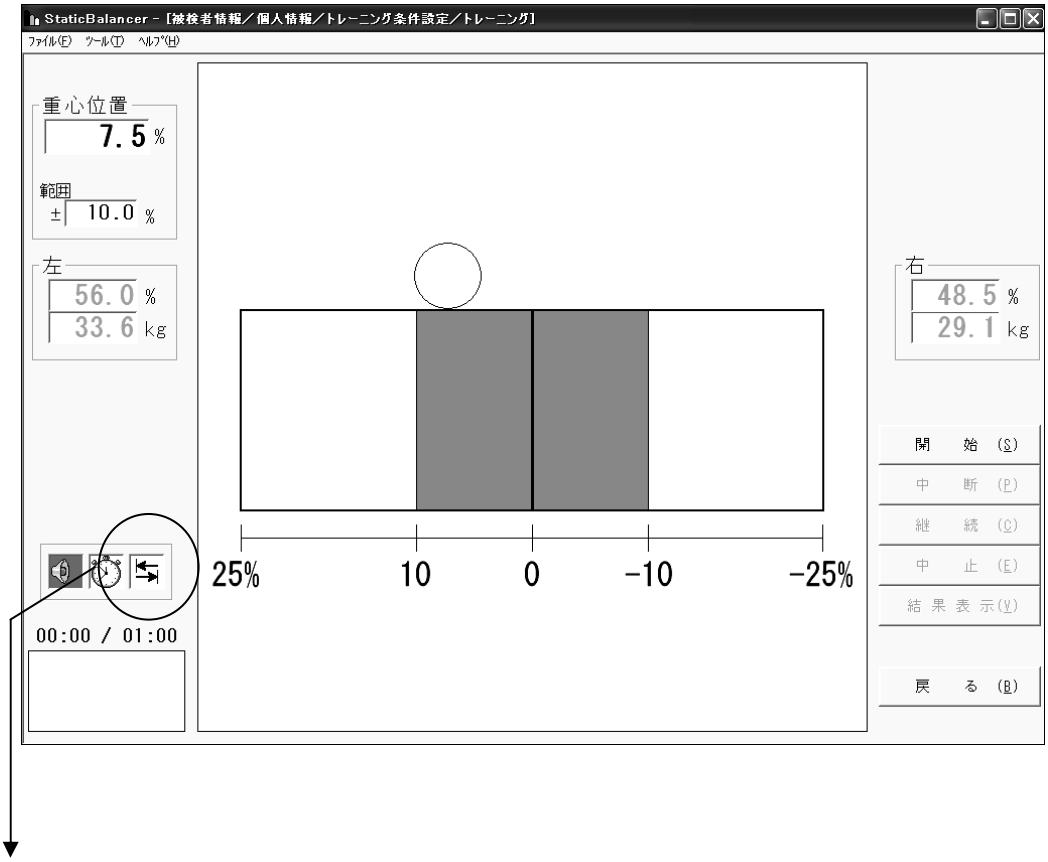
例：動揺範囲±１０％時
拡大表示なし



拡大表示あり



○ 「トレーニング」ウィンドウでの設定



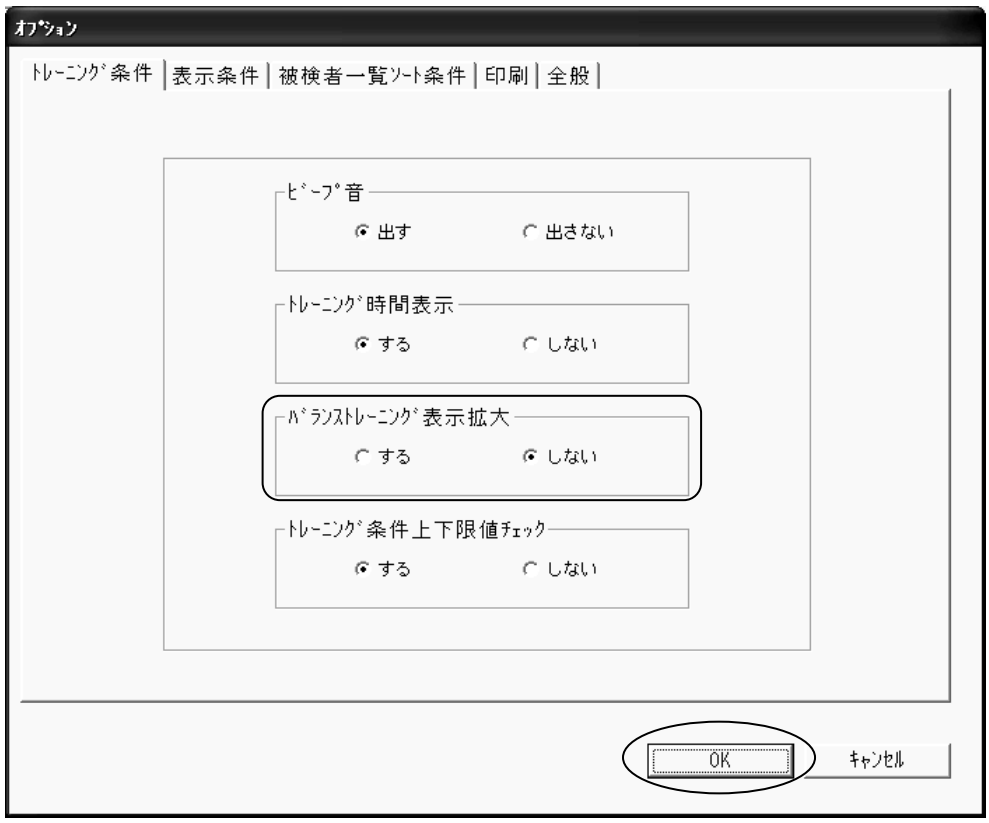
ボタンをクリックすることにより状態を変化させます。

絵の背景が水色 ・・・・・・ 拡大表示します。
絵の背景が灰色 ・・・・・・ 拡大表示しません。

設定変更はトレーニング開始前のみ可能です。トレーニング開始後の変更はできません。

○ 「トレーニング」ウィンドウ以外での設定

(1) メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［トレーニング条件］-［バランストレーニング表示拡大］の設定を変更します。



［する］ ‥‥‥‥‥‥ 拡大表示します。
［しない］ ‥‥‥‥‥ 拡大表示しません。

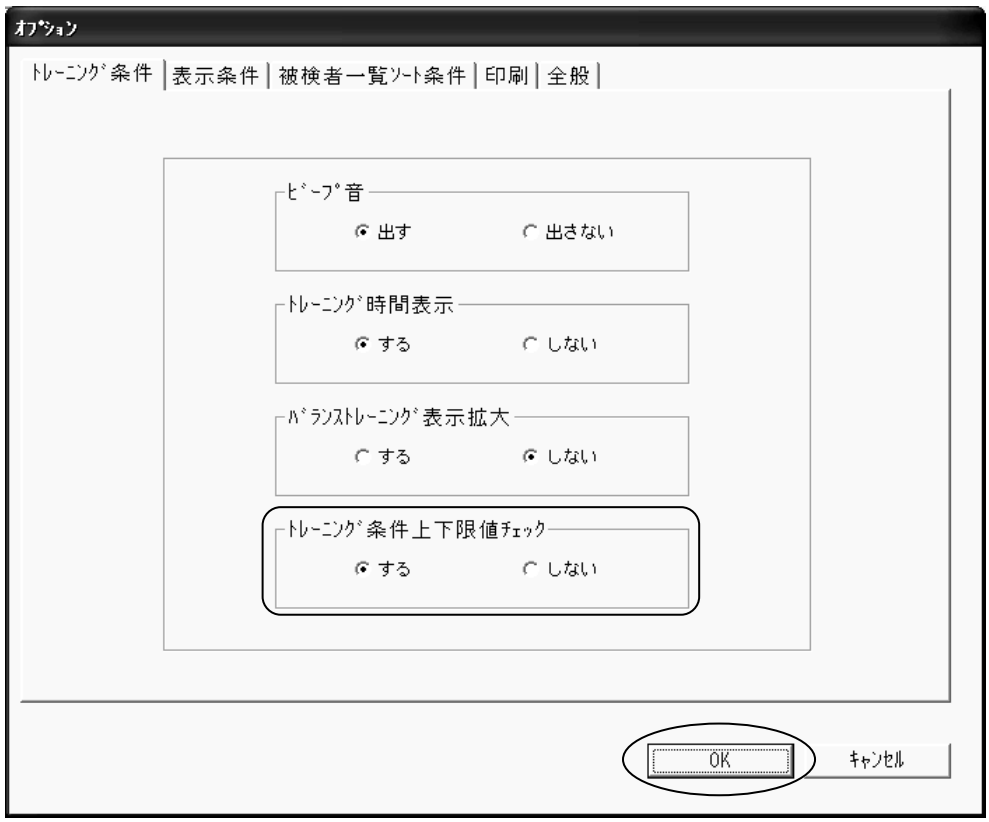
(2) **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

６－２－１０　部分負荷トレーニングで上下限値のチェックをする／しない

部分負荷トレーニングでは左右負荷の上／下限値の関係をチェックして、以下に該当する場合にメッセージボックスで通知する機能があります。このチェック機能を有効にする／しないを設定できます（下記条件に該当する場合でもトレーニング自体は実行可能です）。

対象下肢	チェック対象	チェック内容	
		部分負荷トレーニング・割合	部分負荷トレーニング・荷重
左右	上限値の和	＜１００％	＜体重値
	下限値の和	＞１００％	＞体重値
左	左上限値	―	＞体重値
右	右上限値	―	＞体重値

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［トレーニング条件］-［トレーニング条件上下限値チェック］の設定を変更します。

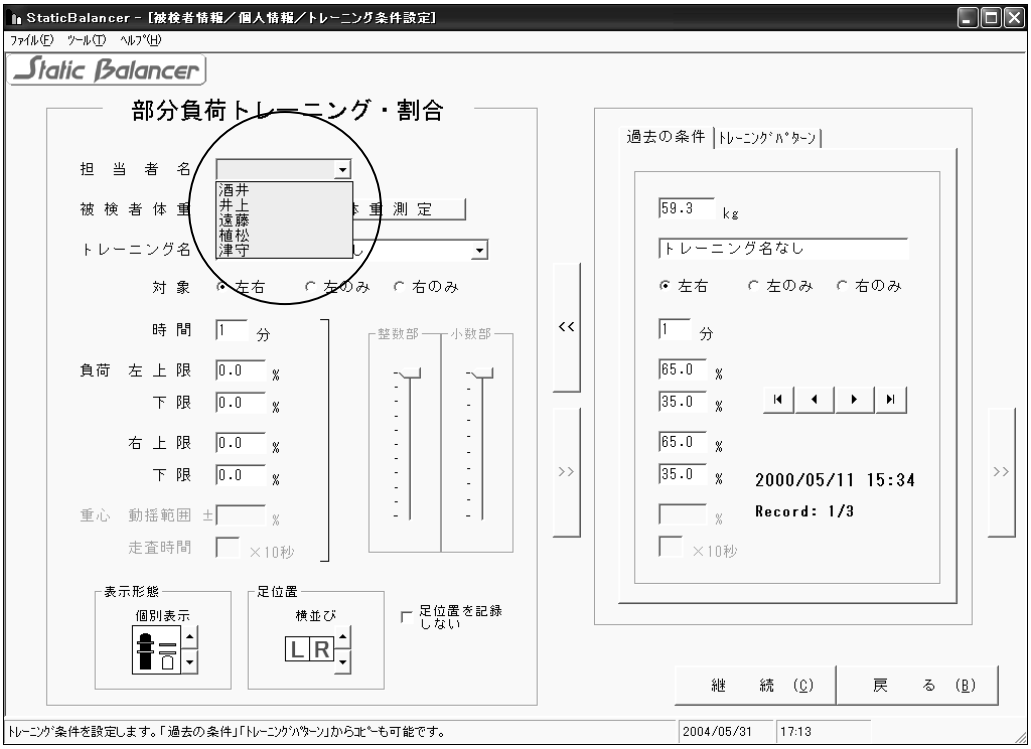


［する］ ・・・・・・・・・・・ チェックします。
［しない］ ・・・・・・・・・ チェックしません。

（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

６－２－１１　担当者リストをソートして表示する

「トレーニング条件設定」ウィンドウの担当者名リストには担当者名入力補助ファイルに記述した内容が一覧表示されます。記述順に表示する（既定値）／ソートして表示する　の２通りから選択できます。



(1) メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［表示条件］-［入力補助ファイル内容表示方法］-［担当者名ソート］の設定を変更します。

［する］ ‥‥‥ ソートして表示します。
［しない］ ‥‥‥ 担当者名入力補助ファイルに記述された順に表示します。

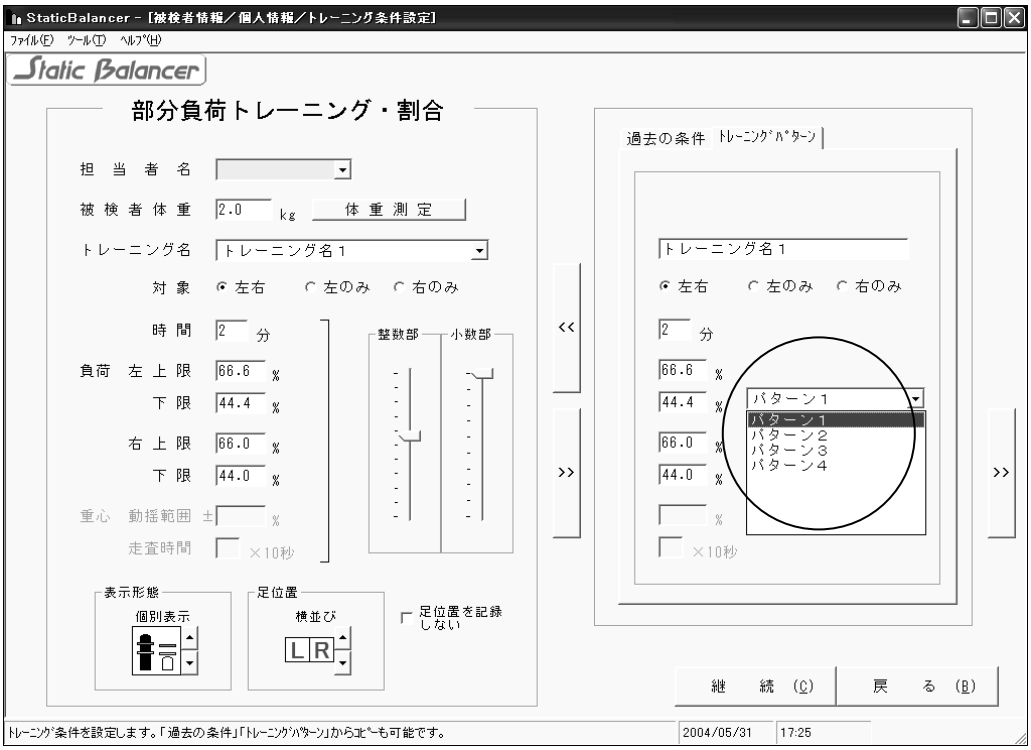
(2) **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

(3) 以降、担当者名の表示は設定に従います。「トレーニング条件設定」ウィンドウ表示中に上記設定変更を実行した場合は次回の表示から有効になります。

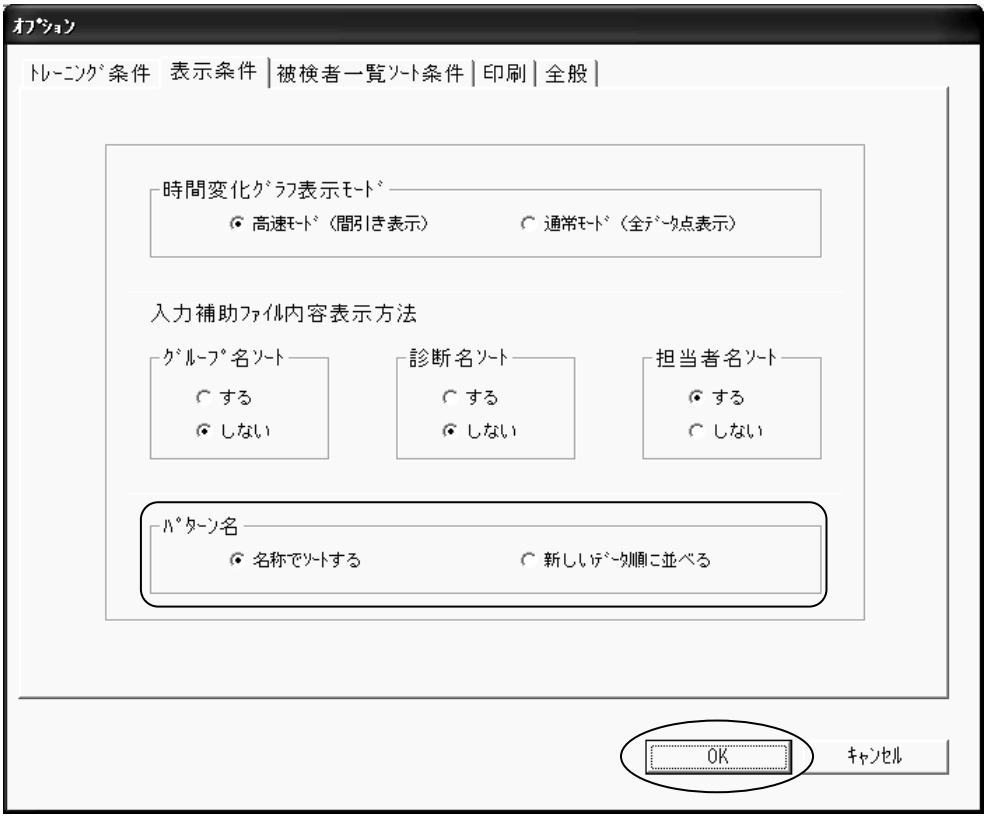
関連【8－2　入力補助ファイル形式】

６－２－１２　トレーニングパターンの表示順（名称順／登録順）を設定する

「トレーニング条件設定」ウィンドウのトレーニングパターン一覧表示には、名称でソートして表示する（既定値）／登録日順に表示する　の２通りから選択できます。



(1) メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［表示条件］-［パターン名］の設定を変更します。



［名称でソートする］ ‥‥‥‥ パターン名称でソートして表示します。
［新しいデータ順に並べる］ ‥ 最も新しい登録データを先頭に表示します。

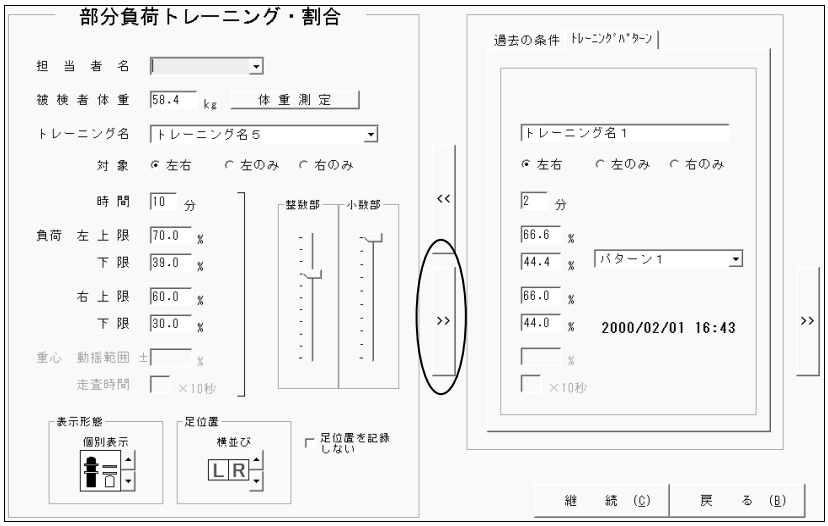
(2) **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

(3) 以降、パターン名の表示は設定に従います。「トレーニング条件設定」ウィンドウ表示中に上記設定変更を実行した場合は次回の表示から有効になります。

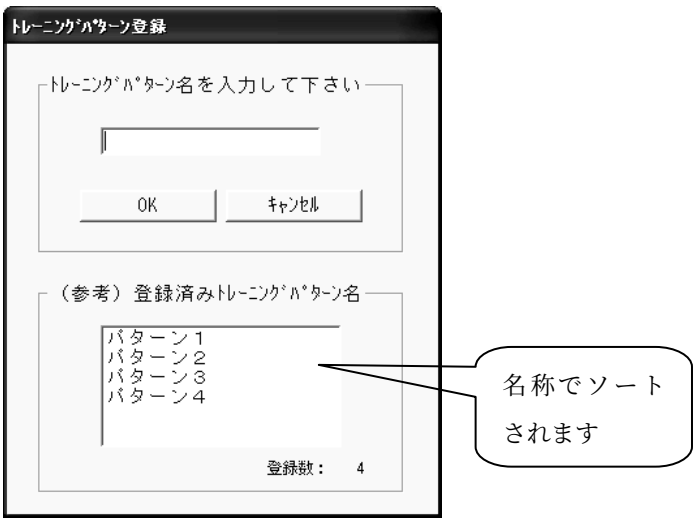
６－２－１３　トレーニングパターンを登録する

「トレーニング条件設定」ウィンドウでトレーニングパターンを登録する手順です。登録対象は「トレーニング名」～「走査時間」までの項目です。被検者は任意に選択してください。

(1) 「トレーニング条件設定」ウィンドウの条件入力域でパターン登録する条件を設定後、「トレーニングパターン」タブをクリックし、さらに中央の [>>] ボタンをクリックすると「トレーニングパターン登録」ウィンドウが表示されます。



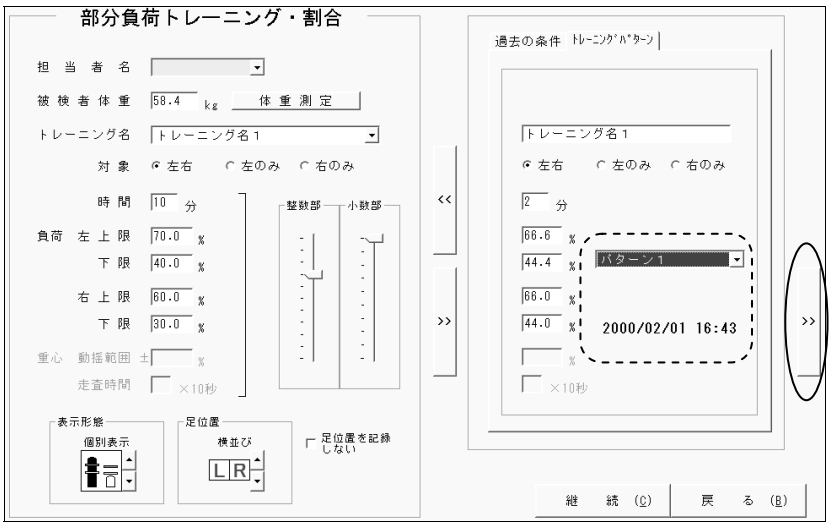
(2) パターン名を全角１０文字以内で入力し、[OK] ボタンをクリックして登録を行います。同一トレーニングモードでの同一パターン名は登録できません（登録しようとすると、できない旨のメッセージボックスが表示されます)。



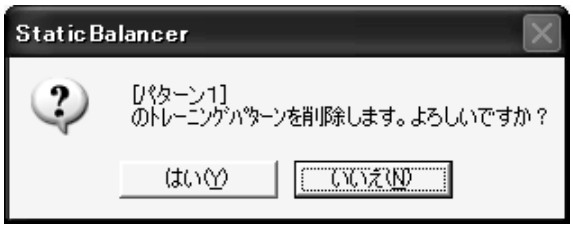
６－２－１４　トレーニングパターンを削除する

「トレーニング条件設定」ウィンドウで既に登録してあるトレーニングパターンを削除する手順です。被検者は任意に選択してください。

(1) 「トレーニング条件設定」ウィンドウの「トレーニングパターン」タブをクリックし、パターン名リストから削除するパターン名を選択します。さらに右側の［>>］ボタンをクリックします。



(2) トレーニングパターン削除確認のメッセージボックスが表示されます。



［はい(Y)］ボタンクリック ・・・・・・・ パターンを削除します。
［いいえ(N)］ボタンクリック ・・・・・ 削除しません。

参考 トレーニングパターン名称の変更
パターン名称の変更機能はありません。名称変更が必要な場合は一旦削除した後に同条件のパターンを別に登録してください。

６－３　トレーニングデータ表示関連

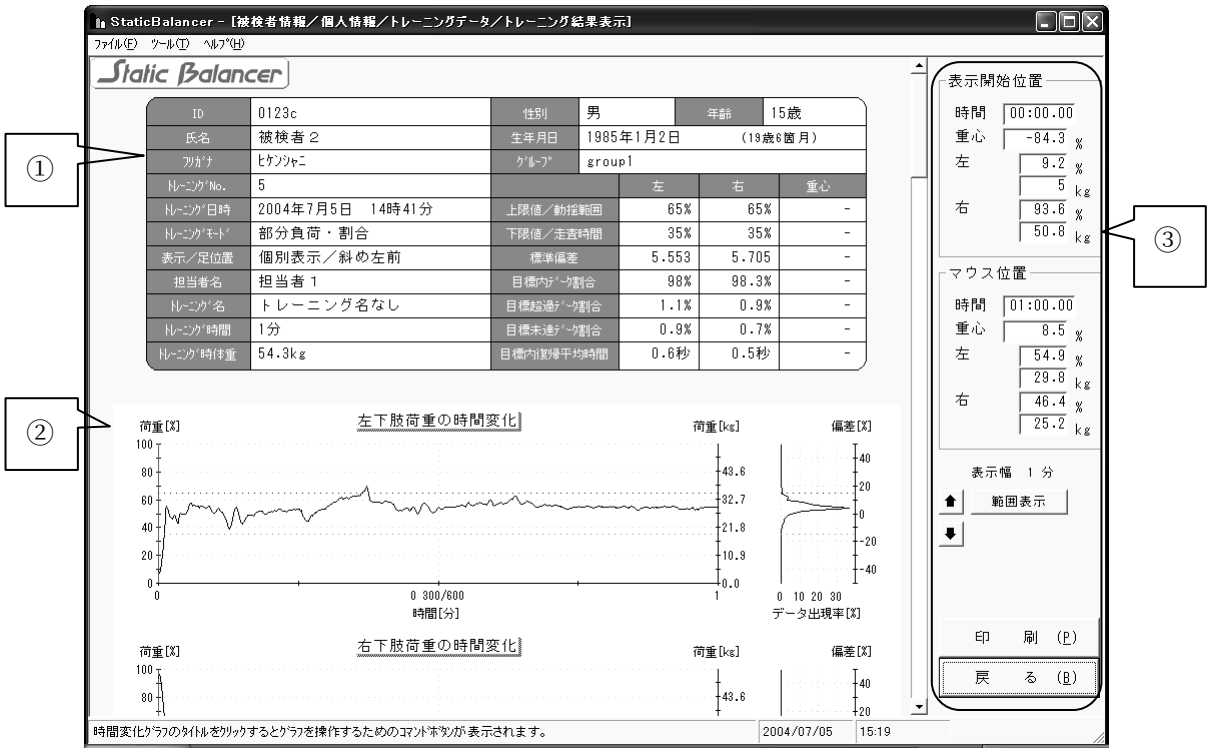
６－３－１　トレーニング結果を表示・印刷する

トレーニング結果の表示方法と、「トレーニング結果表示」ウィンドウの基本操作方法を説明します。

（1）「被検者情報」ウィンドウで被検者を選択し、[**継続(C)**]ボタンをクリックします。
（2）「個人情報」ウィンドウが表示されます。[**データ表示(D)**]ボタンをクリックします。
（3）「トレーニングデータ」ウィンドウが表示されます。表示するトレーニングを選択して［**結果表示(V)**］ボタンをクリックします。

参考　トレーニング実施直後に「トレーニング」ウィンドウで［**結果表示(V)**］ボタンをクリックすると該当の結果を表示します。

「結果表示」ウィンドウではウィンドウ上部に被検者情報・トレーニング条件・トレーニング結果を表内に表示し、その下に左下肢、右下肢、重心の順に「時間変化グラフ」および「データ出現率グラフ」を表示します。



① 表内項目の説明

- ID、氏名、フリガナ、性別、年齢、生年月日、グループ
  登録した被検者情報です。
  生年月日括弧内はトレーニング時被検者年齢（ｎ歳m箇月）です。

- トレーニング No.
  トレーニングデータ保存時に１～３２７６７を自動採番します。

- トレーニング日時
  トレーニングを実施した日時

- トレーニングモード、表示／足位置、担当者名、トレーニング名、トレーニング時間、トレーニング時体重、上限値／動揺範囲、下限値／走査時間
  トレーニング時の設定条件です。トレーニング時間完了前に中止した場合には設定時間の右横に赤字で実行時間が表示されます。バランストレーニング時、表示（形態）は無し（”--“）になります。

● 標準偏差

左右下肢の場合：サンプリングデータ［kg］をトレーニング時体重に対する割合［%］（下肢荷重［ｋｇ］÷体重［kg］×１００）に直したデータ群の標準偏差です。

重心の場合：重心位置（(左下肢荷重［kg］－右下肢荷重［kg］）÷体重［kg］×１００）の標準偏差です。

● 目標内データ割合

左右下肢の場合：上限値－下限値の範囲内のデータ割合［%］です。

重心の場合：動揺範囲内のデータ割合［%］です。

● 目標超過データ割合

左右下肢の場合：上限値を上回ったデータ割合［%］です。

重心の場合：動揺範囲外のデータ割合［%］です。

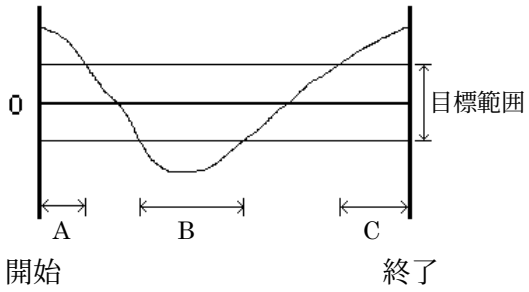
● 目標未達データ割合

左右下肢の場合：下限値を下回ったデータ割合［%］です。

● 目標内復帰平均時間

目標外にある状態から目標内に戻るまでの時間［秒］の平均値です。

下例の場合 A､B は計算対象、C は非計算対象です。



参考 目標内外データ割合の合計について

目標内データ割合、目標超過データ割合、目標未達データ割合は各々小数点第２位が丸め対象ですので３値の合計は必ずしも１００％にはなりません。

② グラフの説明

- 時間変化グラフの横軸
  経過時間です。 例 1235/600 → １分２３．５秒

- 赤い点線・オレンジ色の点線
  左右下肢の場合：それぞれ上限値、下限値を示します。
  重心の場合：動揺範囲を示します。

- 時間変化グラフのタイトル（「**の時間変化」）をクリック
  （左あるいは右）クリックにより時間変化グラフ操作のコマンドボタンの表示有無を切り替えます。
  関連 **【６－３－８ 時間変化グラフを操作して拡大・縮小・スクロールする】**

- データ出現率グラフ
  左右下肢の場合：上限値と下限値の中央位置をゼロ点とし、ゼロ点を中心に級間隔を２％とした場合のデータ出現率を示します。データはサンプリングデータ［kg］をトレーニング時体重に対する割合［%］（下肢荷重［kg］÷体重［kg］×１００）に直した値とゼロ点との差です。
  重心の場合：左右荷重均衡位置をゼロ点とし、ゼロ点を中心に級間隔を２％とした場合のデータ出現率を示します。データは重心位置（(左下肢荷重［kg］－右下肢荷重［kg］）÷体重［kg］×１００）とゼロ点との差です。
  なお、グラフ上の**偏差**とは「級中値とゼロ点との差」を意味しています。

③ ウィンドウ右端項目の説明

- 表示開始位置
  現在表示している時間変化グラフ先頭（左端）データの時間、重心位置、左右荷重です。

- マウス位置
  時間変化グラフ上でマウス操作すると、黒いラインが表示されマウスポインタと共に移動します。そのデータ点の時間、重心位置、左右荷重です。

- 表示幅
  現在表示している時間変化グラフの時間（X 軸）幅を示します。

- ［範囲表示］ボタンをクリック
  時間変化グラフの上／下限値・動揺範囲を示すライン表示有無を切り替えます。

- ボタン、 ボタンクリック
  ウィンドウを適切な位置にスクロールさせます。

- ［印刷(P)］ボタンをクリック
  トレーニング結果印刷のプレビューウィンドウを表示します。「印刷プレビュー」ウィンドウで［**印刷(P)**］ボタンをクリックすると印刷開始します。

- ［戻る(B)］ボタンをクリック
  前ウィンドウに戻ります。

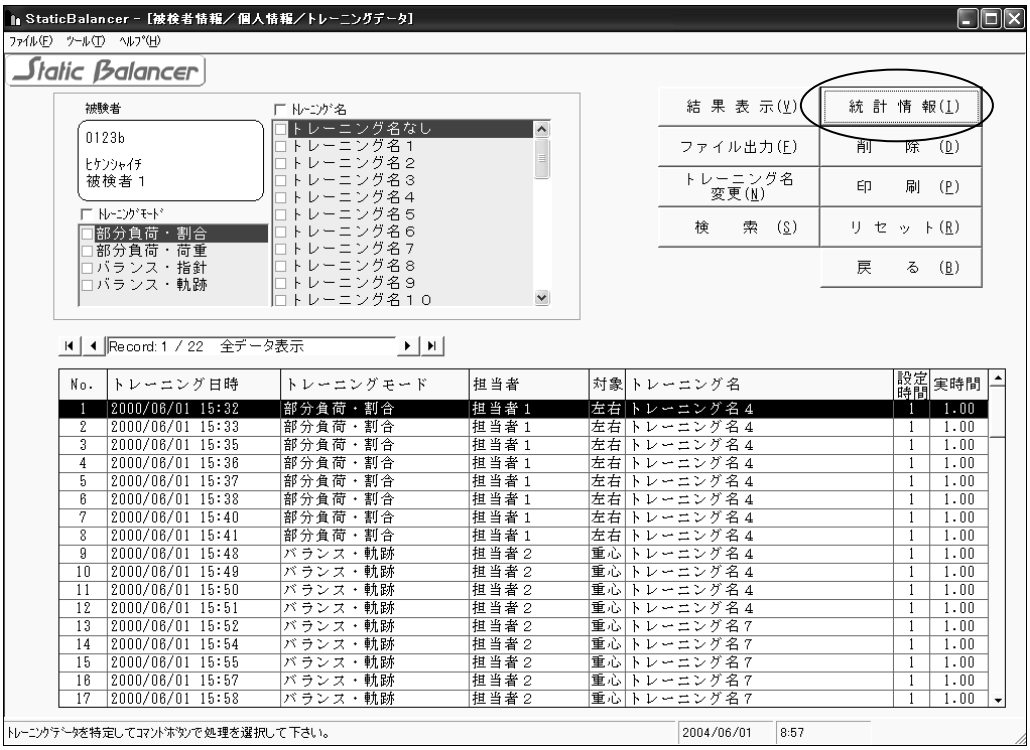
６－３－２　統計情報を表示・印刷する

統計情報表示はトレーニング結果から得た統計情報を時系列に表示する機能です。統計情報の表示方法と、「統計情報表示」ウィンドウの基本操作方法を説明します。

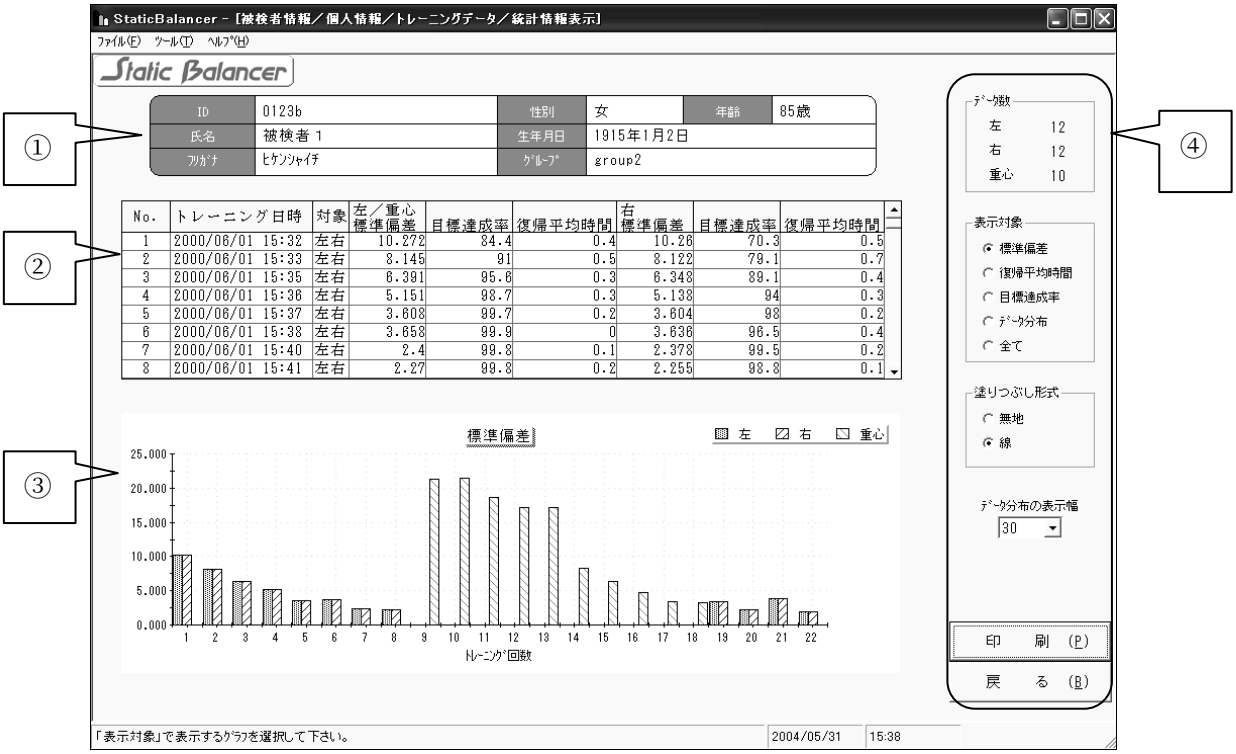
（1）「被検者情報」ウィンドウで被検者を選択し、[**継続(C)**]ボタンをクリックします。

（2）「個人情報」ウィンドウが表示されます。[**データ表示(D)**]ボタンをクリックします。

（3）「トレーニングデータ」ウィンドウが表示されます。[**統計情報(I)**]ボタンをクリックすると「統計情報表示」ウィンドウが表示されます。



「統計情報表示」ウィンドウではウィンドウ上部に被検者情報を表内に表示し、中間部にデータ一覧を、下部に「標準偏差グラフ」、「復帰平均時間グラフ」、「目標達成率グラフ」および「データ分布グラフ」を表示します。



① 表内項目の説明

- ID、氏名、フリガナ、性別、年齢、生年月日、グループ
  登録した被検者情報です。

② データ一覧の説明

- 表示対象の情報を表示します。

③ 表示グラフの説明

- 標準偏差グラフ
  左下肢、右下肢、重心の標準偏差を１グラフに表示します。X軸はトレーニング回数です（トレーニング No.とは必ずしも一致しません）。部分負荷トレーニングでは対象下肢のみ、バランストレーニングでは重心のみ表示します。タイトル（「標準偏差」）を（左あるいは右）クリックするとグラフ形式を【棒 → 線付きプロット → プロット → 棒】の順に変更します。

● 復帰平均時間グラフ

左下肢、右下肢、重心の復帰平均時間を１グラフに表示します。X軸はトレーニング回数です（トレーニング No.とは必ずしも一致しません)。部分負荷トレーニングでは対象下肢のみ、バランストレーニングでは重心のみ表示します。

タイトル（「目標内復帰平均時間」）を（左あるいは右）クリックするとグラフ形式を【棒 → 線付きプロット → プロット → 棒】の順に変更します。

● 目標達成率グラフ

目標内データ割合と目標外データ割合（＝目標超過データ割合＋目標未達データ割合）および目標幅を示すグラフを左下肢、右下肢、重心毎に表示します。X軸はそれぞれのトレーニング回数です（トレーニング No.とは必ずしも一致しません)。部分負荷トレーニングでは対象下肢のみ、バランストレーニングでは重心のみ表示します。

目標幅は部分負荷トレーニングでは（上限値－下限値)、バランストレーニングでは動揺範囲の絶対値です。

タイトル（「目標達成率・＊」）を（左あるいは右）クリックするとグラフ形式を【エリアグラフ → 面付きレーダーチャート → エリアグラフ】の順に変更します。

● データ分布グラフ

データ出現率を３次元グラフ化したもので、左下肢、右下肢、重心毎に表示します。X軸はそれぞれのトレーニング回数です（トレーニング No.とは必ずしも一致しません)。部分負荷トレーニングでは対象下肢のみ、バランストレーニングでは重心のみ表示します。

タイトル（「データ分布・＊」）を（左あるいは右）クリックすると表示形式を変更します（４パターン)。

参考 グラフ形式

棒グラフの場合、データ数が１００件程度になると下肢、重心の判別が難しくなります。このような場合には線付きプロットあるいはプロットグラフが適しています。

④　ウィンドウ右端項目の説明

- データ数
  表示しているデータ数です。

- 表示対象
  表示するグラフを選択します。

- 塗りつぶし形式
  標準偏差・復帰平均時間グラフが棒グラフ時、および目標達成率グラフの塗りつぶしの形式を選択します。

- データ分布の表示幅
  データ分布グラフの中央（ゼロ点）からの表示幅を１０～１００％の範囲で選択できます。

- ［印刷(P)］ボタンをクリック
  統計情報印刷のプレビューウィンドウを表示します。「印刷プレビュー」ウィンドウで**［印刷(P)］**ボタンをクリックすると印刷開始します。

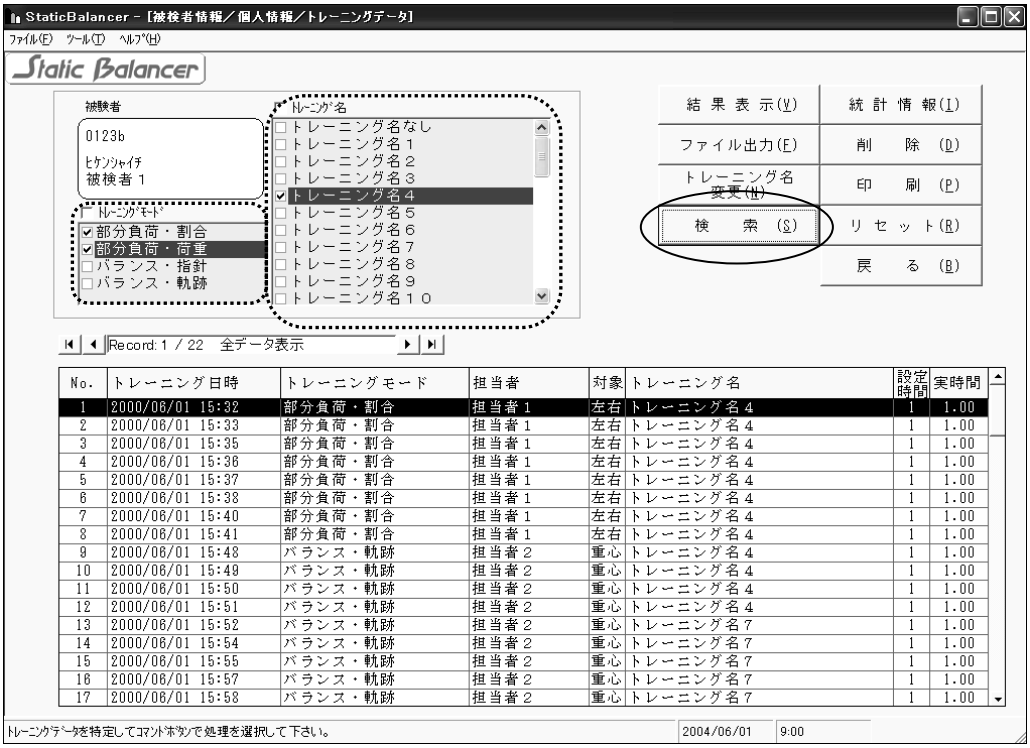
- ［戻る(B)］ボタンをクリック
  前ウィンドウに戻ります。

６－３－３　トレーニングモード・トレーニング名で絞り込み統計情報を表示する

「トレーニングデータ」ウィンドウでトレーニングモードやトレーニング名を使ってデータ検索し、表示する対象を絞り込むことができます。この機能は統計情報表示以外の目的でのデータ検索にも使用出来ます。

（1）「トレーニングデータ」ウィンドウでトレーニングモードリスト、トレーニング名リストで検索したいトレーニングモード・トレーニング名を選択し、［検索(S)］ボタンをクリックします。

例：トレーニングモード＝部分負荷トレーニング、
　　トレーニング名＝トレーニング名４　を選択した状態



（2）検索されたデータが表示されます。この状態で［**統計情報(I)**］ボタンをクリックすると表示中のデータのみの統計情報を表示します。

（3）検索状態を解除して全てのデータを表示し直すには以下の何れかの状態にして［**検索(S)**］ボタンをクリックします。

- ［**リセット(R)**］ボタンをクリックして全てのトレーニングモード・トレーニング名を非選択状態にする
- ［**トレーニングモード**］チェックボックスおよび［**トレーニング名**］チェックボックスをクリックして全てのトレーニングモード・トレーニング名を選択状態にする

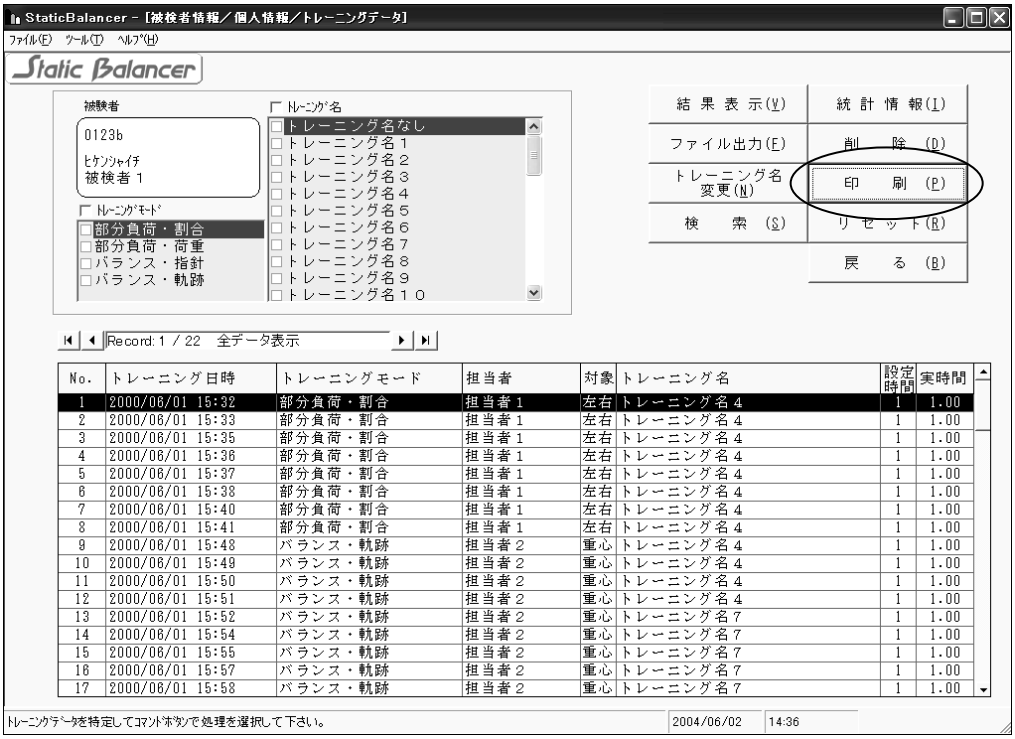
６－３－４　被検者情報とトレーニング履歴を印刷する

選択している被検者の情報とトレーニング履歴を印刷する手順です。印刷対象・順番は「トレーニングデータ」ウィンドウで表示している内容と同じです。

（1）「トレーニングデータ」ウィンドウで必要に応じて検索を行います。

関連【６－３－３　トレーニングモード・トレーニング名で絞り込み統計情報を表示する】

（2）［印刷(P)］ボタンをクリックするとプレビューウィンドウが表示されます。

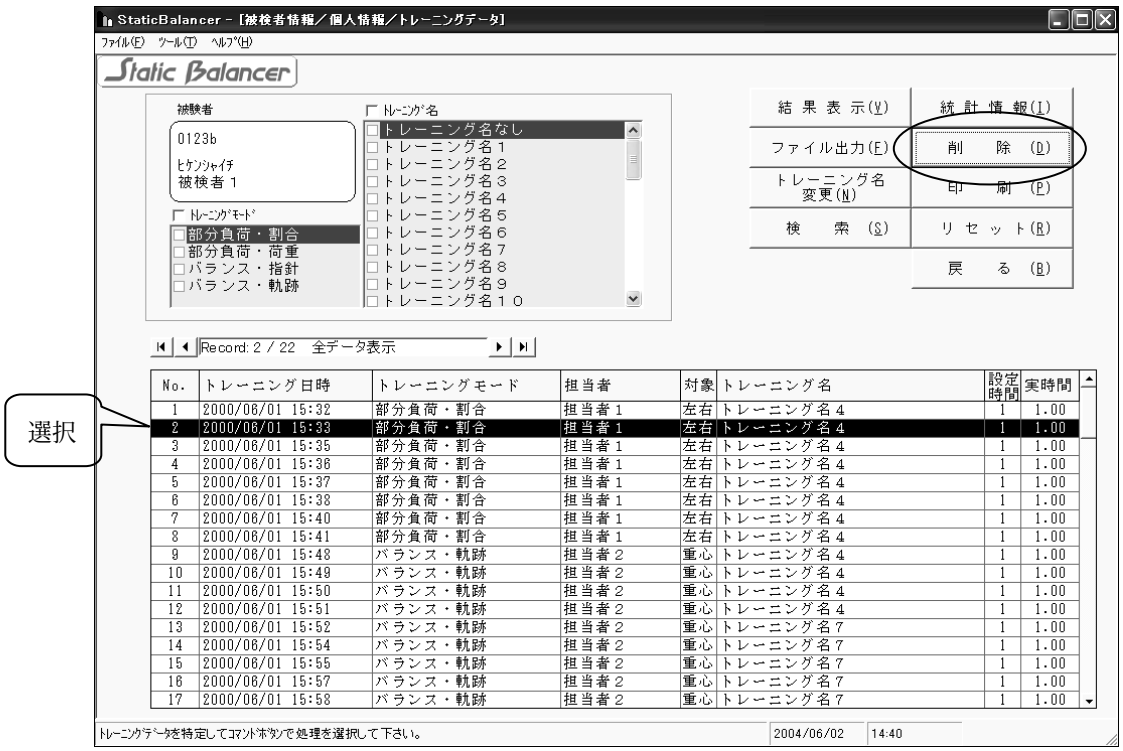


（3）「印刷プレビュー」ウィンドウで［印刷(P)］ボタンをクリックすると印刷開始します。

６－３－５　トレーニングデータを削除する

トレーニングデータの削除は１件づつ行います（複数データの一括削除はできません）。削除したデータを元に戻すことは出来ませんのでご注意ください。

（1）「トレーニングデータ」ウィンドウで削除するデータを選択し、[削除(D)]ボタンをクリックします。



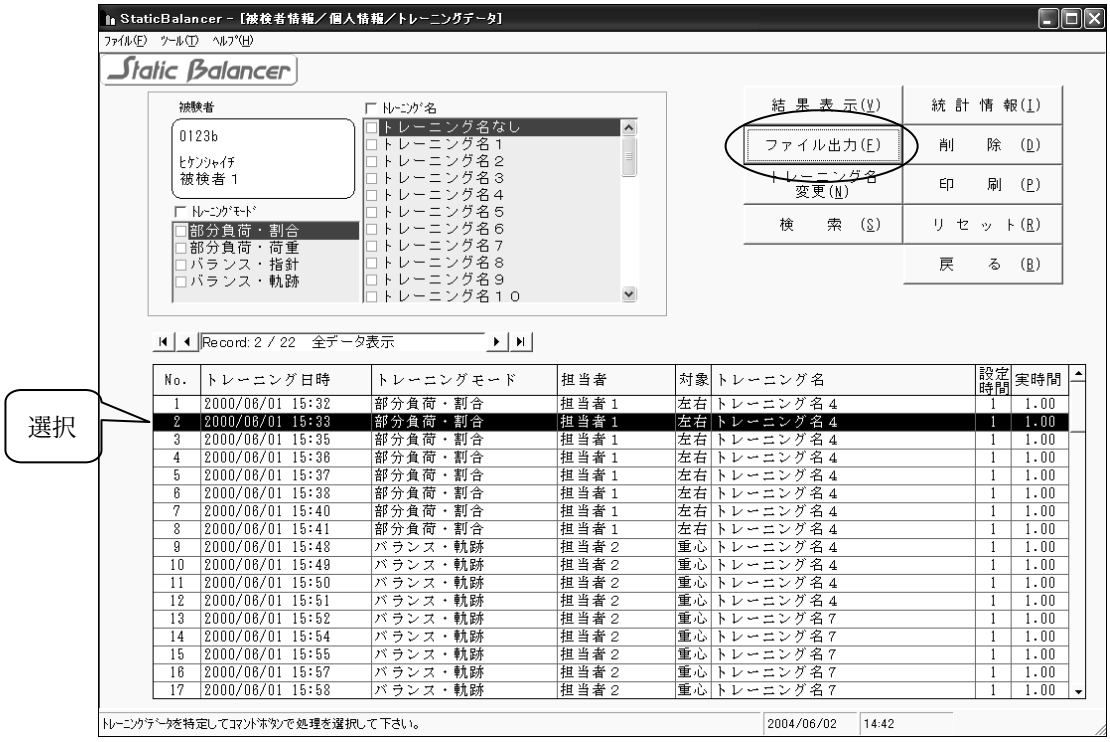
（2）削除確認のメッセージボックスが表示されます。

［はい(Y)］ボタンクリック ・・・・・・・ トレーニングデータを削除します。
［いいえ(N)］ボタンクリック ・・・・・ 削除しません。

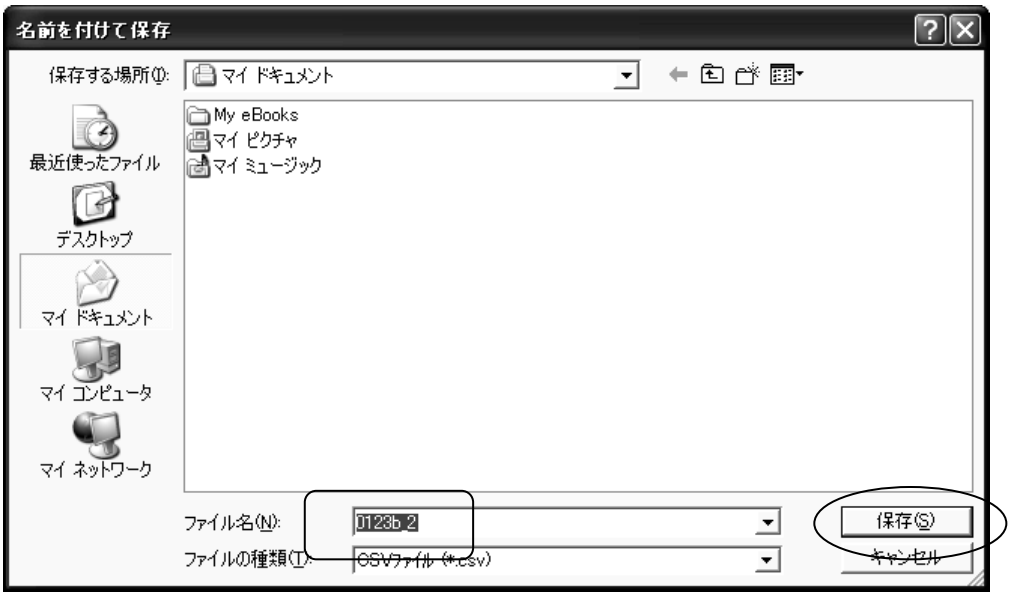
６－３－６　トレーニングデータをＣＳＶファイル（テキストファイル）に出力する

荷重センサー台から読み込んだデータを任意の CSV ファイルに出力します。ファイルへの出力は 1 件づつ行います（複数データの一括出力はできません）。

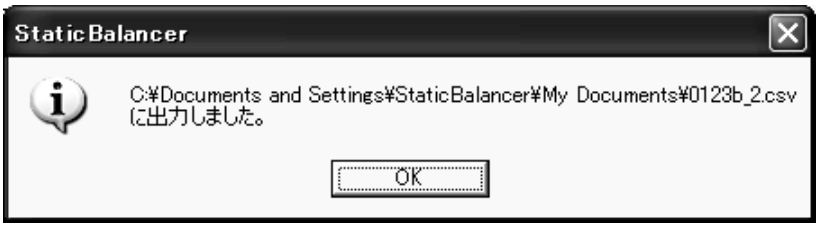
（1）「トレーニングデータ」ウィンドウでファイル出力するデータを選択し、[ファイル出力(F)] ボタンをクリックします。



（2）ファイル選択ダイアログボックスが表示されます。出力ファイルを指定して、［保存(S)］ボタンをクリックします。
デフォルト表示されるファイル名は【ID＋アンダーバー＋トレーニングNo.】です。



（3）確認のメッセージボックスが表示されます。

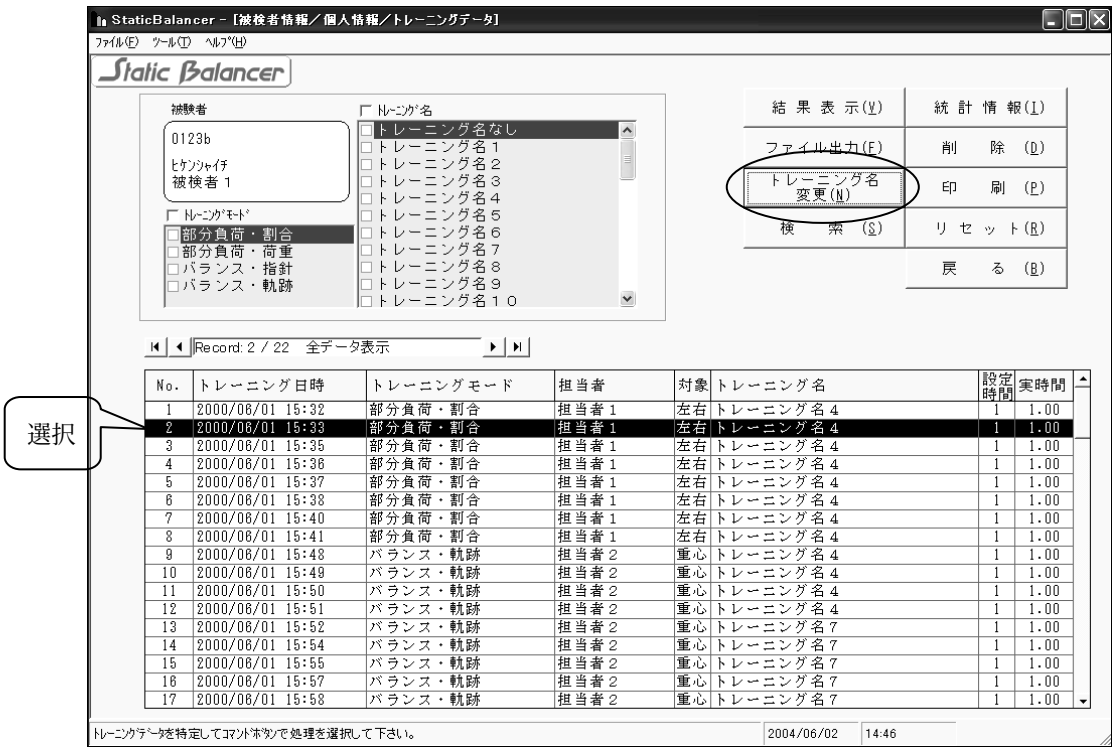


関連【8－1　トレーニングデータＣＳＶファイル形式】

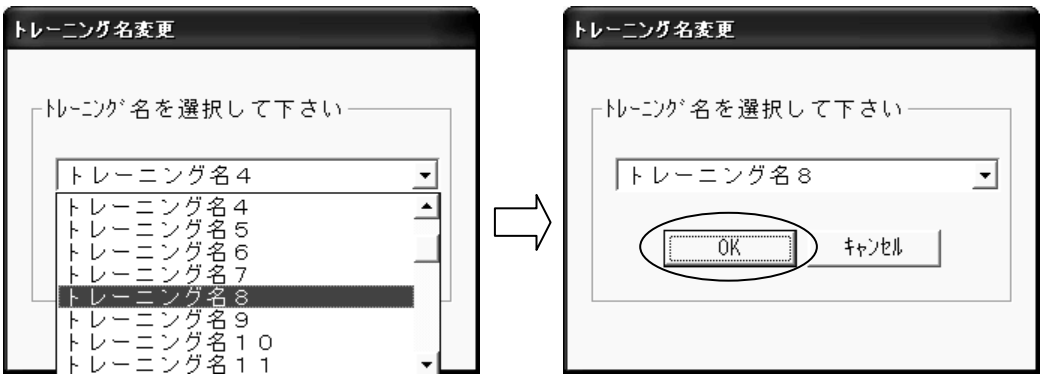
６－３－７　トレーニングデータのトレーニング名を変更する

過去に実施したトレーニングのトレーニング名を変更することができます。トレーニング名変更は１件づつ行います(複数データの一括変更はできません)。

(1) 「トレーニングデータ」ウィンドウでトレーニング名を変更するデータを選択し、[**トレーニング名変更(N)**] ボタンをクリックします。



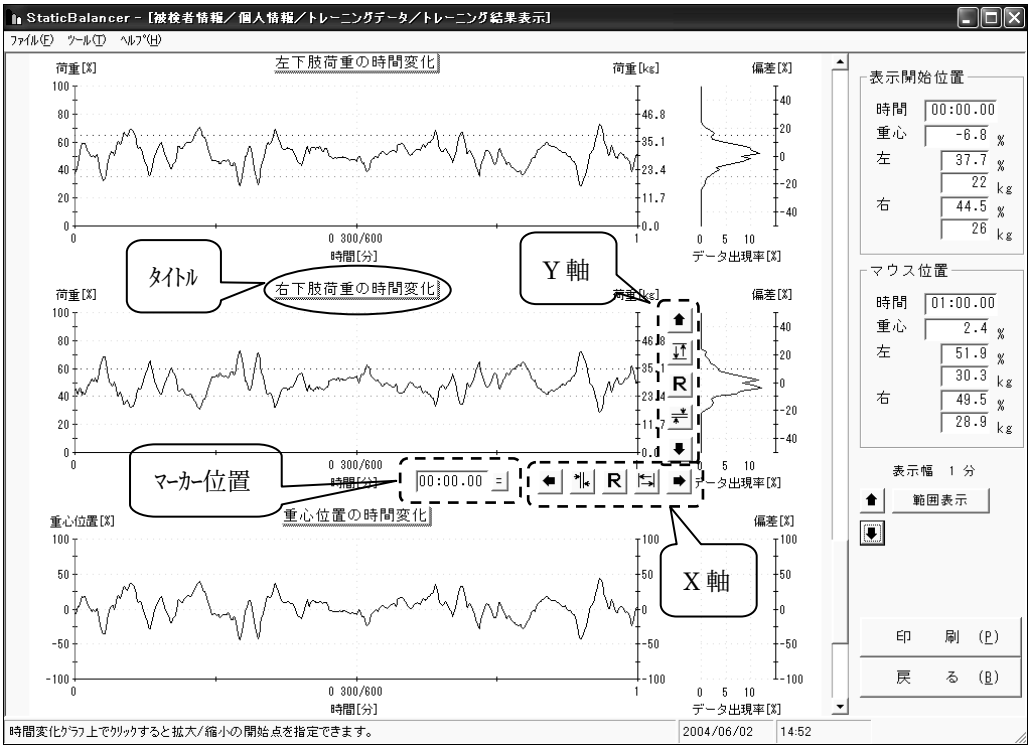
(2) トレーニング名変更ウィンドウが表示されます。トレーニング名リストからトレーニング名を選択して、[**OK**] ボタンをクリックします。



６－３－８　時間変化グラフを操作して拡大・縮小・スクロールする

「トレーニング結果表示」ウィンドウの時間変化グラフをコマンドボタン操作により拡大・縮小・スクロールする方法です。

「トレーニング結果表示」ウィンドウで時間変化グラフのタイトルを（左あるいは右）クリックするとそのグラフ右下にコマンドボタンが表示されます。



- 縦並びのボタンは Y 軸（荷重表示軸）操作用です。対象グラフのみ操作できます。

  ⬆ ･･･ プラス方向（上方）にスクロール　↕ ･･･ 表示中心を起点に拡大

  R ･･･ 初期表示幅にリセット　　↕ ･･･ 表示中心を起点に縮小

  ⬇ ･･･ マイナス方向（下方）にスクロール

- 横並びのボタンはＸ軸（時間軸）操作用です。３つのグラフが連動します。

  ➡ ･･･ プラス方向（右方）にスクロール　↔ ･･･ マーカー位置を起点に拡大

  R ･･･ 初期表示幅にリセット　　↔ ･･･ マーカー位置を起点に縮小

  ⬅ ･･･ マイナス方向（左方）にスクロール

- マーカー位置はX軸拡大・縮小の起点になります。
  グラフ上でマウス（左あるいは右）クリックするとその位置に青いライン（＝マーカー）が表示され、時間がテキストボックスに表示されます。

  テキストボックスに直接時間を入力することも可能です。

（1）“ｍｍ：ｓｓ．ｓｓ”の形式で時間を入力します。
  例 “03:23.15”=3 分 23.15 秒
  入力範囲はその時点にグラフ表示されている範囲です。
  “．ｓｓ”の下１桁は０あるいは５のみ設定できます（０．０５秒刻み）。

（2）［=］ボタンをクリックします。グラフ上のマーカーが設定位置に移動します。

参考 時間軸表示幅

拡大・縮小時の時間軸表示幅はトレーニング時間（設定時間）および以下の１５通りになります。

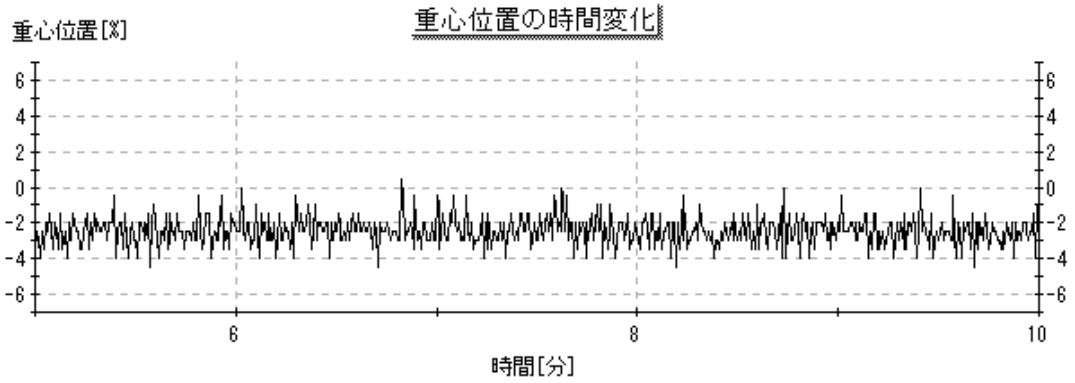
１、２、３、５、１０、２０、３０秒
１、２、３、５、１０、２０、３０、６０分

６－３－９　時間変化グラフの表示モードを変更して全データ点を表示する

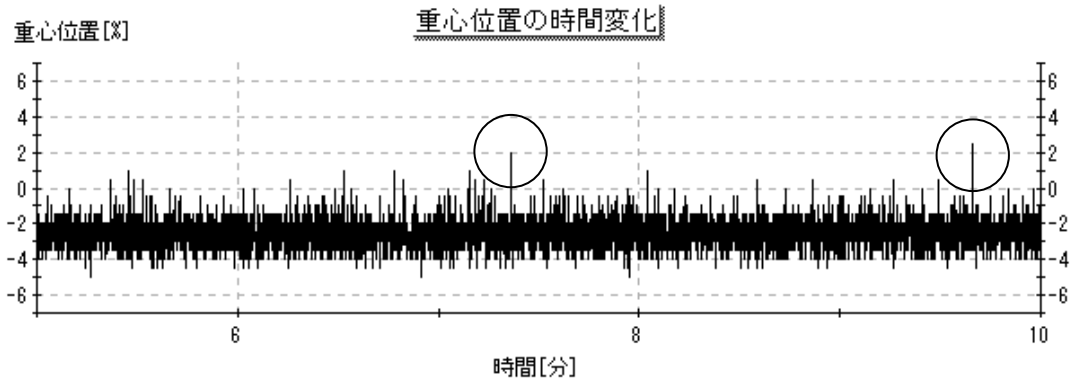
既定値では「トレーニング結果表示」ウィンドウを高速表示する為に時間変化グラフのデータを間引きしてグラフ表示していますが、設定変更により間引きせずに表示することが出来ます。グラフ表示上「間引き」が有効になるのは表示幅が１分以上の場合で、表示幅の増加に比例して間引き率も増加します。

例：表示幅５分の場合の両者の違い

- 間引きあり

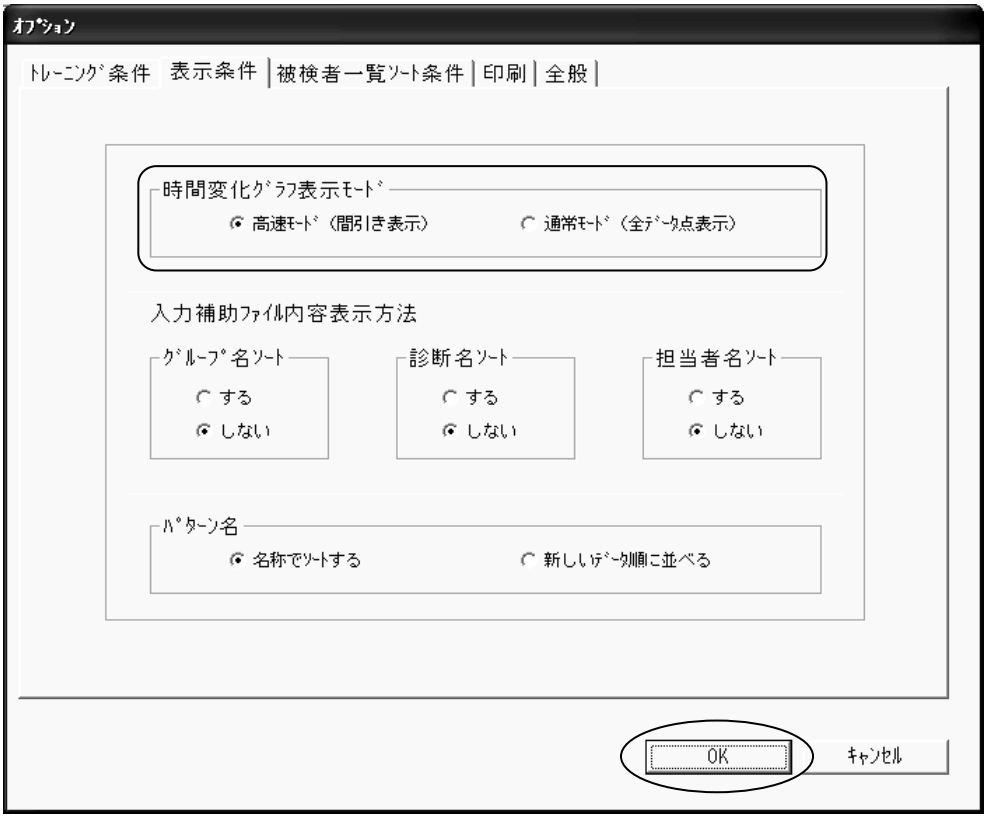


- 間引きなし



「間引きあり」の場合、上例のように瞬間的な変動を表示できない場合があります。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［表示条件］-［時間変化グラフ表示モード］の設定を変更します。



［高速モード（間引き表示）］ ・・・・・・・・・ 間引き表示します。
［通常モード（全データ点表示）］ ・・・・・ 間引き表示しません。

（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

（3）以降、時間変化グラフの表示は設定に従います。「トレーニング結果表示」ウィンドウ表示中に上記設定変更を実行した場合は次回の表示から有効になります。

６－３－１０　グラフのインタラクティブ操作（部分拡大・回転等）

「トレーニング結果表示」ウィンドウおよび「統計情報表示」ウィンドウで表示するグラフ共通にキーとマウスを使用して部分拡大や回転等の操作をすることができます。

- グラフの拡大／縮小
  ［Ctrl］押下しながらマウスの左右両ボタンを押します。そのままマウスを動かすとグラフサイズを拡大／縮小できます。

- グラフの移動
  ［Shift］押下しながらマウスの左右両ボタンを押します。そのままマウスを動かすと領域内でグラフを移動できます。

- グラフ領域のグラフィックズーム
  ［Ctrl］押下しながらマウスの左ボタンを押します。そのままマウスを動かして拡大したい範囲を選択し、ボタンを離します。

- グラフの軸ズーム
  ［Shift］押下しながらマウスの左ボタンを押します。そのままマウスを動かして拡大したい範囲を選択し、ボタンを離します。

- グラフの回転（データ分布グラフ立体表示時のみ）
  マウスの左右両ボタンを押します。そのままマウスを動かすとグラフを回転できます。

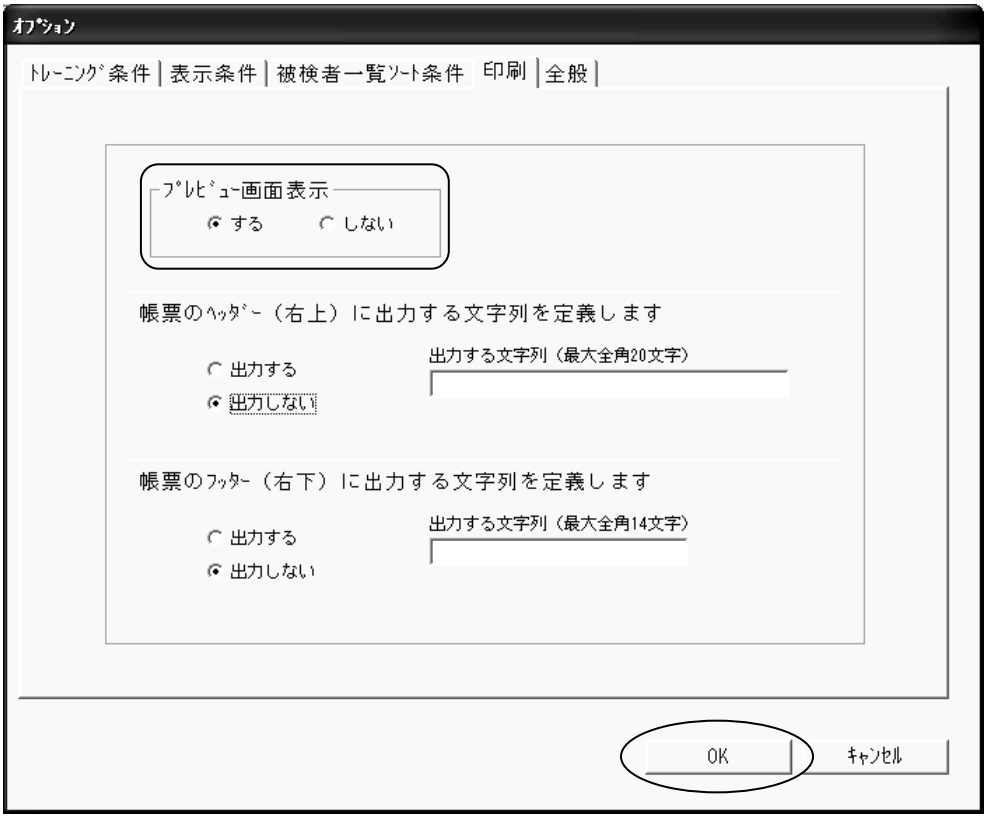
- リセット（グラフの回転以外）
  グラフ領域をクリックしてから、［R］押下します。但し、この機能を使用しても軸の最大値や表示域サイズが初期表示時と同じに戻らない場合があります。印刷実行や回転したグラフを元に戻す等で初期表示に戻したい場合にはウィンドウの再表示が必要です。

６－４　印刷関連

６－４－１　印刷プレビューを表示せずに印刷する

各ウィンドウの［印刷(P)］ボタンをクリックすると既定値ではプレビューウィンドウが開きます。設定を変更してプレビューを表示しないように出来ます。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［印刷］-［プレビュー画面表示］の設定を変更します。



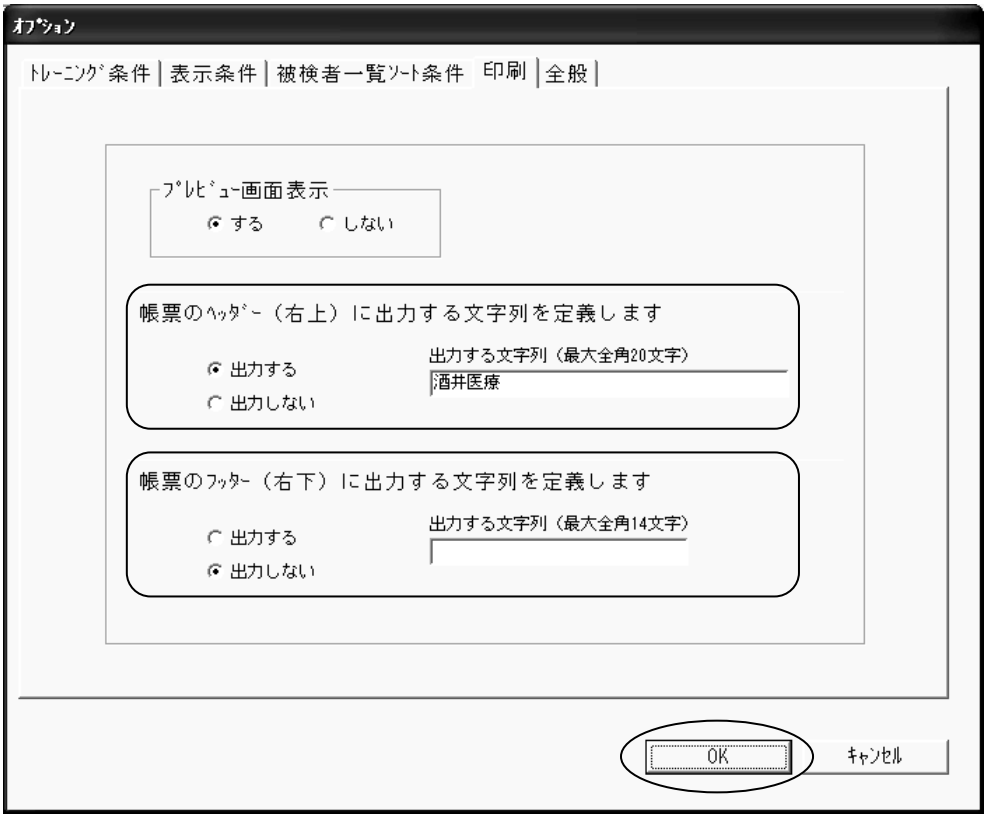
［する］ ・・・・・・・・・ プレビューウィンドウを表示します。
［しない］ ・・・・・・・ プレビューウィンドウを表示しません。

（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

６－４－２　ヘッダーとフッターに任意の文字列を設定する

印刷帳票のヘッダー右端とフッター右端に任意の文字列を出力することが出来ます。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［印刷］-［帳票のヘッダー（右上）に出力する文字列を定義します］あるいは［帳票のフッター（右下）に出力する文字列を定義します］の設定を変更します。



［出力する］ ・・・・・・・・・ テキストボックスに設定した文字列を出力します。
テキストが空の場合、空白になります。
［出力しない］ ・・・・・・・ ヘッダー：出力しません（空白になります)。
フッター：製品ロゴが出力されます。

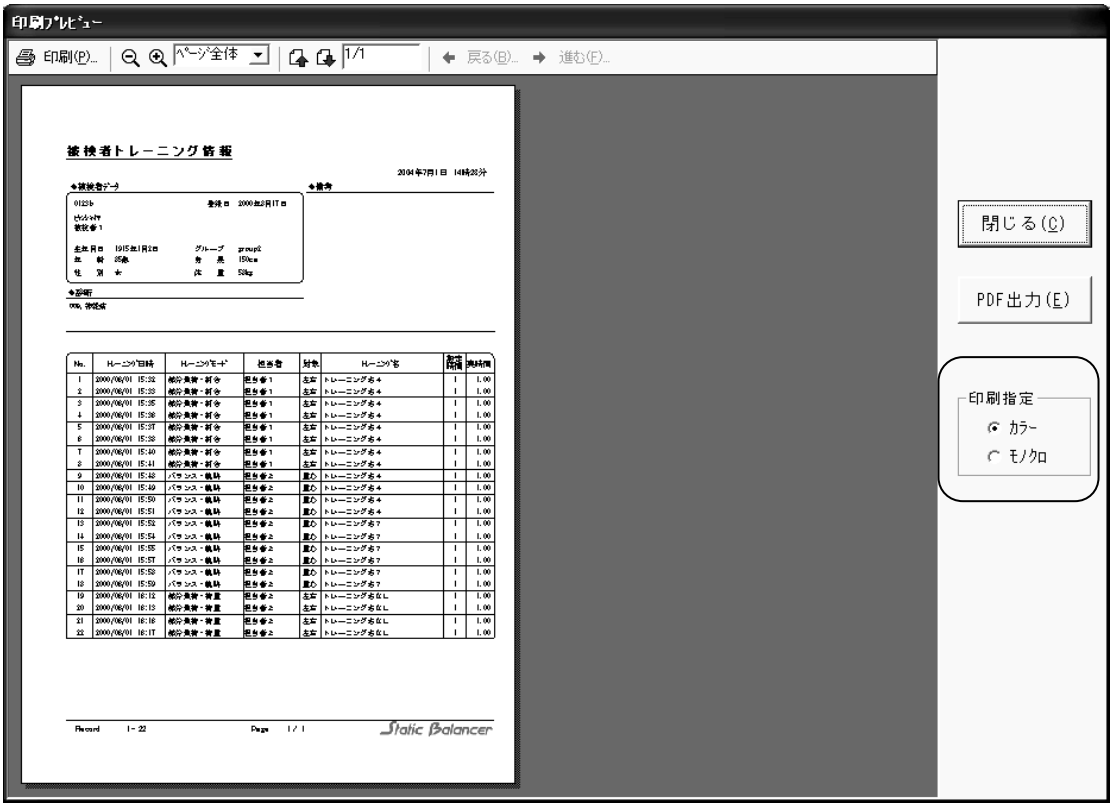
設定する文字列は任意ですが、「&F」あるいは「&f」(2 文字固定）と設定するとデータベースファイル名を出力します。

（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

６－４－３　印刷モード（カラー、モノクロ）を指定する

「印刷プレビュー」ウィンドウから印刷実行する場合には印刷モード（カラー、モノクロ）を指定することが出来ます。

「印刷プレビュー」ウィンドウで印刷実施前に［印刷指定］の設定（カラー／モノクロ）を変更した後、印刷を実行します。



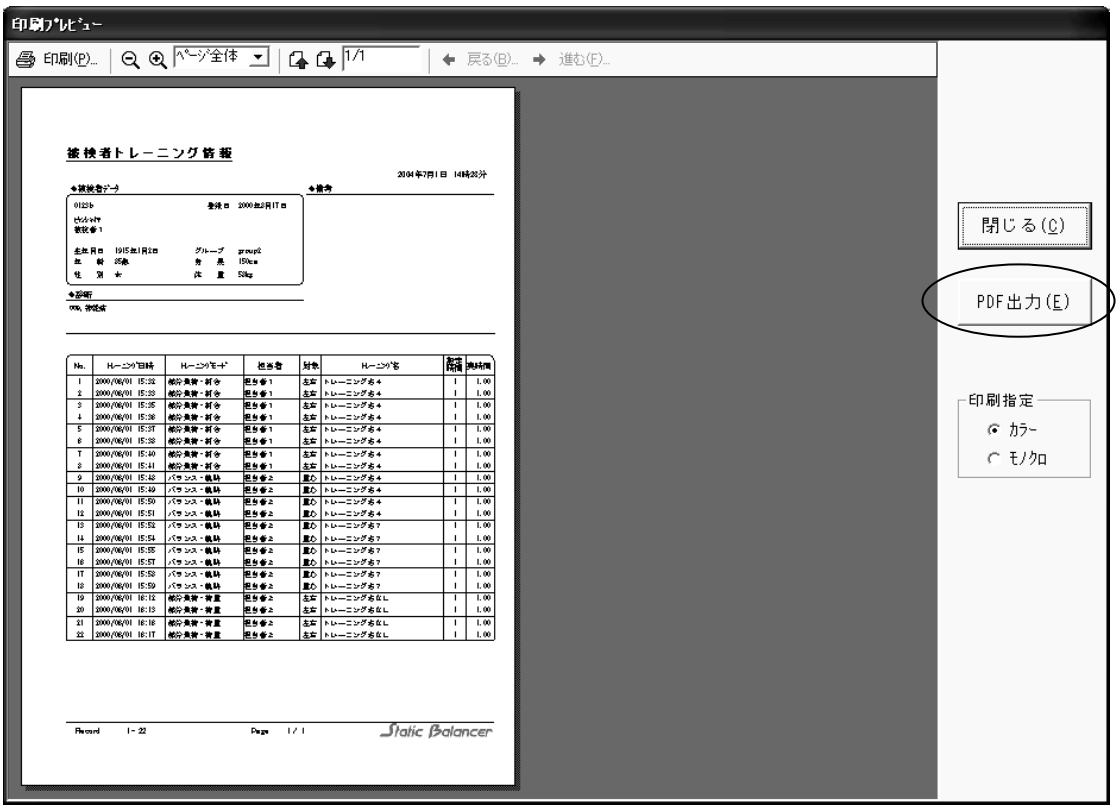
参考 カラー印刷が有効にならない場合

プレビューウィンドウを開いたままで、モノクロ印刷を行った後にカラー印刷を行うとプリンタによってはモノクロで印刷されてしまう場合があります。このような場合には一旦プレビューウィンドウを閉じて再度プレビュー表示した後にカラー印刷をしてください。

６－４－４　印刷内容を PDF ファイルに出力する

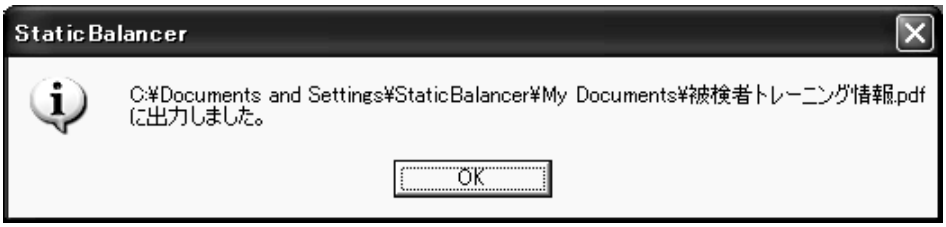
「印刷プレビュー」ウィンドウから印刷実行する場合には印刷内容を PDF ファイルに出力することが出来ます。

（1）　「印刷プレビュー」ウィンドウで［PDF 出力(E)］ボタンをクリックします。



（2） ファイル選択ダイアログボックスが表示されます。出力ファイルを指定して、[保存(S)] ボタンをクリックします。

（3） 確認のメッセージボックスが表示されます。



参考 ファイルサイズは内容により変動します。空き容量が十分な媒体に出力してください。FD を使用する場合には一度ハードディスクに出力した後に移動する事をお勧めします。既存ファイルに上書き保存する場合、(容量不足等が原因で)失敗すると既存ファイル内容は無くなってしまいますのでご注意ください。

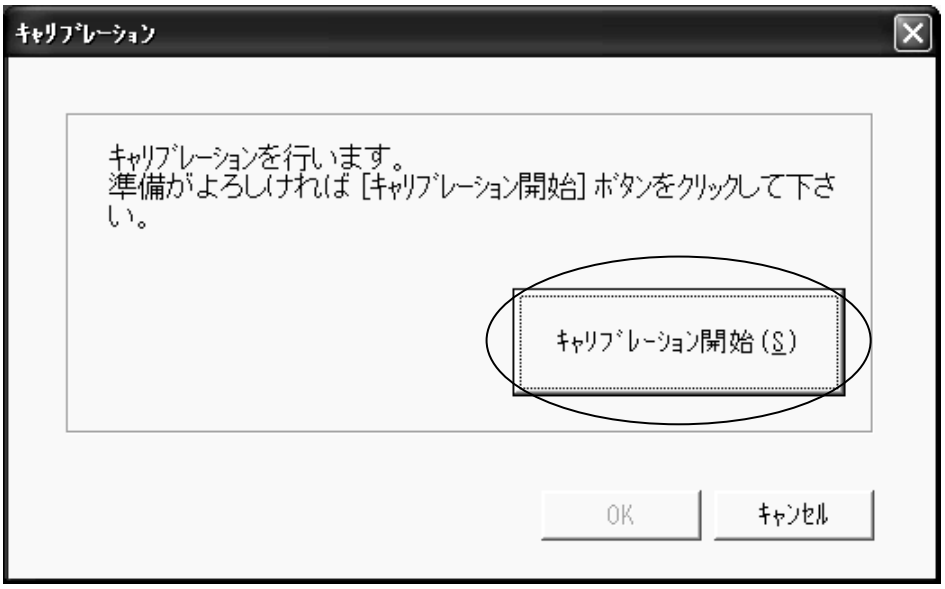
６－５　その他の機能

６－５－１　キャリブレーションをやり直す

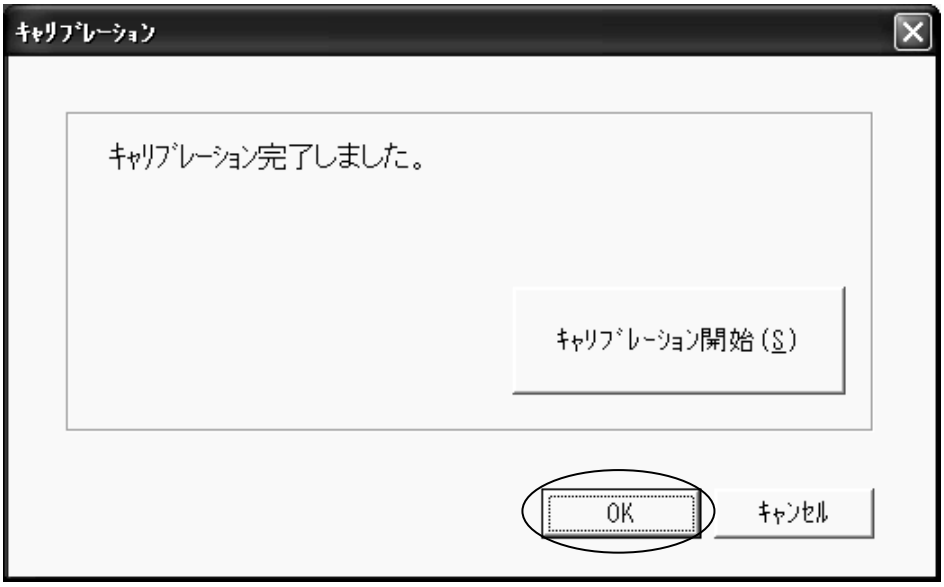
キャリブレーションは荷重センサー台のゼロ点調整です。ソフトウェア起動後、最初に「トレーニング条件設定」ウィンドウを表示する際にキャリブレーションを自動実行します。通常以後はキャリブレーション実施の必要はありませんが、荷重センサー台上のマットを乗せかえる等の条件変更時には再び実施する必要があります。

（1）荷重センサー台にマットを乗せてトレーニングする場合にはマットを乗せた状態にしてください。

（2）メニュー［ツール(T)］-［キャリブレーション(C)］で「キャリブレーション」ウィンドウを開き、**[キャリブレーション開始(S)]** ボタンをクリックします。キャリブレーションは３秒程で終わります。**終わるまで荷重センサー台に乗る、触る等しないでください。**



(3) ［**OK**］ボタンをクリックして「キャリブレーション」ウィンドウを閉じます。

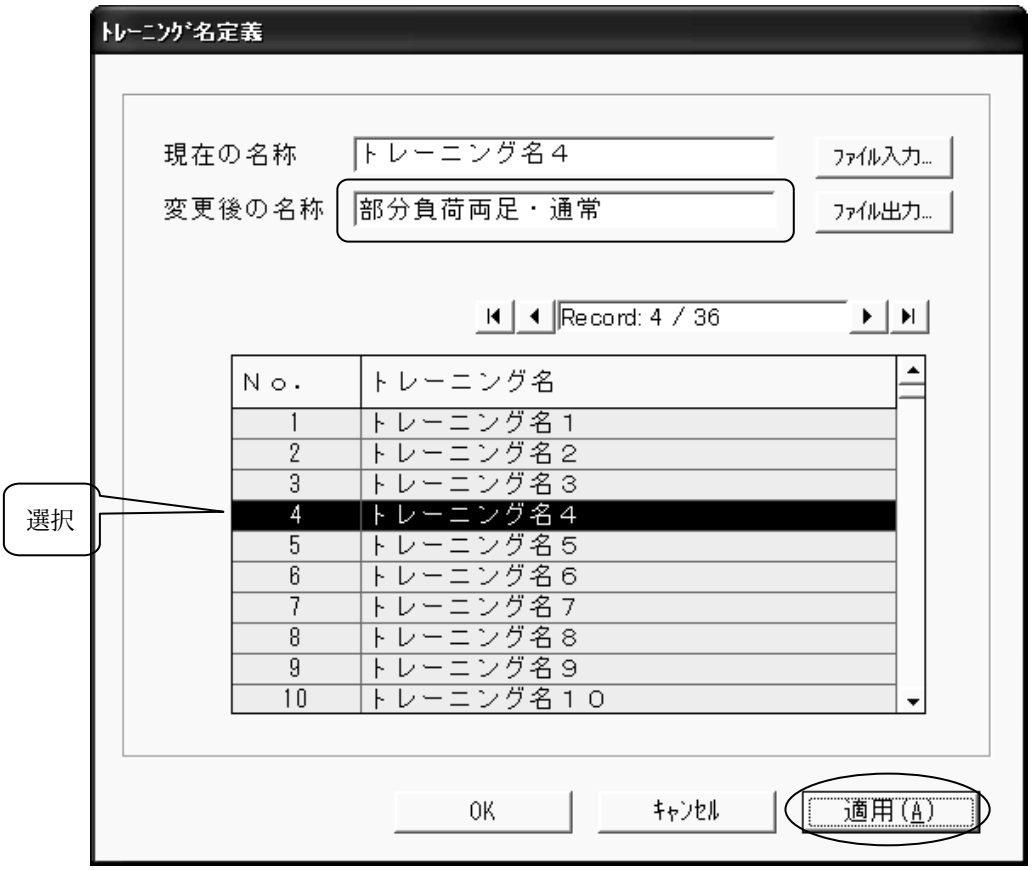


６－５－２　トレーニング名の設定を変更して表示する名称を変える

トレーニング名の表示名称を変更して分かり易い名称に変更することが出来ます。

（1）メニュー［ツール(T)］-［トレーニング名定義(D)］で「トレーニング名定義」ウィンドウを開きます。

（2）変更したいトレーニング名を選択して、「変更後の名称」テキストボックスに変更後のトレーニング名を入力し、**［適用(A)］**ボタンをクリックします。



（3）以降、同様に変更を行うことが出来ます。(2)で［適用(A)］ボタンの代わりに［OK］ボタンをクリックすると変更してウィンドウを閉じます。
［キャンセル］ボタンをクリックすると未適用の項目は変更せずにウィンドウを閉じます。

６－５－３　トレーニング名の一覧をテキストファイルに出力する

設定してあるトレーニング名の一覧を任意のテキストファイルに出力することが出来ます。“エディターで編集後にテキストファイルから一括更新”のような場合に便利です。

（1）メニュー［ツール(T)］-［トレーニング名定義(D)］で「トレーニング名定義」ウィンドウを開き、［**ファイル出力...**］ボタンをクリックします。

（2）ファイル選択ダイアログボックスが表示されるので出力ファイル名を指定（フォルダ／ファイル名は任意です）し、[**保存(S)**] ボタンをクリックします。ファイルが存在する場合は上書き可否の確認メッセージボックスが表示されます。

（3）ファイル出力が完了すると通知のメッセージボックスが表示されます。

（4）「トレーニング名定義」ウィンドウで［**キャンセル**］ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。

関連【8－3　トレーニング名一覧入出力ファイル形式】

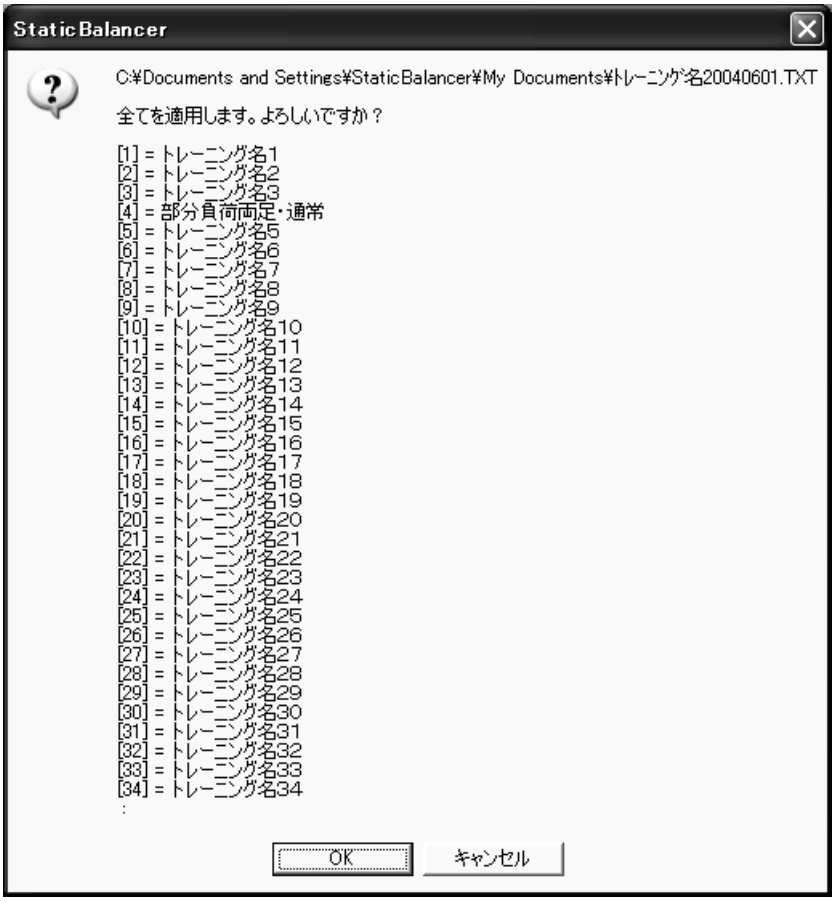
６－５－４　トレーニング名の設定をテキストファイルから入力し一括して変更する

任意のテキストファイルからトレーニング名データを入力して一括変更することが出来ます。ファイルの記述形式が不正の場合にはエラーを示すメッセージボックスが表示され、変更できません。

（1）メニュー［ツール(T)］-［トレーニング名定義(D)］で「トレーニング名定義」ウィンドウを開き、［ファイル入力...］ボタンをクリックします。

（2）ファイル選択ダイアログボックスが表示されるので入力ファイル名を指定し、［開く(O)］ボタンをクリックします。

（3）ファイル内容の表示と「適用」確認のメッセージボックスが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると全てのトレーニング名を変更します。



（4）変更処理が終わると、通知のメッセージボックスが表示されます。

（5）「トレーニング名定義」ウィンドウで［**キャンセル**］ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。

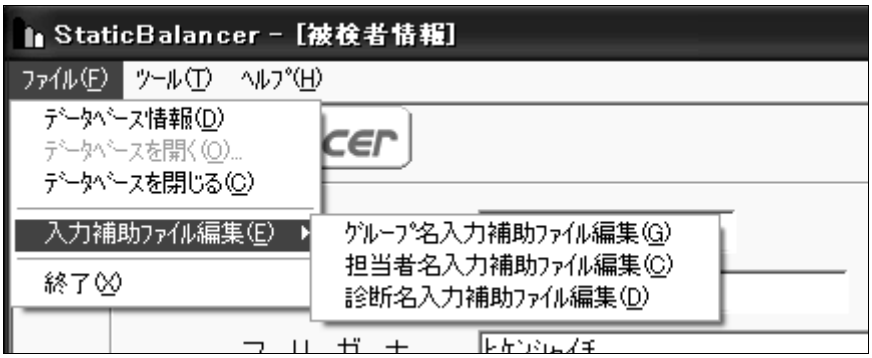
関連【 8－3　トレーニング名一覧入出力ファイル形式】

参考 データベースユーティリティを使用すると DB ファイル間でトレーニング名をコピーすることができます。

６－５－５　入力補助ファイルを編集する

入力補助ファイルを編集するためにエディターを起動します。

（1）メニュー［ファイル(F)］-［入力補助ファイル編集(E)］でサブメニューを開き、
［グループ名入力補助ファイル編集(G)］
［担当者名入力補助ファイル編集(C)］
［診断名入力補助ファイル編集(D)］
の何れかで編集ファイルを選択します。



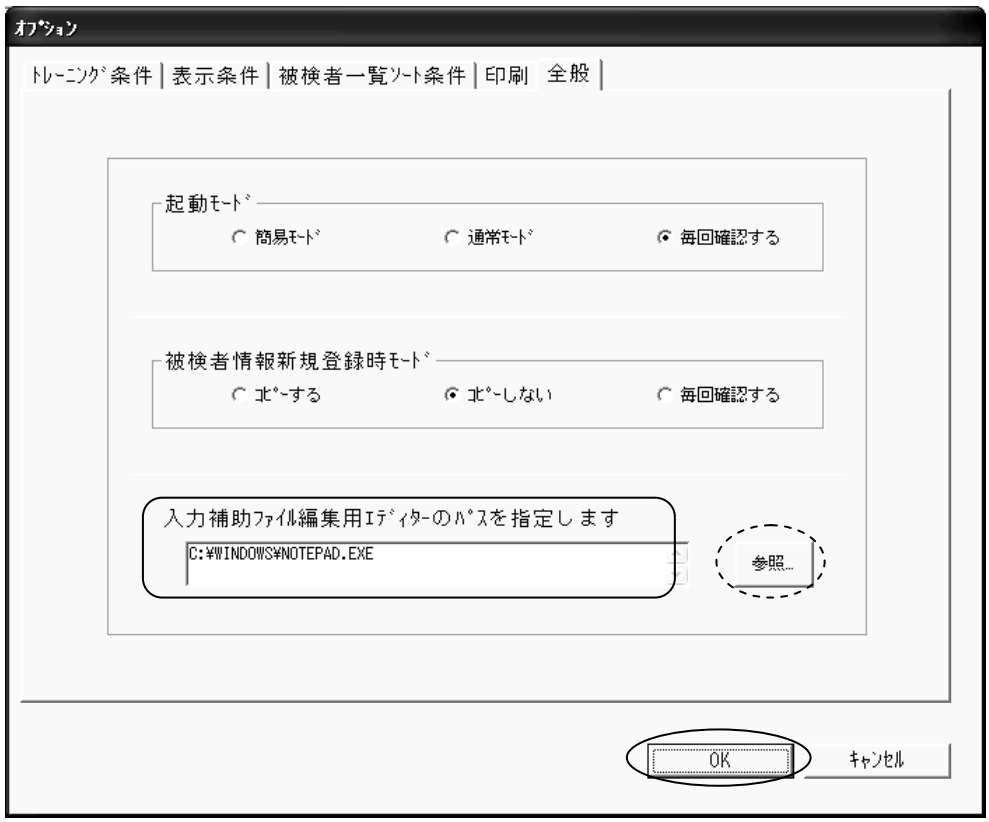
（2）エディターが起動され、選択したファイルが編集可能になります。編集・書き込み後、エディターを終了してください。

関連 **【４－５－６　入力補助ファイル】【８－２　入力補助ファイル形式】【６－５－６　入力補助ファイル編集エディターを変更する】**

６－５－６　入力補助ファイル編集エディターを変更する

入力補助ファイルを編集するエディターを指定することができます。出荷時の設定は「メモ帳」（C:¥WINDOWS¥Notepad.exe）です。設定が無い場合／不正な場合のデフォルトエディターも「メモ帳」です。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［全般］-［入力補助ファイル編集用エディターのパスを指定します］テキストボックスにエディターのパス名を指定します。［**参照...**］ボタンをクリックするとファイル参照できます。



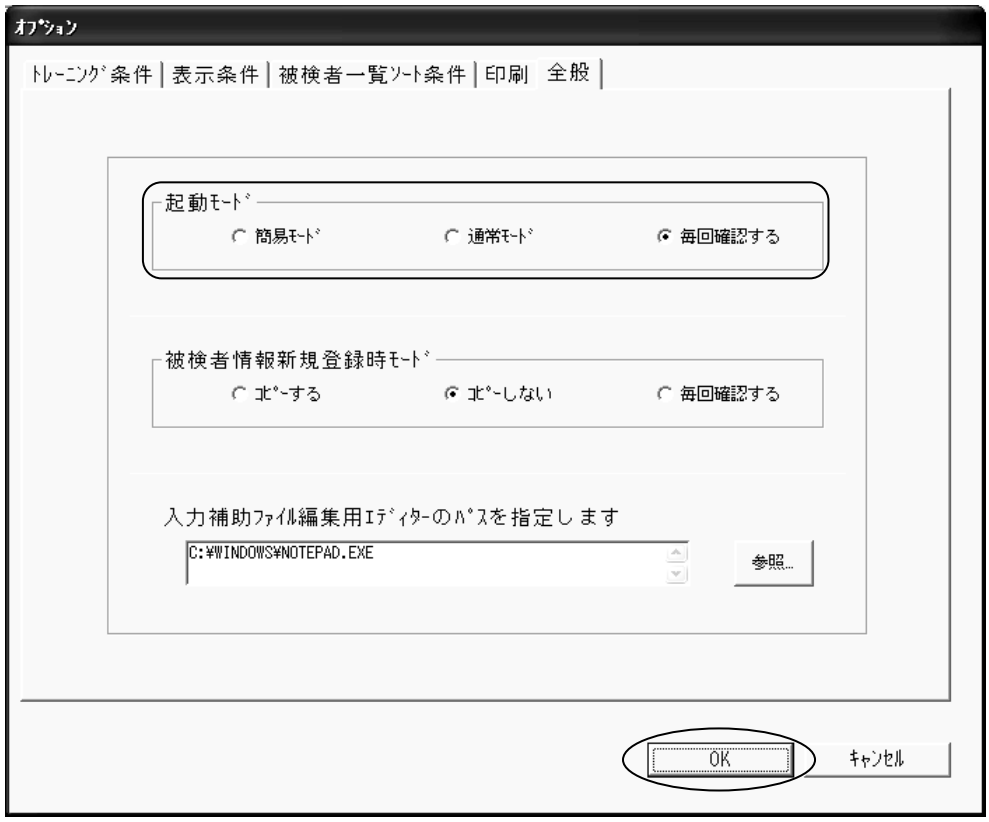
（2）［**OK**］ボタンをクリックして設定を有効にします。

６－５－７　次回の起動モード（通常モード／簡易モード）を設定する

起動モードの設定は「オプション」ウィンドウで行う方法と「起動モード選択」ウィンドウ（ソフトウェア起動時）に行う方法の２通り可能です。

○ 「オプション」ウィンドウで行う場合

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［全般］-［起動モード］で指定します。

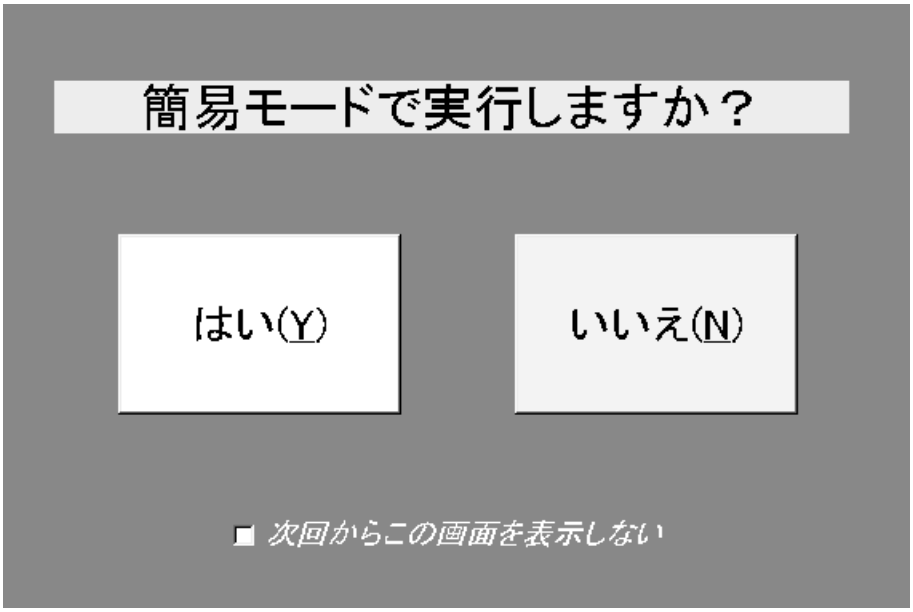


［簡易モード］ ・・・・・・「起動モード選択」ウィンドウを表示せずに簡易モードを起動します。
［通常モード］ ・・・・・・「起動モード選択」ウィンドウを表示せずに通常モードを起動します。
［毎回確認する］ ・・・「起動モード選択」ウィンドウを表示します。

（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

○ 「起動モード選択」ウィンドウで行う場合

ソフトウェア起動時に設定が【毎回確認する】の場合には「起動モード選択」ウィンドウが表示されます。



［はい］ ‥‥‥‥ 簡易モードを起動します。
［いいえ］ ‥‥‥ 通常モードを起動します。

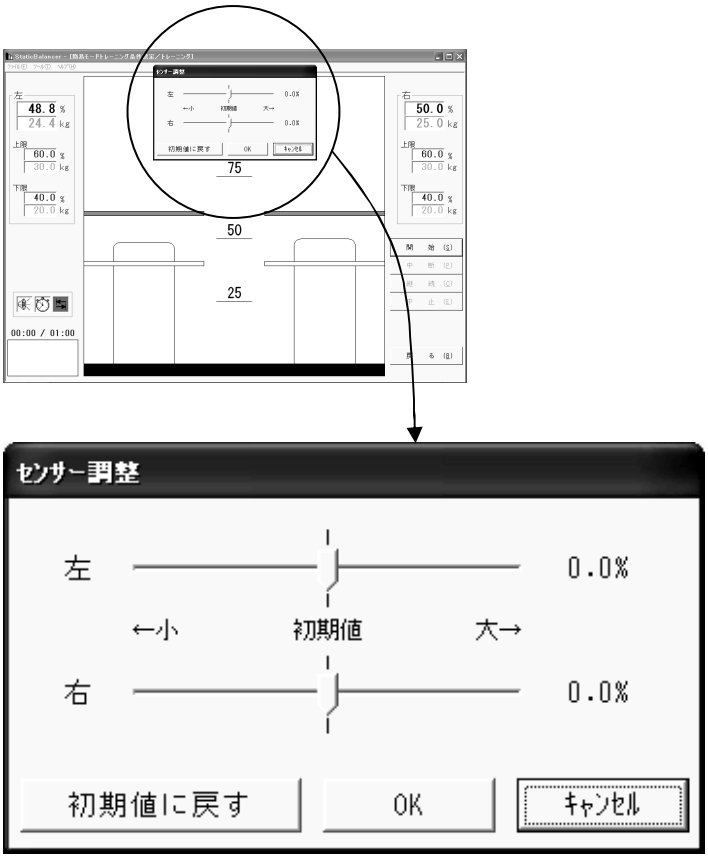
「次回からこの画面を表示しない」チェックボックスをチェックしておくと次回の起動時には「起動モード選択」ウィンドウを表示せずに今回選択したモードで起動します。

６－５－８　荷重センサーを調整する

荷重値は荷重センサーからの入力値に係数を乗じて計算しています。この係数を微調整することにより実荷重と計測値との誤差を最小にすることができます。荷重センサーの精度は製品出荷前に保証範囲内である事を確認しております。従って計測精度を高める必要がなければこの機能を使う必要はありません。

（1）　「条件設定」ウィンドウでキャリブレーションを実施します。

（2）　「トレーニング」ウィンドウでメニュー［ツール(T)］-［センサー調整(S)］を選択すると「センサー調整」ウィンドウが表示されます。



（3）　スライダーを操作して左右荷重センサーの係数を調整します。初期値に対して±10%の調整が可能です。荷重センサー台に重りを載せた状態で値を調整すると「トレーニング」ウィンドウの荷重値表示が変動しますので目安にしてください。[OK] ボタンクリックで確定します。

参考 複数の重さ（例えば 20kg と 40kg）で調整を行うと、より最適な増減率を設定できます。

参考 設定値は保存されますので毎回調整する必要はありません。センサー台を入れ替え・交換等した場合には再調整してください。

７．データベース

７－１　データベースユーティリティ

データベースユーティリティを使うと新たなデータベースファイルを作成したり、データベースファイル間でデータをコピーする等の操作ができます。

データベースユーティリティは以下の操作が可能です。

- **データベースファイルの新規作成**
  空のデータベースファイルを作成します。

- **データベースファイル間でのデータのコピー／移動／削除**
  対象は「被験者情報とトレーニング結果」、「トレーニング名」、「トレーニングパターン」です。トレーニング名はコピーのみ可能です。

- **データベースファイルの最適化**
  最適化を行うとデータ削除／更新／追加等により生じた不連続領域を再配置してファイルサイズを縮小したり、ファイル内データを並び替えしてデータアクセス効率を向上させることができます。

- **データベース形式の変換**
  旧バージョンのデータベースファイル（拡張子 sbd , sb2）を現バージョンの形式（拡張子 sb3）に変換します。旧形式のファイルをトレーニングソフトウェアで読み込むことはできません。

各々の操作はウィンドウに表示されるガイドに従ってください。

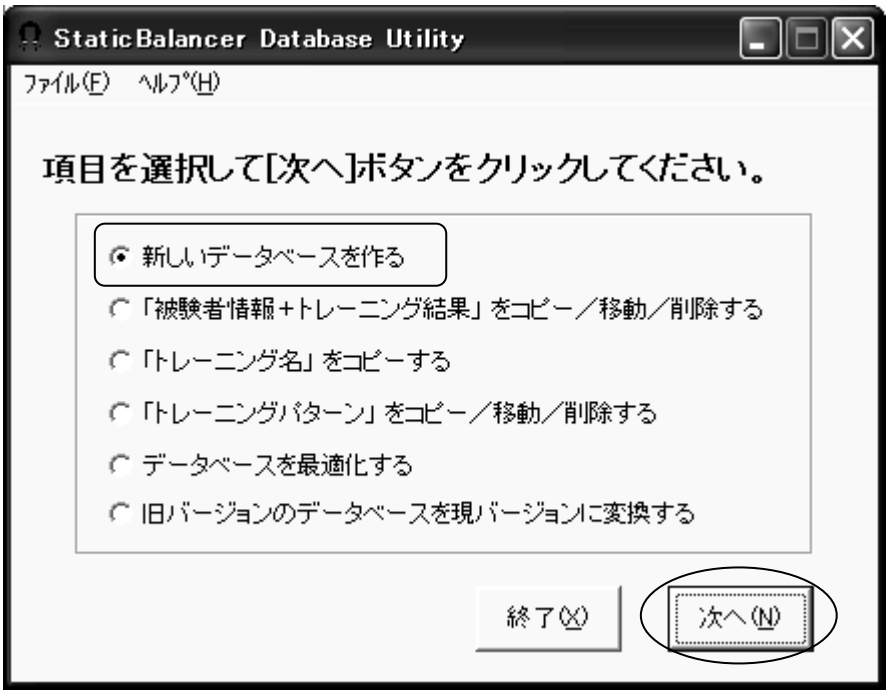
⚠ 注意

ファイル操作の前に DB ファイルのバックアップをおとりください。

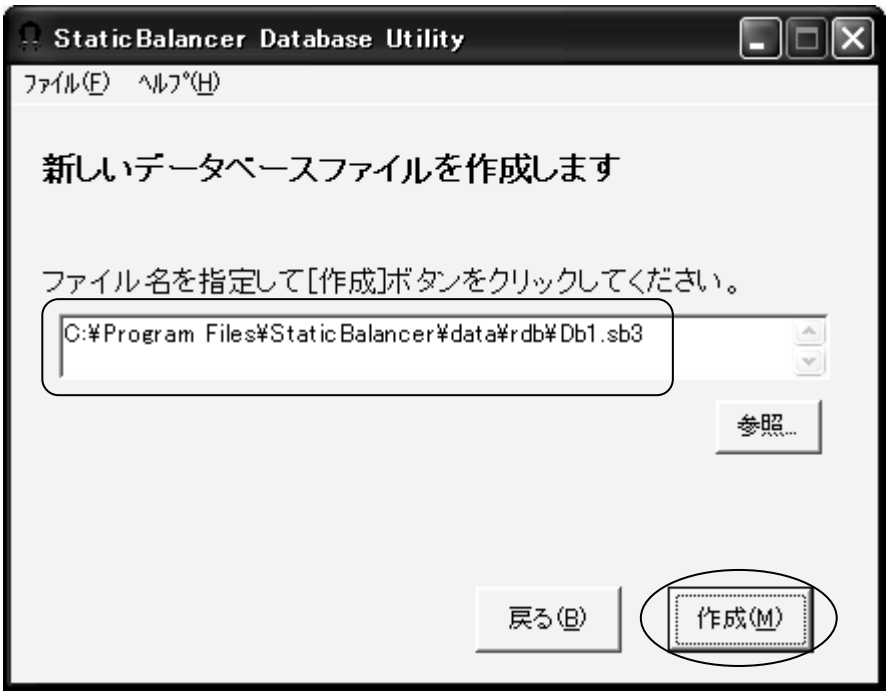
例：データベースファイルを新規に作成する場合

（1）Windows タスクバーからスタート-［すべてのプログラム］-［StaticBalancer］-［DB ユーティリティ］で起動します。
トレーニングソフトウェアからはメニュー［ツール(T)］-［DB ユーティリティ(U)］で起動できます。

（2）「新しいデータベースを作る」を選択して[**次へ**]ボタンをクリックします。



（3）テキストボックスでファイル名を指定して［**作成**］ボタンをクリックします。テキストボックスには作成可能なファイル名（Db*.sb3）がデフォルトで表示されます。表示された名称で作成するか、あるいは既存でない任意のファイル名に変更することも可能です。ファイル名は作成後に変更しても機能上問題ありません。



（4）［**OK**］ボタンをクリックするとファイルを作成します。

８．テキストファイル形式

８－１　トレーニングデータＣＳＶファイル形式

○ 共通事項

- ■ 先頭および第２レコードにトレーニング情報を格納し、計測データは第３レコード以降に順次格納します。
- ■ 文字列項目は半角ダブルクォーテーション(“)で囲みます。
- ■ 計測データはトレーニングモードに関わらず、全て荷重値[kg 単位]とします。

○ レコード形式

■ 第１レコード

１項：トレーニング開始日時	形式：”yyyy/mm/dd hh:mm”	
２項：被検者氏名	登録した被検者氏名	
３項：トレーニング時体重	小数第１位まで　単位[kg]	
４項：トレーニング時被検者年齢	形式：”999y99m”	
	999=年齢、99=誕生日からの経過月数	
	例：35 歳８箇月の場合＝”35y8m”	
５項：計測データ数	第３レコード以降のレコード数	

■ 第２レコード

１項：トレーニングモード	“LA”：部分負荷トレーニング・割合	
	”LB”：部分負荷トレーニング・荷重	
	“BA”：バランストレーニング・指針	
	“BB”：バランストレーニング・軌跡	
２項：トレーニング対象	“LR”：左右	モード＝”LA”,”LB”時
	“L”：左	〃
	“R”：右	〃
	“”：	モード＝”BA”,”BB”時
３項：設定トレーニング時間	1～60[分]	
４項：実時間	10～3600[秒]	
５項：左下肢上限値	0.0～100.0[%]	モード＝”LA”時
	0.0～100.0[kg]	モード＝”LB”時
／重心動揺範囲	0.0～100.0[%]	モード＝”BA”,”BB”時

6 項：左下肢下限値	0.0～100.0[%]	モード＝”LA”時
	0.0～100.0[kg]	モード＝”LB”時
／走査時間	1～9[×10 秒]	モード＝”BB”時
	0	モード＝”BA”時
7 項：右下肢上限値	0.0～100.0[%]	モード＝”LA”時
	0.0～100.0[kg]	モード＝”LB”時
	0	モード＝”BA”,”BB”時
8 項：右下肢下限値	7 項と同様	
9 項：表示形態	“I”：	個別表示
	“C”：	連結表示・横並び
	“CDLF”：	連結表示・斜め左前
	“CDRF”：	連結表示・斜め右前
	“CLF”：	連結表示・縦左前
	“CRF”：	連結表示・縦右前
	“”：	設定なし（バランストレーニング時）
10 項：足位置	“SS”：	横並び
	“DLF”：	斜め左前
	“DRF”：	斜め右前
	“LF”：	縦左前
	“RF”：	縦右前
	“”：	設定なし

備考： 4,5 項、6,7 項の下肢上/下限値；非トレーニング対象の場合 0 固定とする。
旧版 DB（sbd,sb2）を変換した場合 9,10 項は「設定なし」になります。

■ 第３レコード以降

第３レコードはトレーニング開始時点（時間＝０）での値、以降２０データ／秒です。

１項：左荷重値	小数第１位まで　単位[kg]
２項：右荷重値	〃

８－２　入力補助ファイル形式

○ 共通事項

- テキストファイル１行に１項目を記述します。
- 項目の最大数は１０００です。それを超える部分の表示はしません。
- 空行は無視します。

○ 個別形式

- グループ名入力補助ファイル・担当者名入力補助ファイルの１項目の最大長は全角７文字です。
- グループ名入力補助ファイル・担当者名入力補助ファイルは半角のダブルクォーテーション(")、パーセント(%)、シングルクォーテーション(')、アスタリスク(*)、カンマ(,)は使用できません（読込みは可能ですが、登録できません）。
- 診断名入力補助ファイル１項目の最大長規定はありません。

参考 ソート表示させる場合の記述

全角文字で記述した入力補助ファイルの内容をソートしてリスト表示させる場合、項目の先頭にソート可能な識別情報（例えば半角文字の数字）を付与すると意図した通りにソートされます。

例　001 項目１
　　002 こうもく２
　　003 KOUMOKU3

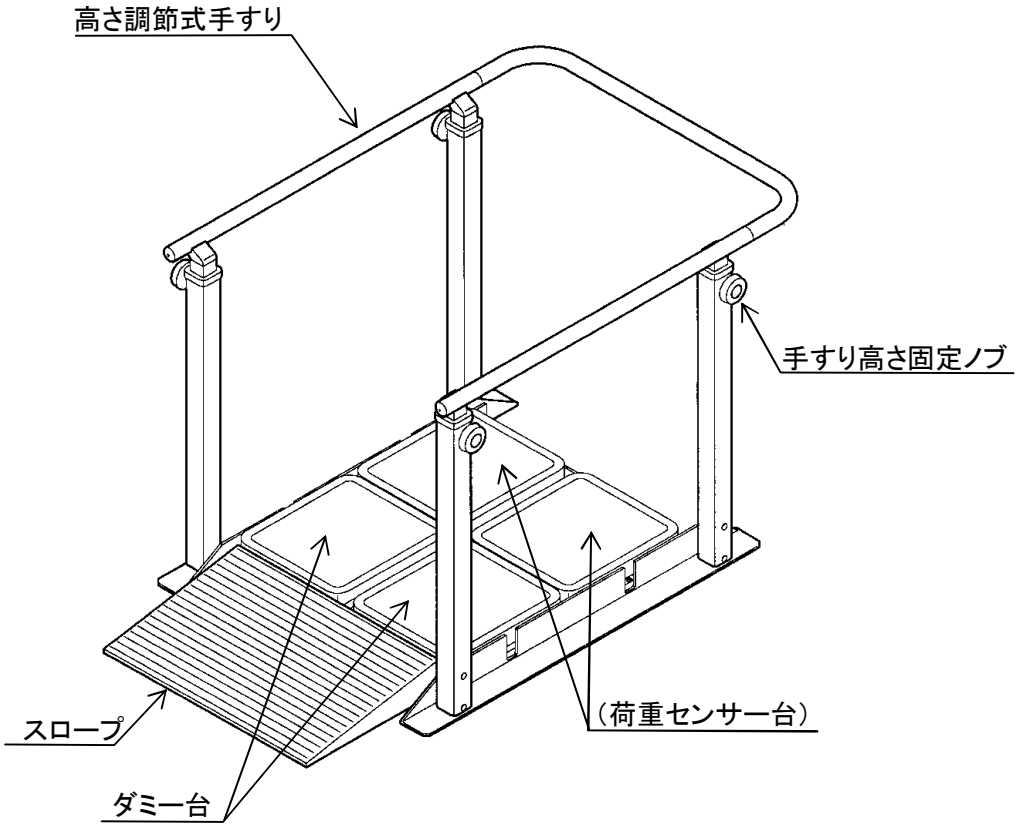
８－３　トレーニング名一覧入出力ファイル形式

○ 共通事項

- ■ テキストファイル１行に１トレーニング名を記述します。
- ■ トレーニング名数は３６です。それ以外の場合、入力できません。
- ■ トレーニング名１項目の最大長は全角１５文字です。
- ■ 空行は無視します。
- ■ 同一のトレーニング名は定義できません。
- ■ 半角のダブルクォーテーション(")、パーセント(%)、シングルクォーテーション(')、アスタリスク(*)、カンマ(,)は使用できません。

９．手すりセット（オプション）の利用方法

荷重センサー台に対し、手すり・スロープ・ダミー台を下図のようにセットします。
荷重センサー台のソケットが手すりフレームの切り欠きの中央に来るようにセットします。

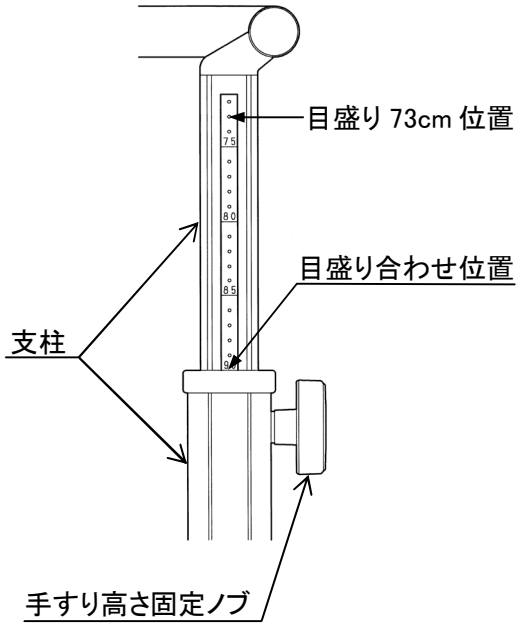


足裏感覚マット：人工芝、筋目ゴム、ピラミッドビニル各4枚

〈 手すり高さの調節方法 〉

手すりの高さは、荷重センサー台及びダミー台の上面より 73～90 ㎝の範囲で調節することができます。調節は、２人で左右同時に行ってください。

①手すりを片方の手で支えながら、左右各２か所の手すり高さ固定ノブを緩めます。
②手すりを任意の高さに動かします。
③手すりの高さは支柱にあるスケールによって表示されますので、４か所すべてのスケールが同じ高さを示すように調節します。
④手すりの高さが決まりましたら、ノブを締めて手すりを固定します。



〈　足裏感覚マットの利用方法　〉

足裏感覚マットは、より高度なバランストレーニングを行うために、荷重センサー台の上に載せて不安定な状態をつくりトレーニングするためのものです。3 種類の中から選択して利用することができます。

足裏感覚マット裏面には滑り止めが貼付されています。はじめて使用するときは、保護シートをはがして使用してください。保護シートをはがした後は、滑り止め面にほこり等がつかないように滑り止め面を向き合わせ、マットを 2 枚一組にして保管してください。

滑り止め面にほこり等がついて滑り止め効果が低下した場合は、濡れた布で拭いたあと乾かしてください。滑り止め効果が回復します。

⚠ 警告

トレーニング前に、手すりを上から押して、しっかり固定されていることを確認してください。

緩んだ状態で使用すると手すりが急に下がり、転倒の恐れがあります。

⚠ 注意

(1)　手すりに荷重をかけ過ぎないで下さい。

手すりに荷重をかけ過ぎると手すりといっしょに転倒する恐れがあります。

(2)　足裏感覚マットを荷重センサー台に載せる場合には、荷重センサー台からずれないように載せてください。

ずれていると、トレーニング中に踏み外して転倒する恐れがあります。

(3)　マット滑り止め面の保護シートは必ずはがして使用してください。

はがさず使用すると、マットがセンサー台からずれて転倒する恐れがあります。

(4)　マットの滑り止め面が汚れた場合は清掃してください。

清掃せずに使用すると、滑り止め効果の低下によりマットがセンサー台からずれて転倒する恐れがあります。

ご注意

荷重センサー台は、もう一方の荷重センサー台、またはダミー台、手すりのフレームに接触しないように置いてください。接触していると正確な測定が出来ない場合があります。

１０．使用上の注意

(1) パソコンはスタティックバランサー専用のため、取り外して他の目的に使わないでください。
(2) 付属のリカバリーディスクは他のパソコンに使用しないでください。
(3) パソコンのリカバリーが必要な際は、弊社営業所までお問い合わせください。データのバックアップをとっていない場合、データがすべて消えてしまいます。
(4) Windows に関するお問い合わせは Microsoft（マイクロソフト）ではなく弊社までお問い合わせください。
(5) 本製品は堅固で水平な床面にてご使用ください。
(6) 振動の多い場所での使用は、避けてください。正確な計測が行えなくなります。
(7) 荷重センサー台およびパソコンは精密機器ですので、大きな衝撃を与えないでください。移動の際にも、衝撃を与えない様に行ってください。
(8) 荷重センサー台に乗る場合には、飛び乗ったりしないでください。また、荷重センサー台の上で飛び跳ねたりしないでください。
(9) スタンド、テーブルを移動する時は、キャスターロックを解除してから移動し、移動後は、キャスターをロックしてください。
(10) スタンド、テーブルを移動の際は、転倒・落下に十分注意してください。
(11) トレーニングソフトウェア起動後最初に条件設定を行う際にキャリブレーションを行いますので荷重センサー台の上には物を置かないでください。そのときの荷重センサー台の状態を初期値としてシステムに取り込みますので、正確な測定ができなくなります。
(12) 被検者の体重は、150 kgまでで設計されています。これを超える場合には、計測不良及び故障の原因となります。
(13) トレーニングを行っていない場合でも荷重センサー台の上に物を置いた状態のままにしないで下さい。
(14) パソコン，ディスプレイにつきましては、各機器の取扱説明書を参照してください。
(15) 付近にマイクロ波，電磁波などを発生する装置がある部屋での使用は避けてください。故障または、誤動作の原因になります。
(16) 各機器は、絶対に改造しないでください。
(17) 濡れた手で、操作しますと感電の恐れがあります。

１１．お手入れの仕方

水を含ませた布を固く絞って拭いてください。
パソコン，ディスプレイなどのお手入れは、各取扱説明書を参照してください。

⚠ 注意

ベンジン，シンナー等の揮発性，可燃性のあるもので拭かないでください。

１２．ソフトウェアのインストール手順

本製品のパソコンの OS を再インストールした状態から、A/D ボードのドライバやソフトウェアをインストールして使用可能にする手順を記したドキュメントがセットアップ CD にあります（¥Doc¥Install フォルダ内)。

１３．このようなときには

症状	原因	対策
キャリブレーション時や計測時に「荷重センサー台からデータ読込に失敗しました。…StaticBalancer を終了させて、パソコンを起動してください。」のメッセージが表示される。	荷重センサー接続ケーブルがＡ／Ｄ変換ボードのソケットにしっかり装着されていない。	Windows を終了／パソコンの電源を切った後にケーブルを確実に装着し、再起動する。
	Ａ／Ｄ変換ボードのドライバ内部でのエラー	Windows を終了／パソコンの電源を切った後に、再起動する。
体重測定時に「測定体重値は 0.*kg でした。荷重センサー台に被検者が乗っているにも関わらず…」のメッセージが表示される。 ※被検者が荷重センサー台に乗っていないで体重測定しても表示されますが、この場合は問題ありません。	荷重センサー接続ケーブルがＡ／Ｄ変換ボードのソケットにしっかり装着されていない。	Windows を終了／パソコンの電源を切った後にケーブルをＡ／Ｄ変換ボードに正しく接続してください。
	荷重センサー接続ケーブルが荷重センサー台に接続されていない。	トレーニングソフトウェアを一旦終了し、ケーブルを荷重センサー台に正しく接続してください。
	キャリブレーション時に被検者が乗っていた。	キャリブレーションをやり直してください。
計測・トレーニング時の荷重値が０[kg]のまま動かない。	荷重センサー接続ケーブルがＡ／Ｄ変換ボードのソケットにしっかり装着されていない。	Windows を終了／パソコンの電源を切った後にケーブルをＡ／Ｄ変換ボードに正しく接続してください。
	荷重センサー接続ケーブルが荷重センサー台に接続されていない。	トレーニングソフトウェアを一旦終了し、ケーブルを荷重センサー台に正しく接続してください。
トレーニング時の荷重表示が明らかに多いあるいは少ない。	キャリブレーション時に荷重センサー台に余計なものが載っていた。	荷重センサー台に余計な物が載っていないことを確認してキャリブレーションをやり直してください。
	キャリブレーション時に振動等による誤差が生じた。	キャリブレーションをやり直してください。
「音声出力＝する」指定をしているが音声が聞こえない。	ディスプレイ－パソコン間のオーディオケーブルが外れている。	オーディオケーブルを正しく接続する。

症状	原因	対策
	ディスプレイ側のボリュームが小さくなっている。	ディスプレイの取扱説明書を参照して、ディスプレイのスピーカーボリュームを調整してください。
	パソコンのスピーカー音量設定が小さくなっている。	Windows の音量設定で音量を調節してください。パソコン本体にボリュームがある場合は調節してください。
ディスプレイに表示されない。	ディスプレイの電源がＯＮになっていない。	ディスプレイ電源プラグが接続されている事を確認して電源スイッチをＯＮに入してください。
	ディスプレイのケーブルがパソコンに接続されていない。	ディスプレイのケーブルをパソコン側に接続してください。
データの更新／追加時に「ファイル%%%を開くことができませんでした。他のユーザーが排他的に開いているか、データを読み取る権限がありません。」というメッセージが表示される。	書き込み不可のドライブにあるデータベースファイルを指定して起動した。	書き込み可能なドライブを使用してください。
印刷ができない。 ※プリンタは本製品の構成品ではありません。	プリンタの電源がＯＮになっていない。	プリンタの電源及びスイッチをＯＮにしてください。
	プリンタケーブルが接続されていない。	プリンタのケーブルをパソコン側に接続してください。
	オンライン状態になっていない。	プリンタの取扱説明書を参照して、オンライン状態にしてください。
	プリンタのドライバソフトがインストールされていない。	ドライバソフトをインストールしてください。

１４．機器の保守・点検

・本製品については、機器の管理者の方が以下の点検項目に基づき、必ず始業点検（日常の製品使用前）を実施してください。
・長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。
・点検時に異常が発見された場合は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
・清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします。

● 始業点検項目

区分	点検内容	点検方法
本体	周囲の障害物の有無	・目視
	配線・コネクター類	・配線は絡み合っていないか ・コネクターは確実に接続されているか ・アースは確実にとれているか
	パソコンの起動	・正常に起動するか
	汚れ・破損などないか	・目視
	キャスターの緩み、ガタつき、抜け出し	・目視及び、触って確認
	ディスプレイの固定	・ディスプレイスタンドにしっかり固定されているか確認
手すりセット（ｵﾌﾟｼｮﾝ）	手すりのノブ・ネジ類の緩み、ガタつき	・固定ノブはしっかり締まっているか ・ネジ類はしっかり締まっているか
	汚れ・破損などないか	・目視

１５．保証とアフターサービス

● 保証書と保証期間

保証書はよく読んで大切に保管してください。保証書がありませんと保証期間中でも代金を請求させていただく場合があります。

保証期間につきましては、正常な状態でご使用いただきながら故障した場合は１年間です。詳しくは保証書をご覧ください。

● 修理を依頼される場合

- 修理を依頼される時は、下記のことをお知らせください。

  機種名　：　*EB-200*
  お買い上げ年月日　：　　年　　月　　日
  故障状況（できるだけ詳細に）
  住所　氏名　電話番号

- メーカーより指示のある時以外は決して開けたり分解したりしないでください。

● 損耗品（使用により、磨耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

- 正常な使用において、交換の目安が**約２年**のもの。
  足裏感覚マット
- 正常な使用において、交換の目安が**約３年**のもの。
  キャスター

● 耐用期間

10 年：保守点検などの当社推奨環境で使用された場合

● 保守部品の保有期間

保守用性能部品の保有期間は、販売中止後 10 年です。ただし、性能部品が製造中止などにより入手不可能になった場合は、保有期間が短くなる場合もあります。

１６．仕様

●ハードウェア仕様

最大荷重	150kg
荷重計測精度	±0.5%FS
電源	AC100V 50/60Hz　15A
電源入力	300VA
質量	荷重センサー台（1 台当たり）　約 6kg パソコンテーブル、パソコン　約 26kg ディスプレイスタンド、ディスプレイ　約 9kg　([1])
オプション	手すり一式　約 50kg 足裏感覚マット（3 種:各 4 枚）　約 2kg

●ソフトウェア仕様

トレーニングモード	4 モード (部分負荷トレーニング×2、バランストレーニング×2)
トレーニング時間	1 分～60 分（可変）
荷重範囲	2～150kg
データサンプリング周波数	20Hz
登録被検者数	1 データベースあたり最大 32,767 件（[2]）
保存トレーニング数	1 被検者あたり最大 32,767 件

[1] パソコン、モニターは変更することがあります。
[2] 実質的にはハードウェア（メモリー、ＣＰＵ、ディスク等）に依存します。快適にお使いいただくには百件程度をお勧めします。